

國立銀行條例

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債證書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨリ銀行紙幣ヲ受取リ引換ノ準備金ヲ設ケ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモノナリ今之ヲ創立スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

○第一章 銀行創立ノ方法、創立證書、銀行定款ノ差出方及ヒ開業免狀ノ下附並ニ諸役員撰任方法等ノ事ヲ明カニス

銀行創立請願ノ件

第一條 此條例ヲ遵奉シ國立銀行ヲ創立セント欲スル者ハ何人ヲ論セス(外國人ヲ除クノ外)五人以上結合シタル人々成規第一條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ其創立願書ヲ大藏省ノ紙幣寮ヘ差出スヘシ紙幣頭之ヲ檢按シ相當ト思慮スルニ於テハ之ヲ大藏卿ニ稟議シテ其銀行創立證書及ヒ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

銀行ヲ創立スルノ模範

第二條 右紙幣頭ノ命ヲ受ケタル人々ハ各其姓名ヲ創立證書ニ記入シ諸般ノ手續ヲ經テ其創立證書ニ紙幣頭ノ承認許可ヲ受ルニ於テハ此條例ニ規定セル箇條ヲ遵奉シ以テ國立銀行ヲ創立スルヲ得ヘシ而シテ其創立證書ニ掲載スヘキ件々ハ左ノ如シ

- 第一 銀行ノ名號
- 但シ此名號ハ紙幣頭ノ承認許可ヲ得テ之ヲ公稱スヘシ
- 第二 銀行ノ本店及ヒ支店(若シ之アラハ)ヲ置クヘキ場所
- 第三 銀行資本金額及ヒ株數

第四 銀行營業ノ年限

第五 株主ノ姓名、住所、屬族、職業(若シ之アラハ)及ヒ其引受タル株式ノ番號、箇數

第六 此創立證書ハ此條例ヲ遵奉シ銀行ノ事業ヲ營ナム株主一同ノ利益ヲ謀ルタメ取極メタル旨

創立證書ノ印紙貼用並ニ其他ノ件

第三條 右創立證書ハ其株主等各記名調印シ之ニ壹錢ノ印紙ヲ貼用シ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ受タルモノタルヘシ斯ク從事シタル創立證書ハ當人ハ勿論其相續人後見人タル者ニ於テモ右創立證書ノ箇條ヲ遵守シ此條例成規ノ旨趣ヲ遵奉スル者トスヘシ

創立證書更正ノ件

第四條 右創立證書ノ箇條ヲ更正スルニハ其社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認許可ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルコトヲ得ヘシ但シ其事件ハ即チ資本金ノ増減及ヒ本店轉移或支店開設等ノ如キ是ナリ而シテ右ノ如ク更正シタル箇條ハ最初右創立證書中ニ記載セシ箇條ト同シク確守スヘシ且右ノ箇條ハ其創立證書ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

但シ右ノ外創立證書中ノ箇條ヲ更正スルヲ得サルヘシ

定款ノ印紙貼用並ニ其他ノ件

第五條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ右創立證書ニ必ス銀行定款ヲ添フヘシ而シテ此定款ハ即チ成規第六條ニ掲クル所ノ雛形ニ準據シ其箇條ヲ悉皆(又ハ若干)記載シ創立證書ト同様株主一同之ニ記名調印シ壹錢ノ印紙ヲ貼用シタルモノタルヘシ

但シ此定款ハ唯紙幣頭ノ承認ヲ得紙幣寮ノ官印ヲ受クルノミニシテ其管轄地方長官ノ

與書鈐印ヲ乞フニ及ハサルヘシ

定款ノ箇條ヲ更正增加及ヒ廢止スルノ件

第六條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ銀行定款中ニ掲ケタル諸款ヲ更正増補シ及ヒ之レヲ廢止スルコトヲ得ヘシ而シテ右ノ如ク更正増補シタル箇條ハ最初右定款中ニ掲載セシ箇條ト同シク確守スヘシ且右ノ箇條ハ其定款ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ニ又ハ添附シ置クヘシ

創立證書並ニ定款差出方ノ件

第七條 創立證書並ニ銀行定款ハ本紙壹通正寫ニ通都合ニ通宛ヲ製シ而シテ創立證書ヘ其管轄地方長官與書鈐印ヲ受ケ銀行定款ト共ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

開業免狀下附ノ件

第八條 紙幣頭ハ右創立證書及ヒ銀行定款ヲ領受シ其銀行株主等此條例第三十條ニ規定スル所ノ割合ヲ以テ資本金ノ入金ヲナセシヤ否ヤノ狀實ヲ検査シ且株主等ノ不正其他百般ノ事務ヲ視察シ不都合アルニ非レハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ開業免狀ヲ下附スヘシ

但シ創立證書銀行定款共本紙ハ記錄寮ニ納メ正寫壹通ハ紙幣寮ノ簿冊ニ綴込ニ壹通ハ紙幣寮ノ官印ヲ鈐シテ開業免狀ト共ニ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ

銀行開業ノ件

第九條 銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ始テ一團ノ會社トナリ何々國立銀行ト公稱シ此條例成規ニ規定シタル箇條ヲ履行シテ國立銀行ノ事業ヲ經營スルヲ得ヘシ

開業免狀創立證書定款ハ確證トセラルノ件

第十條 此條例ニ從ヒ紙幣頭ノ記名調印シタル開業免狀、創立證書、銀行定款ハ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ之ヲ正確ナル證據トシテ採用セラル、ヲ得ヘシ

創立證書並ニ定款ノ寫ヲ各

第十一條 創立證書、銀行定款ノ寫又ハ版本等(用意分配ノ手續了ルノ後)各株主ヨリノ要

株主ヘ付與スルノ件

需アルニ於テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ代價ヲ以テ之ヲ付與スヘシ若シ銀行右付與ノ事ヲ怠慢スルニ於テハ銀行ハ其怠慢時間一日ニ付五圓ニ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ

營業期限並ニ延期ノ件

第十二條 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ鎖店其他ノ事故アルニ非レハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十年ノ間其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ右期限後ハ更ニ私立銀行ノ資格ヲ以テ大藏卿ノ許可ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ然レトモ紙幣發行ノ特許ヲ有シ國立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ許サス(十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正)

社號並ニ社印用法ノ件

第十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ開業免狀ヲ得ルノ日ヨリ社印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省ノ紙幣寮國債寮出納寮ノ三寮ヘ差出スヘシ而シテ銀行ノ諸出願ヲ始メ訴訟、約定、保證及ヒ報告、往復其他一切ノ文書ニ至ルマテ都テ其社號ヲ用井社印ヲ鈐スヘシ

但シ報告、約定、保證等ノ如キ文書ニハ頭取取締役及ヒ支配人ノ名印ヲモ加用スヘシ

銀行ノ諸役員撰任ノ件

第十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ頭取取締役ヲ始メ支配人、書記方、出納方、計算法、簿記方其他適宜ノ役員ヲ撰任シ其職制權限進退及ヒ頭取、取締役交代ノ手續等諸般ノ規約ヲ取極メ之ヲ銀行定款中ニ掲載スヘシ

取締役所持株式ノ制限

第十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ取締役ハ必ス自力ヲ以テ成規第五十一條ニ規定スル所ノ株數ヲ所持シタル者ニシテ其總員ハ五人以上(内一人ハ頭取)タルヘシ而シテ其四分ノ三八其銀行創立ノ地ニ於テ上任前一箇年以上在任シタル者ニ限ルヘシ

頭取取締役 第十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役ハ上任ノ節ニ其地方長官ノ面前ニ於テ誓詞

ヲ爲シ其事務ヲ施行スルニ忠實公平ヲ以テシ且此條例中ノ要旨ニ決シテ背戾セサル旨ヲ認メ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受ケ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ紙幣頭ハ之ヲ領受シテ寮中ノ簿冊ニ綴込ムヘシ

○第二章 銀行資本金ノ制限、公債證書銀行紙幣交收ノ割合並ニ其手續及ヒ引換準備金等ノ事ヲ明カニス

第十七條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ資本金額ハ拾萬圓ヨリ下ル可カラス尤人口拾萬人以上ノ地ニ於テハ貳拾萬圓未滿ノ資本金ヲ以テ創立スルヲ許サス

但シ時宜ニヨリ紙幣頭差支ナシト思考シテ大藏卿ヘノ稟議ヲ經ルニ於テハ五萬圓以上拾萬圓未滿ノ資本金ニテモ創立ヲ許スコアルヘシ

第十八條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル紙幣ハ資本金十分ノ八タルヘシ然レモ大藏卿ハ全國ニ發行スヘキ銀行紙幣ノ總額ヲ制限スルコアルヘシ故ニ新タニ創立ヲ願フ者アルキ其資本金額ヲ節減シ或ハ其創立ヲ許可セサルコアルヘシ尤モ發起人ノ請願ニ依テハ特ニ其發行紙幣ノ割合ヲ節減シテ其創立ヲ許可スルコアルヘシ而シテ各銀行ハ其發行紙幣ノ高ニ應シ四朱以上利付ノ公債證書ヲ時價(時相場ヲ斟酌シ大藏省ニ於テ定ムル所ノ價格)ヲ以テ右紙幣ノ抵當トシ之ヲ出納局ニ預クヘシ(十一年第五號布告ヲ以テ但書共全條改正)但公債證書ノ時價低下スルキハ其銀行ニ命シテ更ニ他ノ公債證書ヲ納メシメ其發行紙

幣ノ額ニ充タシムヘシ 第十九條 右公債證書ハ此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル紙幣ノ抵當ナルヲ以テ出納頭

ハ其銀行永續中ハ正ニ之ヲ預リ置クヘシ而シテ若シ此公債證書ノ内國債寮ニ於テ施行スル所ノ公債支消ノ抽籤ニ當ル者アレハ銀行ハ他ノ公債證書ヲ納メテ之ヲ引換フヘシ

第二十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其紙幣下付高四分ノ一ニ相當スル通貨ヲ以テ發行紙幣引換ノ準備ニ充ツヘシ(十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正)

第二十一條 此條例第四十條四十二條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ資本金額ヲ増減スルコアルニ於テハ前條ニ掲クル所ノ公債證書並ニ銀行紙幣引換ノ準備金モ亦其割合ニ從テ之ヲ増減スヘシ

第二十二條 (十六年第十四號布告ヲ以テ削除ス) 第二十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取支配人ハ公債證書ヲ出納寮ヘ納メ其受取證書ヲ領受シタル後同額ノ銀行紙幣ヲ各種ノ種類ニテ紙幣寮ヨリ受取り之ニ頭取支配人等ノ名印ヲ加用シ以テ銀行營業ノ資本トナスヘシ

第二十四條 右公債證書ノ請取證書ハ紙幣頭出納頭ノ連署調印シタル者タルヘシ尤此公債證書ノ勘査ニ付テハ該兩寮頭互ニ其簿冊ヲ開ラキ須ラク注意ヲ盡シ詳明ニ之ヲ記入シ又互ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

第二十五條 此條例第十八條ニ掲クル所ノ出納頭ニ預ケタル公債證書ハ毎年一度(又ハ數人並ニ委任狀) 第十六類 第二章 銀行 九百十七

ノ件

度)銀行ノ役員出納寮ニ至リテ之ヲ點檢シ其銀行ノ元帳ニ照シテ其種類員額等相違ナキニ於テハ改入ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ之ヲ出納頭ヘ差出スヘシ
但シ右改入出納寮へ出ル時ハ其銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

公債證書換納ノ件

第二十六條 右公債證書ハ銀行ノ都合ニヨリ四朱以上利付ノ他ノ公債證書ヲ以テ之カ引換ヲ申請シ紙幣頭ノ考案ニ於テ差支ナシトセハ其趣ヲ出納頭へ通知シ之ヲ交換下附スヘシ
但シ其引換ヘタル趣並ニ其公債證書ノ種類金額等ハ紙幣出納兩寮ノ簿冊ニ詳記スヘシ
公債證書利息 第二十七條 右公債證書ヨリ生スル年々ノ利息ハ其銀行之ヲ受取り毎年銀行ノ利益精勘定ノ内ニ加ヘテ之ヲ株主一同へ分配スヘシ(十六年第十四號布告ヲ以テ但書ヲ削除ス)

○第三章 株式ノ分割、資本金入金ノ割合、株式没入、株主牒ノ記入、株式ノ賣買及ヒ資本

金増減等ノ事ヲ明カニス

株式分割ノ定規

第二十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ資本金ハ之ヲ株式ニ分割シ百圓又ハ五拾圓又ハ貳拾五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ尤一株百圓ニ分配シタル銀行ノ株式ハ悉皆百圓ノ金高タルヘシ
五拾圓貳拾五圓ノ株式モ亦之ニ準スヘシ
但シ拾萬圓以上ノ資本金ヲ以テ創立スル銀行ナレハ百圓又ハ五拾圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ又拾萬圓未滿五萬圓マテノ資本金ヲ以テ創立スル者ナレハ五拾圓又ハ貳拾五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ

株式ノ所有ハ其望ニ任スル

第二十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ各自ノ望ニ任セ幾株ニテモ之ヲ所持ス

ノ件

ルヲ得ヘシ而シテ其株主ハ何レノ屬族何レノ職務アルニ拘ハラヌ總テ其所持株高相當ノ權利ヲ有シ其銀行營業ニ付テノ損益ハ株高ニ應シテ之ヲ負擔スヘシ
但シ大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係アル者ハ株主トナルヲ許サス

資本金入金割合ノ件

第三十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等ハ開業免狀ヲ得其業ヲ始ムル前ニ於テ少ナクトモ資本金總額十分ノ五ハ必ス之ヲ銀行ニ入金スヘシ而シテ他ノ十分ノ五ハ資本金總額ノ十分一ヲ以テ月賦ト定メ開業免狀ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

資本金集合高届書差出方ノ件

第三十一條 右資本金ノ月賦入金毎ニ其銀行ノ頭取支配人ハ成規第十三條ニ準據シ資本金集合高届書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

株式没入ノ件

第三十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等株金ノ月賦入金ヲ怠ル時ハ頭取取締役等ニ於テ其株ヲ没入シ競賣其他ノ手續ヲ以テ三十日以内ニ之ヲ賣拂ヒ而シテ其入用ヲ差引キ尙ホ過金アレハ之ヲ元株主へ返還スヘシ尤此競賣ニ於テ右株式ヲ買取りタル株主モ亦他ノ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

株式消除ノ件

第三十三條 右競賣ニ於テ其株ヲ買フ者アラサル時ハ是迄入金シタル金高ハ銀行ニ没入シテ其株ヲ消スヘシ尤此消株ニヨリ資本金額此條例第十七條ニ規定スル所ノ制限ヨリ減少スルハ頭取取締役等ハ三十日間ニ之ヲ補ヒ定限ノ高ニ滿タシムヘシ若シ頭取取締役等之ヲ怠ルハ紙幣頭ハ其銀行ニ鎖店ヲ申渡シ更ニ跡引受人ヲ命スヘシ

株主牒ノ製造及ヒ記入ノ方

第三十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株主牒ヲ製シ左ノ要件ヲ記載スヘシ

- 第一 各株主ノ姓名、住所、屬族、職業(若シ之アラハ)
- 第二 各株主ノ所持セル株式ノ番號、箇數
- 第三 入社ノ年月日
- 第四 退社ノ年月日

株主牒(記名ノ件) 第二十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ創立證書ニ記名スル者ハ即チ其銀行ノ株主タルカ故ニ前條ニ規定セル株主牒ニ各其姓名ヲ登記スヘシ且其他何人ニテモ(外國人ヲ除クノ外)爾後其銀行ノ株主タランコトヲ同意シ隨テ其姓名ヲ株主牒ニ登記シタルモノハ又同シク其銀行ノ株主タルノ權利アルヘシ

株主牒檢閱ノ件 第二十六條 右株主牒ハ銀行其開業免狀ヲ領受スルノ即日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘシ而シテ此株主牒ハ營業時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閱スルヲ得ヘシ若シ銀行其檢閱ヲ拒ミタルキハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官吏ヲ派遣シ其本店ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ壹箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ右檢閱ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

株主牒ノ記入修正スルノ件 第二十七條 右株主牒ニ何人カ故ナク姓名ヲ記入セラレ又ハ妄リニ除名セラレ又或ハ退社セシ所以ノ記載ヲ故ナク遷延セラレタル等ノ事アリテ其人之カ爲メ妨碍ヲ受クルニ於テ

ハ其事由ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ銀行ニ命シテ之ヲ修正セシムヘシ

株式賣買讓與ノ件 第二十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株式ハ成規第二十七條三十條ニ規定スル所ノ手續ヲ以テ之ヲ賣買讓與スルコトヲ得ヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ其株式ノ賣買讓與ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

株式賣却讓與ニ於ケル名代人ノ權利 第二十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去スルノ際名代人ヲ以テ株式ヲ賣却讓與スル等ノ事アルキハ假令ヒ此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非スト雖モ記名調印等ノ事ニ至リテハ猶ホ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

資金増加ノ件 第四十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其資本金額ヲ増加スルコトヲ得ヘシ而シテ右増加スヘキ資本金額ノ制限ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ紙幣頭之ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ増加スルニハ紙幣頭ニ申請シ其承認ヲ得テ之ニ從事スヘシ尤全ク入金濟ノ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其増加證書ヲ差出スヘシ

資本金増加ニ付公債證書納方ノ件 第四十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行前條ニ掲クル如ク資本金ヲ増加セシニヨリ公債證書ヲ納メ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ハ現ニ其株主タル者ヨリ増加ノ總額ヲ全ク入金シタル後ニ非レハ之ヲ施行スルコトヲ許サス

資本金減少ノ件 第四十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ格段決議

ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ得ヘシ尤其減少ノ高ハ此條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サス但シ紙幣頭ノ承認ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナクモ三箇月以前ニ於テ資本金ノ減少員額ト其殘リ資本金額トヲ記載シタル報告ヲ製シ適宜ノ手續ヲ以テ之ヲ其預リ金アル得意先ヘ送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其銀行所在ノ地ニ行ハル、三種以上ノ新聞紙ヲ以テ三箇月以上毎日之ヲ公告スヘシ

資本金減少ニ際シ其預金及ヒノ權利

第四十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ減少セントスルニ際シ其銀行ヘ貸金預ケ金等アル者ハ未タ其仕拂期日至ラスト雖モ右減少ヲ施行スヘキ日限前一箇月ノ間ナレハ何時ニテモ左ノ定則ニ準據シ之カ償却ヲ乞フノ權利アルヘシ

第一 凡ソ定期預ケ金アル者ハ其元金並ニ當日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリトス

第二 其他期限未滿タリモ凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノミヲ受取ルノ權利アリトス

資本金減少許可ノ件

第四十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條四十三條ニ掲グル所ノ諸般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少證書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ若シ右第四十二條四十三條ノ規定ニ背戻シ資本金減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ及ヒ期限未滿ノ勘定仕拂ヲ拒ムコアルモハ紙幣頭ハ右資本金減少證書ニ許可ヲ與ヘサルヘシ

○第四章 銀行紙幣ノ製造及ヒ種類、其通用ノ能力、引換場所及ヒ燒捨等ノ事ヲ明カニ

ス

銀行紙幣製造ノ件

第四十五條 此條例ヲ遵奉シテ發行スル所ノ銀行紙幣ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ紙幣頭其製造ノ事務ヲ董括シ極メテ紙質ノ堅牢ト彩紋ノ精緻ヲ要シ深ク贗模ノ弊ヲ豫防スルノ術ヲ盡シテ以テ之ニ從事スヘシ

但シ右銀行紙幣製造ノ入費ハ其銀行ヨリ現費ヲ以テ紙幣寮ヘ納ムヘシ

銀行紙幣ノ種類

第四十六條 右銀行紙幣ノ種類ハ壹圓、貳圓、五圓、拾圓、二十圓、五十圓、百圓、五百圓ノ八種ト定メ銀行ノ望ニ應シテ製造下附スヘシ

但シ五圓以下ノ銀行紙幣ハ其銀行發行總額十分ノ五ヨリ多カラサルヘシ

銀行紙幣下付ノ件

第四十七條 右銀行紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債證書ヲ抵當トシテ發行スルノ旨趣及ヒ其他ノ要件ヲ摘載シ大藏卿並ニ出納頭記録頭ノ印ヲ鈐シ且大藏省並ニ銀行ノ記號、番號ヲ押捺シテ紙幣頭之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ而シテ銀行ニ於テハ之ニ其頭取支配人ノ名印ヲ加用スヘシ

銀行紙幣通用ノ能力

第四十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ諸官廳又ハ銀行、會社其他ヲ論セス日本全國何レノ地ニ於テモ租稅運上、貸借ノ取引、俸給其他一切公私ノ取引ニ於テ都テ政府發行ノ貨幣同様通用スヘシ

但シ公債證書ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用ウルヲ許サス

銀行紙幣引換ノ件

第四十九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ヲ通貨ト引換ヘ

(十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正)

銀行紙幣ヲ拒ミタル者ニ於ケル處分ノ件
損壞銀行紙幣引換並ニ燒捨ノ件

ンコトヲ請求スルモノアルトキハ日本銀行ニ於テ之ヲ引換フヘシ
第五十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲ヲナス者アルニ於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第五十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用中敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルニ於テハ其所持人ハ銀行ニ持參シテ之ヲ引換フヘシ而シテ銀行ハ之ヲ紙幣頭へ差出シ其代リ銀行紙幣ヲ受取ルヘシ○尤右引換銀行紙幣ノ種類、記號、番號、金額等ハ之ヲ紙幣寮ノ公書及ヒ銀行ノ簿冊ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ大藏卿ヨリノ立會ヲ得テ紙幣頭ハ其主任ノ官員ヲシテ銀行役員ノ立會ヲ要シ之ヲ燒捨ニ付スヘシ而シテ其趣ハ尙ホ右簿冊ニ登記シ各記名調印スヘシ

但シ右燒捨ノ後ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ
○第五章 銀行營業ノ本務、公債證書其他ノ賣買並ニ貸附金ノ制限、利息ノ制限、銀行紙幣並ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明カニス

銀行營業ノ本務

第五十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ(引受貸シ抵當貸シノ別ナク)貸附ケ又ハ當座並ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲換ヲ取組ミ又ハ爲換手形、約束手形、代金取立手形其他ノ證書ヲ割引シ又ハ公債證書、外國貨幣並ニ金、銀、銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保護預リ又ハ兩替等ノ事ヲ以テ營業ノ本務トナスヘシ

公債證書ノ賣買ヲ專ラニス

第五十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ本務タルヤ前條ニ掲クル所ノ種類ナルヲ以テ公債證

ルヲ得サルノ件

書ノ賣買ヲナスヲ得ルト雖モ貸附金、預リ金、爲換等ノ如キハ殊ニ銀行ノ主トシテ爲スヘキ營業ノ目的タルニヨリ此等ノ事業ヲ經營セスシテ唯公債證書ノ賣買ヲ專ラニスルヲ許サス

他ノ會社ノ株主トナルヲ得サル件及ヒ地所物件賣買ノ制限

第五十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ前第五十二條ニ掲クル所ノ營業本務ノ外地所家屋其他物件ノ賣買ヲナスヘカラス又職工作业ノ功ヲ興シ及ヒ此等ノ功ヲ興ス會社ノ株主トナルヲ許サス尤左ニ掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買シ又ハ之ヲ引取リ又ハ之ヲ所持スル等ノ事ハ此條例ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ但シ銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フヘシ

第一 銀行ノ業ヲ營ムヘキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ之ヲ買取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第二 滯貸金ノ抵當トシテ質物ニ取りタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第三 貸金返濟ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金ノ代リトシテ引渡サレタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第四 銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノニシテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒトナリタルモノカ又ハ之ヲ引取りタルモノ又ハ右質入ノ流込ミトナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返濟スル爲メニ賣物ニ出シタル地所物件ハ之ヲ買取り之ヲ引

取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第五十五條 前條ニ掲クル所ノ款項中銀行營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外銀行ニ於テ引取リ又ハ買取リタル地所物件ハ遲クモ十箇月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ貸附クル所ノ金額ノ制限ハ一口ニ付資本金總額ノ十分一ヲ限リトナスヘシ

第五十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ貸附金利息ハ政府ニ於テ定メタル一般ノ利息制限法ニ準據スヘシ若シ其限ニ超過スルモノアル時ハ大藏卿ハ其銀行ヲ督責シテ之ヲ其制限ノ割合ニ引直サシムヘシ(十一年第三十一號布告ヲ以テ全條改正)

第五十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其銀行紙幣ヲ抵當又ハ質物トシテ借金ヲナスヘカラス又其銀行ノ株式ヲ抵當ニ取リテ貸付金ヲナスヘカラス又其株ノ買主トナリ又ハ其株主トナルヘカラス然レモ貸付金ノ滯リニテ銀行ノ損失トナルコトアレハ止ムヲ得ス其株ヲ引當ニ取り又ハ買取ルコトヲ得ヘシ尤其株ハ遲クモ六箇月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ諸方ヨリノ預リ金ヲ他ヘ運轉流用スルニハ須ラク之ヲ制限ヲ立テ其預リ金總額ノ内少クモ十分ノ二、五(即チ四分ノ一)ヲ引殘シ之ヲ返却ノ準備トシテ銀行ノ金庫中ニ積立置クヘシ尤内十分一ノ員額ハ政府ノ公債證書ヲ實價ヲ以テ積立ルヲ得ヘシ

但シ此準備金ハ銀行紙幣引換ノ準備金ト混同スヘカラス

發行紙幣準備金ノ制限ヲ超過スルニ於ケルノ件 第六十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノ爲メ銀行紙幣ヲ發行スルニハ此條例第二十條ニ規定シタル準備金ノ割合ヲ超過スヘカラス若シ此割合ヲ超過シテ發行スルハ紙幣頭ハ之ヲ督責シテ速カニ其準備金ヲ増加シ規定ノ割合ニ滿タシムヘキ旨ヲ命スヘシ若シ銀行ニ於テ此命ヲ受ケシ日ヨリ三十日ヲ過キテ尙ホ増加スルコトヲ怠ル時ハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上ケ跡引受人ヲ命スヘシ

準備金不足スルニ際シ株主等一時價辦スルノ負責 第六十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ預リ金ノ返濟又ハ爲換手形約束手形等ノ仕拂ヲナスニ當リ兼テ積置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償フコト能ハサルトキハ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株數ニ應シ別ニ出金シテ一時之ヲ價辦スルノ責ニ任スヘシ但此出金ハ全ク一時價辦ノ爲メニシテ其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之レヲ各株主ヘ返辦スヘシ(十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正)

帳及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス 第六十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ讀易キ書體ヲ以テ其名號ヲ掲牌ニ記載シ之ヲ其銀行ノ店前最モ見易キ所ニ掲クヘシ而シテ其社印ノ彫刻ヨリ諸報告並ニ諸公告、諸證書、諸手形、諸切手ノ類ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用ウル所ノ者ハ亦同シク讀易キ書體ヲ用ウヘシ

銀行名號ノ掲牌及ヒ社印ノ書體 第六十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲ケサルハ銀行ハ其時間一日ニ付五圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配人タルモノ知テ之ヲ

銀行名號ノ掲牌及ヒ社印ノ書體 第六十四條 銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲ケサルハ銀行ハ其時間一日ニ付五圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配人タルモノ知テ之ヲ

爲サシメ或ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ若シ又銀行ノ頭
取取締役支配人其他ノ役員又ハ何人ニテモ前條ノ如ク彫刻セサル社印ヲ用ヒ或ハ人ヲシ
テ之ヲ用井シメ又ハ前條ノ規定ニ悖リタル社號ヲ以テ報告書ヲ出シ或ハ之ヲ出サシメ又
ハ爲換手形、約束手形、切手、證書、注文書、受取證書、受合狀等ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用ウル
者前條ノ規定ニ悖リテ記名調印シ又ハ記名調印セシムルキハ拾圓ヨリ少ナカラス五拾圓
ヨリ多カラサル罰金ヲ納メシメ且右等爲換手形、約束手形、切手、注文書等ニ記載スル所ノ
金額ヲ銀行ヨリ拂渡サ、ルキハ其規定ニ悖リタル役員等ハ自費ヲ以テ右持主ヘ辨償スル
ノ責ニ任スヘシ

銀行ノ名號ヲ
用井タル諸手
形ハ銀行其實
ニ任スルノ件

第六十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行其名號ヲ以テ爲換手形、約束手形ヲ振出シ又ハ之ヲ引
受ケ又或ハ之ニ裏書シタルモノ、如キハ假令ヒ右等ノ取扱ヒ何人ノ手ニ出ルト雖モ此人
苟モ其銀行ノ命任ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之ヲ其銀行ノ爲メニ取扱ヒシ
モノト見做スヘシ

所有物ノ明細
帳及ヒ其取扱
ヒ規定ニ戻リ
タルノ處分

第六十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其所有財產(動產、不動產ノ別ナク)ノ種類員數ハ勿
論其授受賣買及ヒ質入書入委託其他ニ於ケル一切ノ事件ヲ記載セル簿冊ヲ製シ右等ノ舉
アル毎トニ其事由並ニ其種類員數及ヒ質預リ人又ハ受託人等ヲ遺漏ナク記載シ其時々頭
取取締役等之ニ檢印シ常ニ其銀行ニ備置キ以テ債主及ヒ株主等ノ檢閱ニ供スヘシ○若シ
前段ノ記載ナクシテ銀行其所有財產ヲ質入書入シ又ハ之ヲ委託スル等ノ事アルニ當テ其

銀行ノ頭取取締役支配人等知テ之ヲ捨置キ又ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ右役員ハ五
拾圓ヲ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ
但シ右所有財產ノ簿冊ハ即チ其事件ノ正確ナル證據トシテ何レノ裁判所何レノ官廳ニ
於テモ採用セラル、ヲ得ヘシ

營業ノ時間

第六十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業時間ハ其本店支店共定式(又ハ臨時)休暇日ヲ除
クノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時マテタルヘシ尤銀行ノ都合ニヨリ紙幣頭ノ承認ヲ
得ルニ於テハ其營業時間ヲ變更スルヲ得ヘシ而シテ其趣ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ
世上ニ公告スヘシ

但シ爲換並ニ預リ金等ノ仕拂期日若シ定式(又ハ臨時)休暇日ニ當ルモノハ其翌日之ヲ
仕拂フヘシ

○第七章 株主總會ノ定規並ニ格段決議ノ順序、諸簿冊ノ點檢及ヒ檢査ノ手續、諸報告
差出方等ノ事ヲ明カニス

總會ノ定規 第六十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總會ハ每年少クトモ兩度宛之ヲ執行スヘシ尤モ臨時
ノ事件ヲ評決センカ爲メ執行スル所ノ臨時總會ハ此限ニアラス

格段決議ヲ以
テ定款ヲ更正
スルノ件 第六十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ總會ニ於テ次條ニ掲載セル方法ヲ以テ執行セ
シ格段決議ニ於テハ其銀行定款中ニ記載シタル事件箇條ヲ變更訂正スルヲ得ヘシ

格段決議ノ體 第六十九條 凡ソ社中評決スヘキ事件アリテ其議按ヲ出シ其銀行株主臨席ノ總員(本人代
裁) 第十六類 第二章 銀行 九百二十九

人ヲ論セス)四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一旦其大體ヲ決定シ隨テ其旨趣ヲ詳述シテ之カ報告ヲナシ後テ十四日以外一箇月以内ノ時日ニ於テ更ニ執行スル所ノ總會ニ於テ其臨席シタル株主總員ノ同意セル發言投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル者之ヲ格段決議ト稱スヘシ

格段決議ニ於ケル承認ノ件

第七十條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ハ其旨趣頭末ヲ記載シタル書附ヲ刊行シ又ハ謄寫シテ右確定ノ日ヨリ日數十五日(郵便遞送日數ヲ除ク)ノ内ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出シテ其承認ヲ受クヘシ○若シ銀行前段ノ書附ヲ右期日内ニ差出スコトヲ怠ルニ於テハ右ノ日數以後(即チ十六日目ヨリ)ハ怠慢時間一日ニ付十圓ヲ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲナサシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシキハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

格段決議ニ於テ確定シタル箇條ノ寫ヲ分賦スルノ件

第七十一條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ニシテ(此條例第四條六條ニ準據シ)現ニ之ヲ施行スルモノハ右ノ事件ヲ正シク記載シタル寫ヲ各株主ヘ分賦スヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ詐偽ヲ記載スルカ又ハ寫ヲ分賦セサルニ於テハ右寫一通ニ付五圓ヲ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲ爲サシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシキハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

諸簿冊ノ點檢

第七十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ其銀行ノ營業時間中ナレハ何時ニテモ其銀行實際記入スル所ノ諸簿冊及ヒ報告計表ヲ點檢スルヲ得ヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ株主ノ點檢ヲ拒ムキハ五圓ニ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役支配人等

銀行ノ検査

故サラニ之ヲナスカ又ハ知テ之ヲ見逃セシ時ハ右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ
第七十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業實際ヲ詳知監督スル爲メ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ定例臨時ノ別ナク官員ヲ命遣シ銀行一切ノ業體ヲ検査セシムヘシ

検査官ノ規定

第七十四條 右検査ノ官員ハ各銀行ノ本店又ハ支店トモ其營業時間中ナレハ何時ニテモ其用所ニ至リ詳密ニ其諸簿冊計表其他銀行一般ノ業體ヲ検査シ其銀行役員ノ處務此條例成規ニ規定スル所ノ箇條ヲ遵守スルヤ否ヤヲ視察シ而シテ其検査ノ實況ト考按ノ旨趣ヲ書面ニ詳記シ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

株主ノ請願ニヨリ銀行ヲ検査スルノ件

第七十五條 此條令ヲ遵奉スル銀行ノ總株五分一以上ヲ所持スル株主等ヨリノ請願アルニ於テハ紙幣頭ハ官員ヲ命遣シ或ハ其管轄地方官ヘ委托シテ其銀行一切ノ業體ヲ検査セシムルコトアルヘシ但シ其検査ノ實況ト考按ノ旨趣ハ之ヲ書面ニ認メ紙幣頭ヘ差出スヘシ而シテ紙幣頭ハ其寫ヲ其銀行ノ本店並ニ此検査ヲ請願セシ株主等ヘ下附スヘシ

銀行検査ノ制

第七十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行此條例第七十三條七十五條ニ規定スル所ノ検査官員ノ検査ヲ除クノ外他ノ検査ハ一切之ヲ受ケサルヘシ尤諸官廳ノ職掌上ニ於テ國法ヲ以テ検査スルカ如キハ此限ニアラス

定例報告書并
計表ノ件

第七十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ半季及ヒ毎月其事務計算等ノ實際詳明ナル考課狀並ニ報告計表(成規第六十六條ニ規定スル所ノ種類)ヲ製シ本店ハ頭取支配人支店ハ支配人並ニ計算方之ニ記名調印シテ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤其書式ハ紙幣頭ノ指圖ニ從フヘシ

臨時ノ報告並
ニ報告差出方
ヲ怠慢スルニ
於ケルノ處分

但シ右半季報告計表ハ銀行ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ
第七十八條 右定例報告計表ノ外紙幣頭尙ホ要用ト思考スルコトアレハ銀行ニ命シテ臨時ノ報告計表ヲ差出サシムルコトアルヘシ○若シ銀行ノ頭取取締役支配人等右定例或ハ臨時ノ報告ヲ怠リ紙幣頭ノ命スル日ヨリ(郵便遞送日數ヲ除ク)十日以内ニ差出サ、ルキハ十日以外(即チ十一日目ヨリ)ハ一日ニ付五十圓ヨリ少ナカラズ百圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ

利益金分配ノ
方法並滯貸金
ノ件

○第八章 利益金分配ノ方法ヲ明カニス(同上改正)
第七十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ每半季其銀行ノ總勘定ヲナシ其總益金ノ内ヨリ諸雜費並ニ損失補償ノ金額及ヒ滯貸金ノ準備ヲ引去リ其餘ヲ以テ純益金トナシ之ヲ總株主ヘ分配スヘシ尤右利益ノ計算ハ株主ニ分配セサル前十日以内ニ(郵便遞送日數ヲ除ク)大藏卿ヘ差出シ其承認ヲ得テ後之ヲ株主一同ヘ通知シ且新聞紙ヲ以テ世上ニ公告シ而シテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ(同上全條但書共改正)
但槓カナル抵當物或ハ確實ナル引受人アル貸附金ヲ除クノ外其返済期限ヲ過クルコト

税金割合ノ規
定

第六ヶ月以上ニ及フモノハ都テ之ヲ滯貸金ト看做スヘシ
第八十條 (同上) 銀行ハ官廳ノ爲換方ニ從事スルコト及ヒ外國銀行ト聯合スヘカラサル事ヲ明
ラカニス

銀行ハ大藏省
其他ノ爲換方
ヲ勤ムルノ件

第八十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其通常營業事務ノ外大藏卿ノ命令ニ依リ大藏省又ハ各地方官廳其他ノ爲換方ヲ勤ムルコトヲ得ヘシ尤其勤方ノ手續ハ爾時大藏卿ノ考按ニヨリ其筋ヨリ命スル所ノ規定ヲ奉シテ以テ之ニ從事スヘシ

銀行ハ外國銀
行ト聯合スル
ヲ得サルノ件

第八十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ大藏卿ノ命令ヲ奉スルカ或ハ其免許ヲ得ルカニ非レハ内外地ニ設置スル所ノ外國ノ銀行ハ勿論本邦ノ銀行(又ハ交換所等)ト雖モ凡ソ海外ニアルモノト相共ニ聯合シ以テ爲換ヲ取組又ハ其他ノ營業ニ從事スルコトヲ得サルヘシ

銀行役員此條
例ニ背戻スル
ノ處分

○第十章 銀行役員職務上一般ノ制禁及ヒ其負責ノ事ヲ明カニス
第八十三條 國立銀行ノ役員タル者諸相場ニ關シ投機ノ商業ニ從事シ危險ナリト認ムルトキハ大藏卿ハ銀行ニ命シ其役員ヲ退職セシムルコトアルヘシ(同上全條改正)

此條例ニ背戻
スル銀行役員
ノ負責

第八十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等若シ此條例ニ背戻スルコトアリテ夫レカ爲メ株主又ハ其他ノ人ヘ損失ヲ受ケシムルキハ其損失ハ頭取取締役等之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

銀行役員ノ制
禁

第八十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ銀行所有ノ金

銀及ヒ諸證書預リ品等ヲ私用シ又ハ竊掠シ又ハ之ヲ妄用スヘカラス又頭取取締役ノ承認ヲ得スシテ銀行紙幣及ヒ預リ證書ヲ發行シ又ハ諸貸附ヲナシ爲換手形ヲ振出シ又ハ證書及ヒ切手ノ引受ケヲナシ約束手形爲換手形諸證書質物及ヒ公裁ニテ引取リタルモノヲ賣渡スヘカラス又銀行ノ諸簿冊計表報告書其他ノ要書ニ詐僞ヲ記載スヘカラス○若右ノ箇條ヲ犯シテ其銀行又ハ他ノ銀行會社其他ノ者ヲ損害欺騙シ又ハ其銀行ノ役員或ハ検査官員ヲ欺カント謀ル者ハ皆ナ國法ニ從ヒテ之ヲ罰スヘシ

銀行役員其銀
行ヨリ借得ヘ
キ金額ノ制限

第八十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ社中申合規則ノ規定ニ從ヒ尋常借リ得ヘキ金額ノ外ハ自身又ハ仲人等ヲ以テ一切銀行ヨリ借受クヘカラス又其銀行ヨリ借財ヲナス者ノ爲メ其證人又ハ受人トナルヘカラス○若シ右等ノ役員右ノ規定ニ背戻シテ借財ヲナシ又ハ證人受人トナリ又ハ人ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ承諾スル等ノ事アルキハ此等ノ役員ハ拾圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其借財ノ金額ハ其規定ニ背戻セシ者ヨリ速カニ銀行ヘ返濟スヘシ

銀行ノ名ヲ假
リ自用ヲ辨ス
ヘカラサルノ
件

第八十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ其銀行ノ名ヲ假リ以テ自己ノ利益ヲ謀ルハ勿論總テ私用ヲ辨スヘカラス若シ此等ノ役員之ヲ犯シ又ハ人ヲシテ犯サシメ又ハ知テ之ヲ見逃ス者ハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

○第十一章 紙幣及ヒ諸手形類ノ發行並ニ銀行紙幣ノ贋造描改及ヒ其版板彫刻等禁止ノ事ヲ明カニス

紙幣及ヒ諸手
形類發行ノ禁
止

第八十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヲ除クノ外何人又ハ何會社ヲ論セス凡テ紙幣又ハ望次第持參人ヘ仕拂フヘキ約束手形又ハ右類似ノ證書其他政府發行ノ貨幣同様ニ通用スヘキ諸手形又ハ切手ヲ振出シ其引受ヲナシ之ヲ製シ之ヲ發行スルヲ禁ス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ何人ヲ論セス皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

銀行紙幣贋造
及ヒ描改ノ禁
止

第八十九條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル銀行紙幣ハ何人ヲ論セス之ヲ贋造スヘカラス贋造セシムヘカラス贋造スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス贋造ト知リテ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス又其文字畫圖ヲ描改スヘカラス描改セシムヘカラス描改スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス描改セシ紙幣ト知リテ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス

銀行紙幣版板
ノ彫刻及ヒ紙
品製造等ノ禁
止

第九十條 右銀行紙幣ヲ印刷スルニ用ウル所ノ版板又ハ之ニ類似スル者ハ之ヲ私ニ彫刻スヘカラス又ハ私ニ彫刻ヲ命スヘカラス又右銀行紙幣ニ用ウル所ノ紙品又ハ之ニ類似スル紙品ハ之ヲ私ニ製スヘカラス又ハ人ヲシテ之ヲ製セシムヘカラス又ハ之ヲ私ニ所持スヘカラス若シ前第八十九條及ヒ本條ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

銀行紙幣及ヒ
諸手形類ヲ傷
損スルノ禁止

第九十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣又ハ爲換手形、約束手形其他證書ノ類ハ何人ニ限ラス之ヲ切抜キ又ハ切裂キ又ハ剝去リ又ハ塗抹シ又ハ孔ヲ穿チ又ハ糊付ニスル等ノヲナスヘカラス又人ヲシテ此等ノ事ヲナサシムヘカラス若シ此等ノ數

件ヲ犯ス者アルキハ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ
償金ヲ銀行ヘ拂ハシムヘシ

○第十二章 官命鎖店ノ場合特例監督役跡引受人等ノ取扱方並ニ公債證書ノ没入及ヒ
紙幣引換等ノ手續ヲ明カニス(同上改正)

第九十二條 (同上削除)

第九十三條 國立銀行ニ於テ左ニ掲クル事實アルキハ大藏卿ハ鎖店ヲ命スルコトアルヘシ

第一 國立銀行條例ノ旨趣又ハ箇條ニ背戾シ大藏卿其銀行ヲ鎖店セシムルヲ相當ナリト

思考スルトキ(同上全條改正)

第二 國立銀行ニ於テ負債辨償ノ義務ヲ盡ス能ハサル證據アルトキ

第三 國立銀行ニ於テ其資本金總額十分ノ五以上ノ損失ヲ生スルトキ

第九十四條 前條ニ記載スル事實アリト認ムルトキハ大藏卿ハ檢査ノ官員ヲ派遣シ其事實
ヲ推糺セシメ若シ相違ナキニ於テハ都テ其銀行ノ營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スヘ

(同上)

營業停止ノ後
賣買ノ禁止

第九十五條 前條ノ如ク營業ヲ差止メラレタル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ諸手
形、諸證書類又ハ抵當物、地所等ヲ他人ヘ譲リ渡シ又ハ賣渡スヘカラス又他人ヨリ金銀其
他ノ物件ヲ預ルヘカラス若シ頭取取締役支配人其他ノ役員等此箇條ニ背キ或ハ譲リ渡シ
又ハ賣渡シ又ハ預リ又ハ拂方ノ引受ヲナスコトアルニ於テハ紙幣頭ハ督促シテ其金額ヲ償

特例監督役ヲ
命遣シ及ヒ公
債證書ヲ没入
スルノ件

ハシメ之ヲ其元ニ復セシムヘシ

第九十六條 紙幣頭ハ更ニ大藏卿ヘ稟議シ特例ノ監督役ヲ命遣シ其銀行ノ實際諸般ノ取扱
ヲ推究シテ其事實ヲ詳明ニ報知セシムヘシ而シテ其背戾ノ事實相違ナキニ於テハ紙幣頭
ハ其銀行ヨリ出納寮ニ預ケ置キタル公債證書ヲ没入スヘキ旨ヲ(右報知ヲ得タル日ヨリ
三十日以内ニ)申渡シ其公債證書ヲ取上クヘシ

銀行鎖店ニ付
其銀行紙幣官
府ニ於テ引換
ノ件

第九十七條 右諸般ノ手續了リシ後チ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ凡ソ此銀行ノ紙幣ヲ
所持スル者ハ都テ之ヲ大藏省ニ出シテ其引換ヲ乞フヘキ旨ヲ公告シ相當ノ時日ヲ以テ之
ヲ引換遣ハスヘシ而シテ其引換タル紙幣ハ總テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨
テ其趣ヲ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

没入公債證書
賣却ノ件

第九十八條 此條例第九十六條ニ據リ其銀行ヨリ没入シタル公債證書ハ大藏省ノ便宜ニ從
ヒ之ヲ公賣若クハ私賣シ以テ其銀行ノ發行紙幣引換ノ資ニ充ルモノトス但右公債證書ノ
賣却代價紙幣下付高ニ對シ不足アルトキハ大藏卿ハ他ノ債主ニ先チ之ヲ其銀行ノ資産ヨ
リ徵收シ若シ下付高ニ對シ過剩アルトキハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ(同上)

特例監督役ノ
報知ヲ得テ跡
引受人ヲ命ス
ルノ件

第九十九條 此條例第九十六條ニ掲クル所ノ特例監督役ノ報知ヲ得之カ處分ヲナスニ於テ
ハ紙幣頭ハ即チ右銀行ノ跡引受人ヲ命シ其銀行ノ諸簿冊及ヒ各種ノ資産等ヲ取押ヘ諸貸
付金、立替金ヲ取立タル上ニテ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ謀リテ滯リ貸金類及
ヒ銀行ノ所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ其銀行ノ諸借財又ハ預リ金其外ヲ償却シ過金ア

銀行ノ借財償却處分ノ件

レハ株高ニ應シテ之ヲ株主ヘ割返シ不足アレハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所有物ヲ限リテ相當ノ分散ヲナサシムヘシ

第百條 右借財又ハ預リ金等ヲ償却スルニハ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ三箇月間世上ニ公告シ其銀行ニ貸金預ケ金等アル者ハ右期限中ニ申出テシメ其事由ト證書類トヲ檢按シ紙幣頭ハ厚ク之ニ注意シ適正ノ處分ヲ以テ貸方ニ賦當償却スヘシ

銀行鎖店ニ付株主負貴ノ制限

第百一條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ株主等ハ假令其銀行ニ損失又ハ其他ノ事故アリテ其銀行鎖店分散スルコアルモ其株主等ハ其創立證書ニ於テ掲載シタル株式金額ノミヲ損失スルノ外其鎖店分散ニ付テ別ニ賦當出金ヲ受クルノ責メ勿カルヘシ

鎖店處分宥恕ノ件

第百二條 紙幣頭ハ此條例第九十六條ニ掲クル所ノ處分ヲナスニ際シ其銀行ヨリ尙ホ請願スルコアリテ其狀實ヲ具陳スル時ハ監督役ヲ出セシヨリ三十日以内(郵便遞送日數ヲ除ク)ナラハ其地方官廳ニ謀リ更ニ其實況ヲ詳悉シテ全ク其背戻セサルノ實證アルニ於テハ紙幣頭ハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ而シテ之ヲ宥恕スヘシ尤右ノ請願書ハ必ス其地方官廳ヲ經テ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

但シ此宥恕ヲナス時ハ紙幣頭ハ速カニ其趣ヲ出張ノ監督役ニ達シテ暫ラク其處置ニ取掛ルコトヲ見合セシムヘシ

銀行紙幣ノ引換ヲ拒ミタル其處分ニ於ケル諸入費辨

第百三條 此條例ヲ遵奉スル銀行鎖店ノ場合ニ於テ跡引受人ノ入費等ハ總テ相當ノ處分ヲ以テ大藏卿之ヲ取極メ他ノ債主ニ先チ其銀行ノ資産ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ(上同)

債ノ件

○第十三章 銀行平穩鎖店ノ手續及ヒ其紙幣引換方等ノ事ヲ明カニス

平穩鎖店ノ件

第百四條 此條例ヲ遵奉スル銀行三分二以上ノ株主等ノ協議ニ從テ平穩ニ分散又ハ鎖店セントスルニハ其銀行ノ頭取支配人ヨリ其銀行ノ名印ヲ以テ其決議ノ旨趣ヲ紙幣頭ニ申牒シ其承認ヲ得テ後チ三箇月間新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方其他銀行ニ屬スル取引ノ清算ヲ詳載シタル報告ヲ製シテ之ヲ世上ニ公告スヘシ

公債證書ノ下戻及ヒ銀行紙幣流通ノ殘額ヲ處分スルノ件

第百五條 右ノ公告ヲナシタル日ヨリ其銀行ハ其引換ヘタル銀行紙幣ヲ以テ豫テ出納寮ニ預ケ置キタル公債證書ノ内ヲ取戻スコトヲ得ヘシ尤其公告ノ日ヨリ半箇年ヲ過キ其銀行ノ簿冊上ニ於テ尙ホ世上ニ殘在スル銀行紙幣アルニ於テハ其員額丈ケノ通貨ヲ出納頭ニ差出シ右預ケ置キタル公債證書ノ全額ヲ取戻スコトヲ得ヘシ然ル上ハ其銀行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ大藏省ニ於テ之ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ一切其引換ノ責ニ任セサルヘシ

殘在銀行紙幣引換ノタメ通貨領受ノ件

第百六條 右鎖店シタル銀行ヨリ其殘在銀行紙幣引換ノタメ通貨ヲ差出スニ於テハ出納頭ハ之ヲ領受シ其趣ヲ詳記シタル受取證書ヲ製シ之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ 但シ出納頭ハ右受取證書ノ外ニ預リ證書ヲ製シテ之ヲ紙幣頭ヘ回附シ置キ其殘在銀行紙幣引換ノ爲メ右通貨ノ受取方ヲ要スルニ於テハ何時ニテモ之ヲ紙幣頭ヘ渡スヘシ

殘在銀行紙幣引換ノ件

第百七條 右預リ證書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ大藏卿ノ稟議ヲ經テ相當ノ期限ヲ定メ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告シ其殘在銀行紙幣ノ引換方ニ從事スヘシ

引換銀行紙幣燒捨ノ件

第百八條 右ノ手續ヲ以テ引換タル銀行紙幣ハ此條例第五十一條ノ規定ニ從テ之ヲ燒捨シ

其趣ヲ世上ニ公告スヘシ尤右ニ屬スル諸計算其外トモ紙幣頭國債頭出納頭ハ各其簿冊ニ
詳記シ置クヘシ

○第十四章 銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス

訴訟ノ取扱ハ
一般ノ方法ニ
從フヘキ件

第九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行若シ他ノ會社又ハ一般ノ人民ヲ相手取り訴訟
スルカ又ハ他ヨリ此銀行ヲ相手取り訴訟セラル、カノキハ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其裁
判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ

罰金處分ノ件

第十條 此條例ニ於テ規定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ罪科ニ付テハ裁判所(又ハ府縣ノ
聽斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ但シ此條例中現ニ罰金ノ明文無キ箇條ヲ犯スヨアル
キハ其時ニ當リ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ相當ト思考スル罰金(二圓ヨリ
少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル額數)ヲ右犯罪ノ銀行又ハ頭取取締役其他ノ役員ニ命
スヘシ

○第十五章 銀行納税ノ事ヲ明カニス

銀行納税ノ件 第十一條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規
則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

○第十六章 銀行紙幣消却ノ方法ヲ明カニス(十六年第十四號布告ヲ以テ追加ス)

第十二條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ハ左ニ掲クル方法ヲ以テ其營
業年限内ニ悉皆消却スヘキモノトス但其取扱手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ之ニ

從事セシムヘシ(同)

- 一 各國立銀行ノ紙幣引換準備金ハ大藏卿ノ指定スル期限迄ニ日本銀行ニ納付シ營業年
限内之ヲ定期預ケトナシ紙幣消却ノ元資ニ充ツヘシ
- 一 各國立銀行ハ每半季利益金ノ多少ニ拘ラス其銀行紙幣下付高ニ對シ年二分五厘(即チ
一分ニ當ル金額ヲ引去リ之ヲ日本銀行ニ預ケテ紙幣消却等ノ資ニ充ツヘシ)
- 一 日本銀行ハ前二項ニ掲クル金額ヲ預リ各國立銀行ト別段ノ約定ヲ結ビ之カ發行紙幣
ヲ消却シテ大藏省ニ上納スルモノトス但其約定書ハ大藏卿ニ呈シテ之カ與書證印ヲ
受クヘシ
- 一 日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ上納シタルトキハ大藏省ニ於テ此條例第五十一條ノ手續
ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其都度之ヲ公告スヘシ
- 一 日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ大藏省ニ上納シタルトキハ豫テ出納局ニ差出シ置キタル
紙幣抵當公債證書ノ内右消却高ニ相當スル員額ヲ大藏省ヨリ直チニ其銀行ニ還付ス
ヘシ

○第十七章 條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カニス(十六年第十四號布告ヲ以
テ十六章ヲ十七章ト改ム)

條例更正及ヒ
廢止ノ件

第十三條 此國立銀行條例ハ政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ何時ニテモ之ヲ増補シ又
ハ之ヲ更正シ又或ハ之ヲ廢止スルコアルヘシ若シ右増補其他ノ節ハ直チニ其由ヲ世上ニ
公告スヘシ(十六年第十四號布告ヲ以テ第
百十二條ヲ第百十三條ト改ム)

○國立銀行稅額ヲ定ム

十一月九月二十八日
明治九年八月 第六號布告國立銀行條例第十五章稅額ノ儀ハ銀行紙幣下付高ノ千分ノ七ト
相定メ本年七月ヨリ年々徵收候條此旨布告候事

但納期ノ儀ハ一ヶ年兩度ニ割合前半年分ハ七月三十一日限り後半年分ハ一月三十一日
限り其管轄廳ヘ可相納事

○鎖店銀行貸金其他ノ證書中跡引受人裏書繼書式及其濟方處分ヲ定ム
十八年十二月四日
鎖店國立銀行ノ貸金其他ノ證書中跡引受人ヲシテ左ノ書式ノ裏書又ハ繼書ヲナシ處分爲致候モノハ爾後裏書又ハ繼書ノ
記名主之カ債主タルヘシ依テ右證書ニ對スル負債ハ該負債者ヨリ右記名主ニ向ヒ濟方可致者トス
右告示候事

(裏書又ハ繼書書式)但朱書字
表書 繼書ナレハ表書ノ二字 第何國立銀行明治何年何月何日鎖店被申付候ニ付右處分ノ爲メ本證書ハ何縣何郡何町何番
地何ノ誰ヘ相渡候條明治十七年十二月大藏省第四百拾號告示ニ據リ右何ノ誰ヘ負債濟方可被致候事
年 月 日 第何國立銀行跡引受人

姓 名 印
姓 名 印

○銀行紙幣贖造描改處分

十四年十月五日
大藏省達し第四十號府縣
銀行紙幣贖造札描改札處分方ノ儀ハ明治九年四月第五拾七號布告及ヒ同年五月當省甲第十二號布達同年五月當省乙第四十號達
ニ準據候儀勿論ニ候得共右處分方結了ノ上ハ該札相添銀行局ヘ可届出儀ト可相心得且又右第五十七號布告規則第二條等

○銀行紙幣合同消却方法

十六年五月三十日
大藏省番外日本銀行國立銀行
國立銀行條例追加第百十二條ニ據リ日本銀行ニ於テ各國立銀行紙幣ヲ消却スルニ付テハ別冊ノ通合同消却方相定候條右
ニ準據シ不都合無之様處分可致此旨相達候事
別冊

銀行紙幣合同消却方法

- 第一條 日本銀行ニ於テ各國立銀行ノ紙幣ヲ消却スルハ每季紙幣消却元資金ヨリ生スル利子ノ金額ヲ準據トシ總體ノ發
行高ヲ合同シテ便宜之レヲ消却處分スルモノトス故ニ其年ノ都合ニヨリテハ一銀行ノ計算ニ於テ或ハ紙幣發行高ト其
實際ノ消却高トニ過不足ヲ生スル事アルヘシト云レ終期ニ至リテ悉皆其消却ヲ完了スヘキモノトス
- 第二條 日本銀行ハ每季紙幣消却元資金ノ利子ヲ管轄廳ヨリ受取ルルハ其金額ヲ各銀行紙幣發行高ニ對比シテ一行毎ニ
其季ノ消却割付高ヲ算定シ其一覽表ヲ製シテ六月十五日十迄ニ之レヲ大藏省ニ上呈シ各國立銀行ヘハ右期限迄ニ其計
算書ヲ發付シテ當季ニ消却スヘキ銀行紙幣ノ割付高ヲ通知スヘシ
- 第三條 日本銀行ハ前第二條ニ掲グル利子金ヲ以テ消却シタル各銀行紙幣ノ合高ヲ取纏メ其發行店毎ニ之レヲ區別シ其
種類員額及記號番號ノ内譯書ヲ添ヘテ之レヲ大藏省ヘ納付シ大藏省ヨリ請取書ヲ領收スヘシ
- 第四條 右ノ受取證書ヲ領受セハ日本銀行ハ各銀行紙幣消却證書(各行ノ紙幣實際ノ消却多寡ニ拘ハラズ第二條ノ割付
高ニ從フヘシ)及實際消却シタル紙幣ノ種類員額記號番號ノ内譯書ヲ各國立銀行ヘ送付スヘシ
- 第五條 各國立銀行ハ右ノ消却證書ヲ得タルハ紙幣消却ノ旨ヲ大藏省ヘ届出テ紙幣下付高ノ内ヨリ該金額ヲ扣除シテ
高消却ノ書面ヲ作リ之レヲ日本銀行ヘ送付スヘシ

第六條 各國立銀行ヨリ紙幣消却ノ旨ヲ大藏省へ届出タルハ大藏省ハ各銀行紙幣實際消却高ノ多寡ニ拘ハラズ第二條ノ割付消却高ニ從ヒ紙幣抵當公債證書ヲ直チニ各國立銀行ニ下付スルモノトス

第七條 各國立銀行中營業滿期ニ至リ發行紙幣尚殘存スルモノハ日本銀行ニ於テ命令書第三條ニ掲グル公債證書ヲ賣拂ヒ其代金ヲ以テ之ヲ消却シ尚殘額アレハ命令書第二條ニ掲グル公債證書ヲ賣拂其代金ヲ日本銀行ニ預リ置キ以テ右殘存紙幣消却ノ資ニ充ツルモノトス

第八條 各國立銀行中紙幣消却未タ完了セサル場合ニ於テ鎖店スルモノアルハ日本銀行ハ其銀行ヨリ預リタル紙幣消却元資ヲ還付シ而シテ其銀行ニ係ル實際消却高ト割付消却高ト比較シ割付消却高ノ方多額ナルハ大藏省ニ於テ割付消却高ノ殘額ヲ引換消却シ實際消却高ト割付消却高トノ差額ハ日本銀行ヨリ他ノ消却元資ヲ上納セシメ大藏省ニ於テ消却處分スルモノトス若又之ニ反シ實際消却高ノ方多額ナルハ大藏省ニ於テ實際消却高ノ殘額ヲ引換消却シ實際消却高ト割付消却高トノ差額ハ紙幣抵當公債證書ヲ賣却シ其代金ヲ日本銀行へ下付シ他ノ消却元資ニ充タシムヘシ

○國立銀行損傷紙幣交換各國立銀行本支店ニ於テ取扱方十二年二月十日 大藏省達シ第九號府縣

國立銀行損傷紙幣交換方ノ儀ニ付テハ兼テ相達置候趣モ有之候處今般各國立銀行へ別紙ノ通相達候條自今交換不及候此旨相達候事

別紙

各 國 立 銀 行

但本文ノ趣明治八年當省レ第七十四號達ニ準シ管下人民へ普ク論達可致候事

計此旨相達候事

交換金高千圓ニ付貳圓ツ、該銀行ヨリ償還可爲致就テハ交換請求人ヨリ別段手数料切賃等一切受取候儀不相成候事

明治十二年二月十日

大藏卿大隈重信

○鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法二十三年三月二十七日 法律第二十五號

朕鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

法律第二十五號

鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法

第一條 國立銀行條例第九十八條ニ於テ定メタル鎖店銀行紙幣交換基金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ

第二條 毎年度ニ於テ鎖店銀行紙幣交換基金ノ交換未濟トナリタルモノハ漸次之ヲ翌年度へ繰越スヘシ

第三條 鎖店銀行紙幣交換基金ノ收入支出ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本法ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○橫濱正金銀行條例二十年七月六日 勅令第二十九號

朕橫濱正金銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

勅令第二十九號

第十六類 第二章 銀行

橫濱正金銀行條例

- 第一條 橫濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負擔ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス
- 第二條 橫濱正金銀行ハ本店ヲ橫濱ニ設置ス又内外國ニ於テ貿易上要用ナル地ニ支店又ハ出張所ヲ設置シ又他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置若クハ廢止シ又ハ外國銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約若クハ解約スルトキハ其事由ヲ大藏大臣ニ具狀シテ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 橫濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日即チ明治十三年二月二十八日ヨリ滿二十箇年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得
- 第四條 橫濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定メ之ヲ六萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増減ヲ請願スルコトヲ得
- 第五條 橫濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス
- 第六條 橫濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ定款ニ從ヒ賣買讓與スルコトヲ得
- 第七條 橫濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ
 - 第一 外國ノ爲替及荷爲替
 - 第二 內國ノ爲替及荷爲替
 - 第三 貸付

- 第四 諸預金及保護預
- 第五 爲替手形約束手形其他諸證券ノ割引又ハ其代金取立
- 第六 貨幣ノ交換
- 第八條 橫濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證書地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ賣拂フコトヲ得
- 第九條 橫濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ
- 第十條 橫濱正金銀行ハ第七條第八條及第九條ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ許サス
- 第十一條 橫濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除ク外不動産株券其他ノ物件ヲ買取り又ハ引受クルコトヲ得ス
 - 第一 銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルトキ
 - 第二 貸金返濟ノ爲メ負債者ヨリ之ヲ引渡シ又ハ賣却スルトキ
 - 第三 貸金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付シタルトキ
- 第十二條 橫濱正金銀行ハ本行ノ株券ヲ抵當ニ取り又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負債者其辨償ヲ怠リテ他ニ相當ノ抵當ナク若クハ返濟ノ道ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取り又ハ引受クルハ此限ニ在ラス

第十三條 第十一條第二項第三項及第十二條ノ場合ニ於テ不動産株券其他ノ物件ヲ引受ケ
シトキハ必ス十箇月以内ニ之ヲ賣却スヘシ但賣却代價不相當ト認メタルトキハ其事實ヲ
大藏大臣ニ具申シ延期ヲ請フコトヲ得

第十四條 橫濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ支拂フヘキ諸預金ニ對シ其四分ノ一以上ニ
當ル準備金ヲ備ヘ置クヘシ

第十五條 橫濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ其任期ヲ一箇年トシ株主總會ニ於テ其人員
ヲ定メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選舉シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ其滿期
ニ當リ復選セラレ、者モ亦同シ(二十二年二月二日勅令第十號ヲ以テ
本條ヲ改正シ六月一日ヨリ施行ス)

第十六條 頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ但大藏大臣ニ於テ必
要ト思考スルトキハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ橫濱正金銀行頭取ヲ兼テシメ又ハ橫濱正
金銀行頭取ヲシテ日本銀行理事ヲ兼テシムルコトアルヘシ

銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ副頭取一人ヲ互選スルコトヲ得但其職權ハ頭取事故
アルトキ之ヲ代理スルニ止マルモノトス
頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十七條 橫濱正金銀行ハ毎年二回定式株主總會ヲ開キ定款ニ定メタル事項ヲ決定スヘシ
又臨時ノ事件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會ヲ開クコトヲ得
株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ

第十八條 每半季利益金ヲ配當スルトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シテ認可ヲ受クヘ
シ

第十九條 每半季純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フコト

第二 配當金ノ不足ヲ補フコト

第二十條 貸金返濟ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルトキハ其損失ト見積リ
タル金額ニ對シテ準備金ヲ積立ツヘシ

第二十一條 橫濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金ノ半額以上ヲ減少シタルトキ又
ハ此條例ニ背戾シタル所爲アリテ大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ其營業ヲ停止シ
又ハ解散ヲ命スルコトヲ得

又株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ於テハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得但此總
會ニ於テハ株主總員二分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一以上ニ當ル株主出席シ其議決權
ノ三分ノ二以上ニ依テ決議スルモノトス

第二十二條 橫濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戾スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ危
險ナル所爲ト認ムル事件アルトキハ大藏大臣ハ之ヲ制止シ又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコ
トヲ得(同上)

第二十三條 大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ派遣シテ橫濱正金銀行諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十四條 ^(上同) 横濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十五條 横濱正金銀行本支店及出張所ニ於テハ重要ノ文書ニ其本支店若クハ出張所ノ印ヲ押捺スヘシ但横文ヲ以テ發スル文書ニハ之ヲ押捺スルコトヲ要セス

第二十六條 横濱正金銀行ハ明治二十年七月十日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議ヲ以テ更ニ定款ヲ制定シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款ノ改正増補ヲ要スルトキハ亦本條ニ準ス

第二十七條 横濱正金銀行ノ頭取取締役其他ノ役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ三箇月以前ニ之ヲ公布スヘシ

○銀行條例 二十三年八月二十三日 法律第七十二號

朕銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス (二十三年十二月法律第九號ヲ以テ施行期限ヲ二十六年一月一日ト改ム)

御名 御璽

法律第七十二號

銀行條例

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用非ルニ拘ラス總テ銀行トス

第二條 銀行ノ事業ヲ營マントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 銀行ハ每半箇年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條 銀行ハ每半箇年財産目錄貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五條 銀行ハ一人又ハ一會社ニ對シ資本金高ノ十分ノ一ヲ超過スル金額ヲ貸付又ハ割引ノ爲ニ使用スルコトヲ得ス

資本金總額ノ拂込ヲ了ラサル銀行ニ於テハ一人又ハ一會社ニ對シ其拂込高ノ十分ノ一ヲ超過スル金額ヲ貸付又ハ割引ノ爲ニ使用スルコトヲ得ス

第六條 銀行ノ營業時間ハ午前第十時ヨリ午後第四時マテトス但營業ノ都合ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地ニ行ハル、定例ノ休日トス但止ヲ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務ノ實況及財

産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ得

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ營ミタル者ハ商
法第二百五十六條ノ例ニ依テ處分ス

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中若ハ公告中ニ詐
偽ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ商法第二百六十二條ノ例ニ依テ處分ス

第八條ノ検査ヲ受ルコトヲ拒ミタルトキハ商法第二百五十八條ノ例ニ依テ處分ス
第十一條 此條例ハ日本銀行橫濱正金銀行國立銀行ニ適用セス

○貯蓄銀行條例 二十三年八月二十三日
法律第七十三號

朕貯蓄銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘ
キコトヲ命ス(二十三年十二月法律第九號ヲ以テ
施行期限ヲ二十六年一月一日ト改ム)

御名 御璽

法律第七十三號

貯蓄銀行條例

第一條 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス

銀行ニ於テ新ニ一口五圓未満ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リトシテ引受ルトキハ貯蓄銀
行ノ業ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム

第二條 資本金三萬圓以上ノ株式會社ニアラサレハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 貯蓄銀行ノ取締役ハ銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス
但其責任ハ退任後一箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第四條 貯蓄銀行ハ貯蓄拂戻ノ保證トシテ資本入金ノ半額ヨリ少カラサル金額ヲ利付國債
證券ニテ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ

第五條 貯蓄銀行ハ左ニ掲クル事項ノ外其資金ヲ運轉スルコトヲ得ス

第一 貸付

第二 證券ノ割引

第三 國債證券及地方債證券ノ買入

第六條 貯蓄銀行ニ於テ前條ニ依リ貸付ヲ爲スハ其期限六箇月以内ニシテ國債證券地方債
證券ヲ質ト爲シタル場合ニ限ル其割引ヲ爲スハ支拂資力ニ付疑フヘキ理由ノ存セサル者
二名以上ノ裏書アル爲替手形約束手形ニ限ルヘシ

貯蓄銀行ハ國債證券及地方債證券ノ定期賣買ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定款ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認
可ヲ受クヘシ

第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ
認可ヲ受クヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以上五百圓以

下ノ罰金ニ處ス

貯蓄銀行ニアラスシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若
ハ取締役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル

●沿革要領

明治五年十一月第三百四十九號布告ヲ以テ國立銀行條例ヲ制定ス○九年八月第百六號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス○十
一年九月第二十九號布告ヲ以テ國立銀行稅ヲ定ム○十五年六月第三十五號布告ヲ以テ日本銀行條例ヲ制定ス○二十
三年八月法律第七十二號及七十三號ヲ以テ銀行條例及貯金銀行條例ヲ制定ス○同年十二月法律第百九號ヲ以テ銀行
條例及貯金銀行條例ヲ二十六年一月一日ヨリ施行スルヲ命ス

○商法第二百六條ニ依リ發行スヘキ債券ニ關スル件(六法全書民法)

○兌換銀行券條例十七年五月二十六日
布告第十八號

兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治七年九月第百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一ケ年ノ後廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

兌換銀行券條例

第一條 兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ銀貨ヲ以テ兌換ス
ルモノトス

第二條 日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同類ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充

ツヘシ(二十一年七月三十一日勅令第
五十九號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

日本銀行ハ前項ノ外特ニ八千五百萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナ
ル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項八千五百萬圓ノ内
貳千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發
行スルモノトス(二十三年法律第三十四
號ヲ以テ本項中改正ス)

日本銀行ハ市場ノ景況ニ由リ流通貨幣ノ増加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ得
テ前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形
ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ
五ヲ下ラサル場合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ定ム

日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限リ無利子ヲ以テ政府ヘ貸付スヘ
シ(同上)

前項貸付金ノ償還年限及毎年償還金額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條 兌換銀行券ノ種類ハ壹圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓貳百圓ノ七種トス但大藏卿ハ
各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條 兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

第五條 兌換銀行券ハ大藏卿ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時々其

製造高ヲ大藏卿ニ上申スヘシ但其見本ハ發行期日前大藏卿ヨリ告示スヘシ

第六條 兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルキハ日本銀行本店及支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ兌換スヘシ

但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ得(十八年第九號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス)

第七條 金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換ンコトヲ請フモノアルキハ日本銀行本店及支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ交換スルモノトス

第八條 日本銀行ハ兌換銀行券發行額及交換準備ニ關スル出納日表及每週平均高表ヲ製シ之ヲ大藏大臣ニ進達シ且每週平均高表ハ官報ニ廣告スヘシ(二十一年七月三十一日勅令第五十九號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第九條 大藏卿ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理官ニ於テ必要ナリトスルキハ何時ニテモ其手元有高及帳簿ヲ檢査スルコトヲ得

第十條 兌換銀行券ノ染汚毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行本店及支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ引換フヘシ

第十一條 兌換銀行券ノ製造、損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ

第十二條 兌換銀行券ノ偽造變造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

○兌換銀行券ノ贋造描改ニ係ル分取扱方十九年九月二日大藏省令第二十八號

日本銀行ニ於テ發行セシ兌換銀行券ノ贋造及描改ニ係ル分取扱方ノ儀ハ渾テ明治九年四月

第五十七號布告贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則及同年五月當省甲第十二號布達ニ準據スヘシ但第五十七號布告取扱規則第二條ノ場合ニ於テハ日本銀行本支店ヘ引換ヲ請フヘシ

○日本銀行發行贋造描改ノ兌換銀行券取扱方十九年九月二日大藏省訓令第四十二號北海道廳府縣當省令第二十八號贋造及描改ニ係ル兌換銀行券取扱方ノ儀ハ尙ホ明治十四年十一月當省乙第四十號達ニ準據スヘシ

○銀行紙幣贋造描改處分十四年十一月五日(國立銀行條例)大藏省達し第四十號ノ部ニ載ス

○爲替手形約束手形條例十五年十二月十一日布告第五十七號

爲替手形約束手形條例別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

第一章 爲替手形

第一節 爲替手形ノ性質及ヒ法式

第一條 爲替手形ハ振出人ヨリ支拂人ニ當テ記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ拂渡サシムル證券ヲ謂フ

第二條 爲替手形ニハ左ノ件々ヲ記載シ振出人記名調印ス可シ

第十六類 第二章 爲替約束手形

九百五十七

- 一 金額
- 二 振出ノ年月日及ヒ場所
- 三 支拂ノ期限及ヒ場所
- 四 支拂人ノ氏名
- 五 受取人ノ氏名
- 六 受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ支拂フ可キ旨
- 第三條 爲替手形ハ一ノ爲替ニ付キ同文ノ手形ニ通又ハ三通ヲ振出スヲ得此場合ニ於テハ各通ニ番號ヲ附シ内一通ニ對シ支拂ヲ爲シタル時ハ他ノ各通ハ無効タル可キヲ記載ス可シ
- 第四條 爲替手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者トス
- 第二節 支拂期限
- 第五條 爲替手形ノ支拂期限ハ左ノ如ク區別ス
 - 一 一覽拂
 - 二 定期拂
 - 三 一覽後定期拂
- 第六條 一覽拂ノ手形ハ其呈示ヲ受ケタル時直ニ支拂フ可キ者トス
- 第七條 定期拂ノ手形ハ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

- 第八條 一覽後定期拂ノ手形ハ一覽濟ノ日ヨリ其日數ヲ起算シ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス
- 第九條 一覽拂ノ手形及ヒ一覽後定期拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ呈示ス可シ
- 第十條 定期拂ノ期限ハ振出ノ日附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一覽濟ノ日ヨリ六ヶ月以内ト爲ス
- 第三節 爲替資金
- 第十一條 振出人ハ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ交付スルノ義務アル者トス
- 第十二條 振出人ヨリ支拂人ニ對シ貸方計算アル時ハ之ヲ以テ爲替資金ニ供用スルヲ得
- 第四節 裏書
- 第十三條 爲替手形ハ裏書ヲ以テ其所有權ヲ移轉スルヲ得
- 第十四條 裏書ニハ買受人又ハ讓受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ賣渡人又ハ讓渡人氏名住所ヲ記シ調印ス可シ
- 第十五條 裏書人ハ振出人及ヒ自己以前ノ裏書人ト共ニ自己以後ノ裏書人及ヒ手形所持人ニ對シ相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス
- 第十六條 手形ノ裏面ニ餘白ナキ時ハ補箋ヲ爲シ裏書ヲ爲スヲ得
- 第五節 保證
- 第十七條 振出人裏書人及ヒ支拂人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂ヲ保證セシムルヲ得
- 第十六類 第二章 爲替約束手形

保證人ハ其保證ノ旨ヲ手形又ハ別紙ニ記載ス可シ

第十八條 振出人裏書人ノ保證人ハ本人義務ヲ缺タル場合ニ於テ本人ニ代リ他ノ義務者ト相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十九條 保證人支拂ヲ爲シタル時ハ本人ニ代リ其權利ヲ有スル者トス

第六節 引受

第二十條 定期拂手形及ヒ一覽後定期拂手形ノ所持人ハ支拂人ニ其引受ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ其旨及ヒ年月日ヲ手形ニ記載シ記名調印ス可シ

第二十二條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ振出人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ト雖モ其取消ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケサル時ハ所持人ハ引受ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第二十四條 所持人拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人又ハ裏書人ニ通知シテ爲替金額及ヒ諸費用ニ相當スル抵當又ハ保證人ヲ以テ保證ヲ立テシムルコトヲ得

通知ヲ受ケタル裏書人ハ振出人又ハ自己以前ノ裏書人ニ對シ所持人同一ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 振出人又ハ裏書人ノ内既ニ相當ノ保證ヲ立タル者アル時ハ其以後ノ裏書人ハ

保證ヲ立ルノ義務ヲ免ル、者トス

第七節 支拂

第二十六條 手形ニ貨幣ノ種類ヲ記シタル時ハ其貨幣ヲ以テ支拂ヲ可シ

第二十七條 手形所持人ハ支拂期限ニ於テ其支拂ヲ請求ス可シ若シ定式ノ祝日祭日或ハ慣習ノ休業日ニ當ル時ハ其翌日之ヲ請求スヘシ

第二十八條 手形所持人支拂金ヲ請取ル時ハ手形ニ領收ノ旨ヲ記載シ記名調印シテ金額ト引換ヘ支拂人ニ交付ス可シ

第二十九條 一ノ爲替ニ付キ手形數通アル時ハ支拂人ハ其引受ヲ記載シタル手形ニ對シ支拂ヲ爲ス可シ

第三十條 支拂人期限ニ至リ手形ノ支拂ヲ爲サ、ル時ハ手形所持人ハ支拂ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第三十一條 支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル者ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人及ヒ各裏書人ニ通知ス可シ

第八節 拒ミ證書

第三十二條 支拂人手形ノ引受又ハ支拂ヲ拒ム時ハ手形ニ附箋ヲ爲シ其旨及ヒ年月日ヲ記載シ記名調印ス可シ之ヲ拒ミ證書ト爲ス

第三十三條 支拂人拒ミ證書ヲ作ルコトヲ肯セス又ハ其住所分明ナラス又ハ不在ニテ代理人

ナキ時ハ所持人自ラ其始末ヲ記シ記名調印シテ郡區役所若クハ戸長役場ノ證印ヲ受ケ拒
ミ證書ニ代用ス可シ

第二十四條 支拂人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ニ於テハ支拂期限前ト雖モ手形所持人ハ
拒ミ證書ヲ受クルコトヲ得

第九節 償還ノ要求

第三十五條 手形所持人支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其日附ヨリ十五日以内ニ振出人裏
書人ノ中一人若クハ數人ニ對シ爲替手形ノ金額期限後ノ利子及ヒ拒ミ證書并ニ通知ノ費
用ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第三十六條 第三十五條ノ要求ニ對シ償還ヲ爲シタル裏書人ハ其日ヨリ十五日以内ニ自己
以前ノ裏書人又ハ振出人ノ中一人若クハ數人ニ對シ自己ノ償還シタル金額及ヒ其利子ヲ
要求スルコトヲ得

第三十七條 振出人ハ爲替資金ヲ支拂人ニ交付シタルノ故ヲ以テ償還ノ要求ヲ拒ムコトヲ得ス
第三十八條 要求ヲ受ケタル者ハ拒ミ證書ヲ附シタル爲替手形及ヒ證據ヲ添ヘタル計算書
ト引換ヘニ非レハ償還ヲ爲スニ及ハス

第三十九條 第九條ノ呈示期限第二十七條ノ支拂請求期限及ヒ第二十五條第三十六條ノ要
求期限ヲ怠リタル者ハ裏書人及ヒ爲替資金ヲ交付シタル振出人ニ對シ要求ノ權利ヲ失フ
者トス但引受ヲ爲シ若クハ爲換資金ヲ受ケタル支拂人又ハ資金ヲ交付セサル振出人ニ對

シ第九條第二十七條ノ期限ニ係ル者ハ振出ノ日附ヨリ起算シ第二十五條第三十六條ノ期
限ニ係ル者ハ拒ミ證書ノ日附ヨリ起算シテ二ケ年間償還ヲ要求スルコトヲ得

第十節 紛失

第四十條 手形所持人手形ヲ紛失シタル時ハ直ニ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ其手形ノ流通ヲ
止ムル旨ヲ廣告シ又電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ支拂人ニ通知シ其支拂
ヲ止メシム可シ

第四十一條 手形紛失人ハ振出人ニ紛失ノ旨ヲ證シ代手形ヲ請受ケ各裏書人ヲシテ再ヒ之
ヲ裏書セシメ更ニ其手形ヲ流通スルコトヲ得但振出人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシム
ルコトヲ得

第四十二條 手形紛失人代手形ヲ受ケ得サル時ハ支拂期限ニ至リ支拂人ニ對シ真正ノ所持人
タル旨ヲ證明シ支拂ヲ請求スルコトヲ得但支拂人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシムルコトヲ得

第二章 約束手形

第四十三條 約束手形ハ振出人記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ自ラ支拂
フ可キ旨ヲ約束シタル證券ヲ謂フ

第四十四條 約束手形ハ定期拂ニシテ金額ハ貳拾五圓以上ニ限ル者トス

第四十五條 爲替手形ニ付キ定メタル規則ハ第二節第六節其他約束手形ノ性質ニ反スル條
目ヲ除クノ外之ヲ約束手形ニ適用ス可シ

第三章 通則

第四十六條 第三十五條第三十六條ノ要求期限ハ路程ニ要スル日數八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第三十五條第三十六條ノ要求期限及ヒ第九條呈示ノ期限外國ト關係スルモノハ其路程ニ要スル相當日數ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第四十七條 第一節第四節及ヒ第四十三條第四十四條ノ規程ニ合セサル手形ハ裏書ヲ以テ所有權ヲ移轉スルコトヲ得ス

○爲替手形約束手形ニ關スル書式ヲ示ス 十六年一月二十九日 大藏省告示第八號

明治十五年十二月二十五號布告ヲ以テ爲替手形約束手形條例發行相成候ニ付テハ右手形ニ關スル書式ハ總テ別冊雖形ニ準據可致此旨告示候事

(別冊)

第壹號

爲替手形書式(條例第二條)

○ 縦 四 寸 八 分

(○印ハ朱書)

金、〃〃〃圓

番	仕	受	日	期
號	拂	取	附	限
	人	人		

表 〃〃〃〃〃五分

番號	〃〃〃〃〃	〃〃	〃〃	〃〃
割印				
爲替手形				
印紙				
一、金、〃〃〃〃〃圓				
右金額	<small>來何月何日</small> 〃〃〃〃〃	<small>受取人氏名</small> 〃〃〃〃〃	<small>御覽後幾日目</small> 〃〃〃〃〃	〃〃
指圖人へ此手形引換ニ御仕拂可被				
成候也				
年 月 日		<small>何府何町何番地</small>		何 某 印
		〃〃		
		<small>何縣何村何番地</small>		〃〃
		〃〃		
		<small>〃〃支拂人氏名</small>		〃〃

本文金額ノ下ニ西洋數字ヲ以テ更ニ其金額ヲ複記スルモ妨
ナシ尤數字ハ字々密接ニ認メ改竄ノ弊ヲ防クニ注意スヘシ

第十六類

第二章 爲替約束手形

第貳號

同(條例第三條)

番號

印紙

爲替手形

組之一

一金、〃、〃、〃、〃、圓

右金額來何月何日何某殿又ハ同人指圖人へ此手形引換ニ御仕拂可被成候也

但此手形御仕拂之上ハ(組之三)ハ無効タルヘキ事

年月日

何府何町何番地
何 某 印

何府何町何番地
何 某 殿

面

表

第三號

裏書ノ書式(條例第十四條)

此手形若シ組ノ二ナルキハ但書ニ組之一二三云々ト記シ組ノ三ナルキハ但書ニ組之一二三云々ト記スヘシ

裏

表面之金額 〇買受人又ハ讓受人ノ氏名
何某殿又ハ同人指圖人
へ御仕拂可被成候也

面

年月日
何府何町何番地
何 某 印
〇賣渡人又ハ讓渡人氏名

第四號

裏書補箋ノ様式(條例第十六條)

〇本紙

〇補箋

裏

裏書
〃〃〃〃〃

〇裏書ノ書式本紙ノ裏書
ニ同シ

面

、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、

○補箋ヲ付シタル者ノ實印

第五號

別紙保證ノ書式(條例第十七條)

番號	爲替手形
何錢	
印紙	
金、、圓也	
右金額來何月何日何某殿又ハ同人指圖人へ此手形引換ニ御仕拂可被成候也	
年月日	何府何町何番地 何 某 印

何府何町何番地
何 某 殿

○保證ヲ受ル者ノ氏名
何某殿ニ於テ若シ仕拂無之節ハ拙者ニ於テ無相違仕拂可申候也

何府何町何番地
何 某 印

○保證人ノ氏名
右何某保證人
何府何町何番地
何 某 印

保證ノ旨ヲ手形面ニ記載スル片ハ其保證ヲ受ル者ノ氏名ノ次ニ左ノ如ク記載スヘシ

第六號

引受ノ書式(條例第二十一條)

番號	爲替手形
印紙	

第十六類 第二章 爲替約束手形

一金、〃、〃、圓

右金額來ル何月何日何某殿又ハ同人指圖人へ此手形引換ニ御支拂可被成候也

年月日

何府何町何番地

何縣何村何番地

何 某殿

〇本文支拂之儀引受申候也

〇年月日

何 某印

〇支拂人氏名

第七號

金額領收ノ書式(條例第二十八條)

裏書

〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃

面

〇表面之金額正ニ受取候也

〇年月日

何 某印

〇手形所持人氏名

第八號

拒ミ證書ノ書式(條例第三十二條)

本手形ノ金額(此ニ拒却ノ事由ヲ記スヘシ)拙者ニ於テ(引受)支拂ノ請求ニ應シ難ク候也

年月日

何 某印

〇支拂人ノ氏名

第九號

條例第二十三條始末書(支拂人拒ミ證書ヲ作ルヲ肯セサル時ノ文例)

別紙爲替手形(規定ノ期限内ニ於テ引受期日ニ至リ仕拂)ヲ請求セシニ支拂人何某ニ於テ之ヲ拒ミ且拒

第十六類

第二章 爲替約束手形

ニ證書ヲ作ルコトヲ肯セサルニ付條例第二十三條ニ據
リ此ニ其始末ヲ自記致シ候也

何(府縣)何(町村)何番地

年月日

何 某 印

前書ノ趣相違無之候也

○手形所持人氏名

年月日

郡區役所若クハ戸長役場證印

第十號

同(支拂人住所分明ナラサル時ノ文例)

別紙爲替手形(引受仕拂)請求ノ爲メ本手形ニ指示シ
タル支拂人何某住所何(府縣)何(町村)何番地へ差越
候處住所不分明ニ付條例第二十三條ニ據リ此ニ其始
末ヲ自記致シ候也

何(府縣)何(町村)何番地

年月日

何 某 印

前書之趣相違無之候也

郡區役所若クハ戸長役場證印

第十一號

同(支拂人不在ナル時ノ文例)

別紙爲替手形(引受仕拂)請求ノ爲メ支拂人何某方へ
差越候處同人不在ニテ代理人無之ニ付條例第二十三
條ニ據リ此ニ其始末ヲ自記致候也

何(府縣)何(町村)何番地

年月日

何 某 印

前書之趣相違無之候也

郡區役所若クハ戸長役場證印

第十二號

約束手形書式(條例第四十三條)

○寸方爲替手形ニ同シ

金、、、、圓

割印

番 號	受 取 人	期 限	日 附

第十六類

第二章 爲替約束手形

番號

約束手形

印紙

一金、〃、〃、〃、圓也

右金額來何月何日貴殿又ハ貴殿ノ指圖人へ此手形引換ニ無相違支拂可申候也

年月日

何府何町何番地

何 某印

何府何町何番地

何 某殿

〇受取人氏名

何 某印

〇振出人氏名

約束手形ニ關スル裏書、同補箋、保證、領收、拒ミ證書、始末書等ノ書式ハ總テ爲替手形ノ文例ニ準スヘシ

第十七類

第一章 裁判 訴訟 訴訟費用

〇裁判所構成法並施行條例(日本六法全書憲法附錄ニ載ス)

〇裁判所位置及管轄區域二十三年八月十一日法律第六十二號

朕裁判所位置及管轄區域改定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ裁判所構成法實施ノ日ヨリ効力ヲ有ス

御名 御璽

法律第六十二號

裁判所位置及管轄區域別表ノ通改定ス但新置裁判所開廳ノ期日ハ司法大臣之ヲ定ム

裁判所位置及管轄區域表

院 所 控		地方裁判所區裁判所		管 轄	
東 京 府	芝 罘	京 橋 武 藏	國	郡 市 區 町 村	管 轄
東 京 府 內	芝 罘 區	東 京 府 內	東 京 府 內	日本橋區	日本橋區
東 京 府 內	芝 罘 區	東 京 府 內	東 京 府 內	麻布區	赤坂區
東 京 府 內	芝 罘 區	東 京 府 內	東 京 府 內	四谷區	牛込區
東 京 府 內	芝 罘 區	東 京 府 內	東 京 府 內	東多摩郡	小石川區
東 京 府 內	芝 罘 區	東 京 府 內	東 京 府 內	南豐島郡	本郷區

浦和武藏		宇都宮				
浦和武藏		佐野	栃木	大田	眞岡	宇都宮
浦和武藏		安蘇郡	下都賀郡	那須郡	芳賀郡	河内郡
南新座郡 南玉郡 越谷郡 増木郡 和壁郡 粕壁郡 八幡村 岡泉村	南新座郡 南玉郡 越谷郡 増木郡 和壁郡 粕壁郡 八幡村 岡泉村	北足利郡 綾瀨郡 新座郡 南玉郡 越谷郡 増木郡 和壁郡 粕壁郡 八幡村 岡泉村	吹上村 中丸村 桶石村 大宮村 宮原村 上尾村 常光村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村
千駄野村 八條村 内牧村 柏崎村 新方村 大澤村	吹上村 中丸村 桶石村 大宮村 宮原村 上尾村 常光村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村
實ヶ谷村 慈恩寺村 瓜田村 武里村 櫻井村 柳谷村	常光村 原市村 上尾村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村
彦兵衛村 黒久喜村 小春村 豊袋村 大相摸村	鴻瓦村 上平村 日進村 膝子村 大宮村 尾間村 横谷村 美谷本村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村
太田新井村 河野村 下野村 川通村 萩島村 蒲生村	田間宮村 小針村 指扇村 深野村 風作村 榎水村 谷田村 川目村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村
上野田村 百瀬村 岩止村 新和村 出羽村	箕石村 小室村 平方村 丸ヶ崎村 猿ヶ谷村 三木村 神谷村 戸根村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村	大宮村 宮原村 東宮村 大砂村 野田村 青木村 土合村

下妻		龍ヶ崎		麻生		土浦		大田	
下總	常陸	下總	常陸	麻生	土浦	常陸	常陸	常陸	常陸
下總	常陸	下總	常陸	麻生	土浦	常陸	常陸	常陸	常陸
下總 猿島郡	常陸 筑波郡 高波郡 眞壁郡 筑波郡 高波郡 眞壁郡	下總 北相馬郡	常陸 信内郡 河内郡 信太郡 江戶崎町	麻生 鹿島郡 高松村	土浦 筑波郡 朝日村 信太郡 新治郡	常陸 久慈郡 那珂郡 大宮町 八里村	常陸 久慈郡 那珂郡 大宮町 八里村	常陸 久慈郡 那珂郡 大宮町 八里村	常陸 久慈郡 那珂郡 大宮町 八里村
豐田郡	吉沼村 大字安食 吉沼村 五人受 西高野	君賀村 木原村	沼里村 舟島村	中島村 豊郷村 東下村	中家村 東村	瓜連村 巖郷村	瓜連村 巖郷村	瓜連村 巖郷村	瓜連村 巖郷村
西葛飾郡	吉沼村 大字安食 吉沼村 五人受 西高野	沼里村 舟島村	沼里村 舟島村	豊郷村 東下村	東村	上野村 鹽田村	上野村 鹽田村	上野村 鹽田村	上野村 鹽田村
岡田郡	吉沼村 大字安食 吉沼村 五人受 西高野	安中村	安中村	波野村 矢田部村	久賀村 鹿島村	大賀村 小瀬村	大賀村 小瀬村	大賀村 小瀬村	大賀村 小瀬村
結城郡	吉沼村 大字安食 吉沼村 五人受 西高野	君原村 浮島村	君原村 浮島村	中野村 若松村	三島村 菅和村	玉川村 野口村	玉川村 野口村	玉川村 野口村	玉川村 野口村
	吉沼村 大字安食 吉沼村 五人受 西高野	阿見村	阿見村	大野村 輕野村	谷井田村 福岡村	山方村 長倉村	山方村 長倉村	山方村 長倉村	山方村 長倉村

控				
前				
橋				
大田上野	中之條上野	沼田上野	前橋上野	大宮武藏
山新田郡内 毛桐里田村	香妻郡内 草津村	利根郡内 久賀村	山田郡内 小野上村	秩父郡内 大宮町
川内村	原町	北勢多郡	元總社村	大河原村
廣澤村	坂上村		高尾村	大坂村
梅田村	伊參村		高橋村	高坂村
相生村	長野原町		古卷村	唐子村
菰川村	岩島村		明治村	八井村

浦和				
越ヶ谷				
川越武藏	幸手武藏	北葛飾郡内	中葛飾郡内	北足立郡内
北葛飾郡内 成田村	北葛飾郡内 須賀村	北葛飾郡内 幸手町	北葛飾郡内 八木郷村	北足立郡内 北平柳村
上中條村	香野村	高柳村	寶珠花村	鳩ヶ谷村
小曾根村	幡羅郡	高野村	富多村	新郷村
今井村	男衾郡	江面村	南櫻井村	谷塚村
大塚村	兒玉郡	清久村	川邊村	草加町
南河原村	賀美郡	大田村	川邊村	新田村

長野				甲府				掛川					
上諏訪	松本	飯山	長野	谷村	甲府	甲府	掛川	掛川	掛川	掛川	掛川	掛川	掛川
信濃	信濃	信濃	信濃	甲斐	甲斐	甲斐	遠江	遠江	遠江	遠江	遠江	遠江	遠江
諏訪郡	筑摩郡 西筑摩郡 東筑摩郡 南筑摩郡 内	下内郡 高井郡	更級郡 中津郡 信濃郡 共和村 青木島村 植科郡 森村 東條村	南都留郡	南巨摩郡	甲府市	山梨郡 久野郡 天方村 森町 周智郡 佐野郡 内	山梨郡 久野郡 天方村 森町 周智郡 佐野郡 内	山梨郡 久野郡 天方村 森町 周智郡 佐野郡 内	山梨郡 久野郡 天方村 森町 周智郡 佐野郡 内	山梨郡 久野郡 天方村 森町 周智郡 佐野郡 内	山梨郡 久野郡 天方村 森町 周智郡 佐野郡 内	山梨郡 久野郡 天方村 森町 周智郡 佐野郡 内
			倉科村 東條村 豊栄村 寺尾村 清野村 松代町 西條村	北都留郡	西八代郡	西山梨郡 東山梨郡 東八代郡 中巨摩郡 北巨摩郡	城東郡 久野宮村 久野西村 笠西村 金谷町 吉田村 御前崎村 萩村 下川根村 菅山村 初倉村 相良町 勝間田村 白羽村	城東郡 久野宮村 久野西村 笠西村 金谷町 吉田村 御前崎村 萩村 下川根村 菅山村 初倉村 相良町 勝間田村 白羽村	城東郡 久野宮村 久野西村 笠西村 金谷町 吉田村 御前崎村 萩村 下川根村 菅山村 初倉村 相良町 勝間田村 白羽村	城東郡 久野宮村 久野西村 笠西村 金谷町 吉田村 御前崎村 萩村 下川根村 菅山村 初倉村 相良町 勝間田村 白羽村	城東郡 久野宮村 久野西村 笠西村 金谷町 吉田村 御前崎村 萩村 下川根村 菅山村 初倉村 相良町 勝間田村 白羽村	城東郡 久野宮村 久野西村 笠西村 金谷町 吉田村 御前崎村 萩村 下川根村 菅山村 初倉村 相良町 勝間田村 白羽村	城東郡 久野宮村 久野西村 笠西村 金谷町 吉田村 御前崎村 萩村 下川根村 菅山村 初倉村 相良町 勝間田村 白羽村

静岡										富山		高崎	
濱松	吉原	下田	沼津	藤枝	静岡	富山	富山	高崎	高崎	高崎	高崎	高崎	高崎
遠江	駿河	伊豆	伊豆	駿河	静岡	北甘樂郡	北甘樂郡	上野	上野	上野	上野	上野	上野
周智郡 奥山郡 内	山梨郡 西御郡 内	豊田郡 鹿玉郡 内	那賀郡 賀茂郡 内	駿東郡 駿河郡 内	静岡市	北甘樂郡	北甘樂郡	上野	上野	上野	上野	上野	上野
田原村	山名町	磐田郡	熱海村	田方郡	有渡郡	北甘樂郡	北甘樂郡	上野	上野	上野	上野	上野	上野
福島村	西貝村	敷知郡	網代村	中見村	安倍郡	北甘樂郡	北甘樂郡	上野	上野	上野	上野	上野	上野
於保村	豊濱村	長上郡	多賀村	下見村	菟原郡	北甘樂郡	北甘樂郡	上野	上野	上野	上野	上野	上野
		濱名郡	大見村	上見村		北甘樂郡	北甘樂郡	上野	上野	上野	上野	上野	上野
		引佐郡	岩三坂村			北甘樂郡	北甘樂郡	上野	上野	上野	上野	上野	上野

院

新		湯		三		
條		越		後		
長岡越後	古志郡 三島郡 片貝村 飯塚村 大原村 關原村 下桐原村 小島村 尼瀨町	北蒲原郡 東蒲原郡	三島郡 中蒲原郡 越前郡 松尾村 四箇村 横戸村 中合村 漆山村 西川村 中野村 小川村 熊森村 能原村 南蒲原郡 西蒲原郡	下坂井輪村 味方村 南蒲原郡 西蒲原郡	新通村 金卷村 内野村 板井村 七穂村	横田村 高田村 吉高村 野吉村 竹野村 會根村 和納村 五上村 馬場村 角濱村 須田村 新飯田村 松尾村 三上村 吉田村 佐田村 仁津村 國津村 秋津村 小方村 池田村 大關村 地蔵前村 打前村 稻島村 米津村 加納村 櫻井村 船越村 角濱村 白根村 福野村 大花村 湯野村 道上村 共上村 石上村 石上村 木上村 笹山砂村 東太田村 藤生村 粟生村 河原村 赤坂村 曲通村 島通村 中島村 矢野村 岩室村 井隨村
村	古志郡 三島郡 北魚沼郡	北蒲原郡 東蒲原郡	三島郡 中蒲原郡 越前郡 松尾村 四箇村 横戸村 中合村 漆山村 西川村 中野村 小川村 熊森村 能原村 南蒲原郡 西蒲原郡	下坂井輪村 味方村 南蒲原郡 西蒲原郡	新通村 金卷村 内野村 板井村 七穂村	
新發田越後	古志郡 三島郡 片貝村 飯塚村 大原村 關原村 下桐原村 小島村 尼瀨町	北蒲原郡 東蒲原郡	三島郡 中蒲原郡 越前郡 松尾村 四箇村 横戸村 中合村 漆山村 西川村 中野村 小川村 熊森村 能原村 南蒲原郡 西蒲原郡	下坂井輪村 味方村 南蒲原郡 西蒲原郡	新通村 金卷村 内野村 板井村 七穂村	
村上越後	古志郡 三島郡 片貝村 飯塚村 大原村 關原村 下桐原村 小島村 尼瀨町	北蒲原郡 東蒲原郡	三島郡 中蒲原郡 越前郡 松尾村 四箇村 横戸村 中合村 漆山村 西川村 中野村 小川村 熊森村 能原村 南蒲原郡 西蒲原郡	下坂井輪村 味方村 南蒲原郡 西蒲原郡	新通村 金卷村 内野村 板井村 七穂村	
出雲	出雲村 石村 吉高村 宮川村 深澤村 浦原村 大原村 關原村 下桐原村 小島村 尼瀨町	北蒲原郡 東蒲原郡	三島郡 中蒲原郡 越前郡 松尾村 四箇村 横戸村 中合村 漆山村 西川村 中野村 小川村 熊森村 能原村 南蒲原郡 西蒲原郡	下坂井輪村 味方村 南蒲原郡 西蒲原郡	新通村 金卷村 内野村 板井村 七穂村	
脇野	脇野村 大野村 中野村 津島村 才野村 大津村 日吉村 與板村 西山村 中野村 高梨村	北蒲原郡 東蒲原郡	三島郡 中蒲原郡 越前郡 松尾村 四箇村 横戸村 中合村 漆山村 西川村 中野村 小川村 熊森村 能原村 南蒲原郡 西蒲原郡	下坂井輪村 味方村 南蒲原郡 西蒲原郡	新通村 金卷村 内野村 板井村 七穂村	
島崎	島崎村 北山村 本越村 上板村 日越村 塚山村 岩越村 王寺村 天高村 善原村 桐原村 寺泊村 野積村	北蒲原郡 東蒲原郡	三島郡 中蒲原郡 越前郡 松尾村 四箇村 横戸村 中合村 漆山村 西川村 中野村 小川村 熊森村 能原村 南蒲原郡 西蒲原郡	下坂井輪村 味方村 南蒲原郡 西蒲原郡	新通村 金卷村 内野村 板井村 七穂村	

訴

岩村	上田	伊那	飯田	福島	大町
岩村	上田	伊那	飯田	福島	大町
田信濃	田信濃	那信濃	田信濃	島信濃	町信濃
南佐久郡	更級郡 上田郡 下田郡 北佐久郡	上伊那郡 下伊那郡	飯田郡	神坂村 三木村 木祖村 西筑摩郡 内	西筑摩郡 北安曇郡
北佐久郡	更級村 村上山	下伊那郡	飯田郡	神坂村 三木村 木祖村 西筑摩郡 内	西筑摩郡 北安曇郡
新	新	新	新	新	新
湯	湯	湯	湯	湯	湯
越後	越後	越後	越後	越後	越後
西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡
新	新	新	新	新	新
湯	湯	湯	湯	湯	湯
越後	越後	越後	越後	越後	越後
西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡
新	新	新	新	新	新
湯	湯	湯	湯	湯	湯
越後	越後	越後	越後	越後	越後
西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡
新	新	新	新	新	新
湯	湯	湯	湯	湯	湯
越後	越後	越後	越後	越後	越後
西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡	西十嵐郡

奈良		大坂										
高田	松山	奈良	富田	岸和田	堺		天王寺	牧方	茨木	池田	大坂	
大和高市郡	大和宇陀郡	大和	河内	和泉	河内	和泉	河内	河内	攝津	攝津	攝津	大坂
葛上郡	葛下郡	添上郡	石川郡	和泉郡	八上郡	和泉郡	志紀郡	丹北郡	東成郡	豐島郡	西成郡	東大浦村
忍海郡	廣瀬郡	添下郡	道明寺村	布忍村	天美村	大島郡	柏原村	瓜破村	任吉郡	島下郡	能勢郡	西大浦村
		山邊郡	志紀郡	日根郡	松原村		太田村	矢田村				
		平群郡	道明寺村	三宅村			三木本村	志紀村				
		式上郡	道明寺村	惠我村								
		式下郡	道明寺村									

大京												
舞鶴	福知山	峰山	宮津	園部	木津	伏見	京都	相川	糸魚川	高田	六日町	柏崎
丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波
加佐郡	加佐郡	加佐郡	加佐郡	加佐郡	加佐郡	加佐郡	加佐郡	加佐郡	加佐郡	加佐郡	加佐郡	加佐郡
河守上村	河守上村	河守上村	河守上村	河守上村	河守上村	河守上村	河守上村	河守上村	河守上村	河守上村	河守上村	河守上村
河守下村	河守下村	河守下村	河守下村	河守下村	河守下村	河守下村	河守下村	河守下村	河守下村	河守下村	河守下村	河守下村
有路上村	有路上村	有路上村	有路上村	有路上村	有路上村	有路上村	有路上村	有路上村	有路上村	有路上村	有路上村	有路上村
河西村	河西村	河西村	河西村	河西村	河西村	河西村	河西村	河西村	河西村	河西村	河西村	河西村

大津					岡山																			
長濱	彦根	今津	八幡	水口	大津	勝山	津山	笠岡	玉島	新見	高梁	片上												
近江	近江	近江	近江	近江	近江	美作	美作	備前	備前	備前	備前	備前	備前											
阪田郡	犬上郡	高島郡	蒲生郡	甲賀郡	滋賀郡	真島郡	西北條郡 英田郡	小田郡	淺口郡	新見郡 新見村 上刑部村	川上郡 日美村	阿賀郡 阿賀郡内	上房郡 阿賀郡内	和氣郡										
東淺井郡	愛知郡				栗大郡	大庭郡	東南條郡 勝南郡	後月郡	窪屋郡	美穀村 千屋村	富山村	中津井村	磐梨郡											
伊香郡	神崎郡				野洲郡		西々條郡 久米北條郡		下道郡	草間村 菅生村	大和村	上水田村												
西淺井郡							東北條郡 久米南條郡			豐永村 田治部村	水田村	菅部村												
							勝北郡			熊谷村														
							吉野郡			刑部村														

坂

神										戸																																																																															
岡山					村					豐					龍					社					姫					洲					柏					筱					明					伊					神					五																													
備前					備前					岡					岡					野					播					路					本					原					山					石					丹					戸					條																								
日近村					庭瀬村					賀陽郡内					都宇郡					岡山市					岡但馬					岡但馬					播磨					加東郡					神西郡					姫路市					津名郡					水上郡					多紀郡					明石郡					川邊郡					神戶市					大和				
大井村					眞金村					御野郡					二方郡					氣多郡					揖西郡					加西郡					印南郡					三原郡										美濃郡										八部郡					吉野郡																								
足守村					池田村					上道郡					津高郡					出石郡					実粟郡					多可郡					加古郡																				菟原郡																																		
菅谷村					生石村					兒島郡					養父郡					佐用郡					赤穂郡					美含郡					朝來郡					飾東郡					飾西郡					飾東郡					武庫郡					有馬郡																													
福谷村					服部村					赤坂郡					美含郡					赤穂郡					朝來郡					神東郡																																																											
岩田村					阿曾村																																																																																				

審

訴									
和歌山			富山				七尾		
田邊紀伊	妙寺紀伊	和歌山紀伊	杉木新越中	高岡越中	魚津越中	富山越中	輪島能登	高濱能登	七尾能登
東牟婁郡内 大島村	西牟婁郡内 池田村	那賀郡内 伊都郡 有田郡 細野村 上野村 田中村 東貴志村 岩出村 那賀郡内 和歌山市	礪波郡	高岡市	下新川郡	富山市	鳳至郡	羽咋郡	鹿島郡
上南郡村	王子村 長田村	名草郡 上岩出村 中貴志村 中野上村 下神野村	射水郡		上新川郡	上新川郡	珠洲郡		
高城村	龍門村	海部郡 根來村 西貴志村 南野上村 猿川村			婦負郡				
滑川村	狩宿村 麻生津村	小倉村 調月村 東野上村 長谷毛原村							
	上名手村 川原村	九栖川村 安樂川村 北野上村 眞國村							
		山崎村 奥安樂川村 小川村 志賀野村							

第十七類 第一章 裁判

控

金澤					福井				
大聖寺	小松	金澤	小濱	敦賀	大野	武生	三國	福井	
加賀	加賀	加賀	若狹	若狹	越前	越前	越前	越前	越前
江沼郡	別宮村 宮生村 高田村 金野村 沖津村 木津村 小松町 能美郡内	金澤市 能美郡内 中島村	遠敷郡	三方郡	敦賀郡	大野郡	上岬村 常盤村 殿下村 立待村 丹生郡内 今立郡	南條郡	福井市 丹生郡内 西安居村
	河野村 久常村 田川村 新九井村 淺井村 末佐村 安宅町 美村	石川郡 草深村	大飯郡				城崎村 宮崎村 糸生村 朝日村	足羽郡 三方村	吉田郡 國見村
	吉原村 湯江村 福海村 中江村 蓮江村 本折村 今江村	河北郡 砂川村					白山村 志津村 吉川村		
	尾山口村 山ノ島村 江里村 瀬谷村 牧村 大杉村						下岬村 天津村 岡山村		
	白峰村 國造村 古河村 粟津村 白木村 寺井村						越田村 織野村 吉野村		
	宮内村 港野村 長尾村 西野村 千針村 甲村						四萩村 大虫村 菅浦村		

院										
高					松					
松					山					
觀音寺讀岐	九 龜讀岐	三本松讀岐	高 松讀岐	宇和島伊豫	今 治伊豫	西 條伊豫	八幡濱伊豫	大 洲伊豫	松 山伊豫	
豐田郡	阿波郡	大内郡	阿波郡	東宇和郡	越智郡	宇摩郡	西宇和郡	喜多郡	風早郡	松山市
三野郡	那珂郡	大内郡	阿波郡	南宇和郡	野間郡	新居郡	西宇和郡	喜多郡	久米郡	温泉郡
	金山村	三野郡	端岡村	三木郡		四ツノ石村	千丈村	伊豫郡		
	西庄村	多度郡	山内村	香川郡	周布郡	神宮内村	川上山村	和氣郡		
	林田村		西分村	山田郡	桑村郡	磯津村	雙岩村	上浮穴郡		
	松山村		千疋村	小豆郡		伊方村	三瓶村	下浮穴郡		
	王越村		瀧宮村			喜須來村	三島村			

高					德						
知					島						
中 村土佐	須 崎土佐	赤 岡土佐	安 藝土佐	高 知土佐	川 島阿波	脇 阿波	富 岡阿波	撫 養阿波	德 島阿波	新 宮紀伊	御 坊紀伊
幡多郡	高岡郡	香美郡	安藝郡	高知市	麻植郡	美馬郡	那賀郡	板野郡	徳島市	東牟婁郡	日高郡
				土佐郡	阿波郡	三好郡	海部郡		名東郡	中山路村	御坊村
				長岡郡					勝浦郡	北山本村	湯川村
				香川郡					名西郡	佐太田村	松原村
										三輪崎村	和田村
										高田村	白崎村
										古座村	川上村
										高田村	志賀村
										津野村	衣奈村
										三野村	切目村
										田原村	丹生村
										明神村	網生村
										下里村	早原村
										宇久井村	東内原村
										小川村	早原村
										小口村	早原村
										小口村	早原村

第十七類 第一章 裁判

		院 訴 控										
		岐					安濃津龜					
廣 島		高 山	御 旗	大 垣	八 幡	岐 阜	木 本	山 田	上 野	龜 山	四 日 市	松 阪
廣 島 安 藝 郡 海 田 市 町	安藝郡ノ内	大野郡	加茂郡	海西郡	幡美郡	本巢郡	南牟婁郡	三瀬谷村	阿拜郡	鈴鹿郡	三重郡	飯高郡ノ内
	沼田郡	吉城郡	可兒郡	池田郡	厚見郡	北牟婁郡	英虞郡	萩原村	山田郡	朝明郡	桑名郡	飯野郡
	高宮郡	益田郡	土岐郡	多藝郡	各務郡	山縣郡	方鏡郡	武儀郡	羽栗郡	中島郡		
	山縣郡	佐伯郡	不破郡	安八郡								
府中村	戸坂村	矢賀村	奥海田村	温品村	下瀬野村	仁保島村	江田島村					

九百九十五

		名 古 屋										
		新 城 三 河	豐 橋 三 河	西 尾 三 河	岡 崎 三 河	半 田 尾 張	津 島 尾 張	一 宮 尾 張	名 古 屋 尾 張			
安濃津伊勢津市	安濃郡	南設樂郡ノ内	北設樂郡	三上村	下條村	牛川村	美米村					
	安濃郡	高岡村	日吉村	長部村	加茂村	乘本村	金澤村	西郷村				
	安濃郡	安藝郡	河曲郡	一志郡								
	飯高郡ノ内	飯野郡	飯高郡ノ内	飯野郡	飯高郡ノ内	飯野郡	飯高郡ノ内	飯野郡	飯高郡ノ内	飯野郡	飯高郡ノ内	飯野郡
	飯高郡ノ内	飯野郡	飯高郡ノ内	飯野郡	飯高郡ノ内	飯野郡	飯高郡ノ内	飯野郡	飯高郡ノ内	飯野郡	飯高郡ノ内	飯野郡

九百九十四

控										
山										
口										
赤間關長門	萩	柳井津周防			岩國周防	徳山周防	山口	美禰郡	吉敷郡	神石郡
赤間關市 長門郡内 豐浦郡内 角島村 豐西村 豐東村	阿武郡 見島郡 大津郡	玖波郡 勝江村 新庄村	平保村 城生村 坂江村	大島郡 伊保庄南村 熊毛郡内	通川村 川下村 藤谷村	玖波郡 小瀬川村 愛宕村	都濃郡 八代村 熊毛郡内	美禰郡 佐波郡	吉敷郡 佐波郡	神石郡 甲奴郡 芦田郡 品治郡
豐田上村 豐西村 豐東村	見島郡 大津郡	日積村 余田村	三井村 三輪村	伊保庄南村 室津村	賀見村 高根村 本郷村	麻里布村 深須村 河波村	山内西村 山内北村	奴可郡 比和村	甲奴郡 芦田郡 品治郡	神石郡 甲奴郡 芦田郡 品治郡
豐田中村 豐西村 豐東村	見島郡 大津郡	鳴門村 伊陸村	岩田村 周防村	室津村 麻里府村	桑根村 廣中村 秋中村	深須村 河波村 川越村	山内西村 山内北村	奴可郡 比和村	甲奴郡 芦田郡 品治郡	神石郡 甲奴郡 芦田郡 品治郡
豐田下村 豐西村 豐東村	見島郡 大津郡	柳井村	東室村 室積村	上ノ關村 麻里府村	祖生村 高宇村 高森村	米川村 川越村 高森村	山内西村 山内北村	奴可郡 比和村	甲奴郡 芦田郡 品治郡	神石郡 甲奴郡 芦田郡 品治郡
豐田前村 豐西村 豐東村	見島郡 大津郡	柳井津町	光井村 三丘村	佐賀村 田布村	南河内村 橫山村 灘村	玖波村 玖波村 玖波村	山内西村 山内北村	奴可郡 比和村	甲奴郡 芦田郡 品治郡	神石郡 甲奴郡 芦田郡 品治郡
豐田前村 豐西村 豐東村	見島郡 大津郡	古開作村	高島村 高水村	鹽田村 大野村	師木野村 岩國村 北河内村	藤河内村 藤河内村 藤河内村	山内西村 山内北村	奴可郡 比和村	甲奴郡 芦田郡 品治郡	神石郡 甲奴郡 芦田郡 品治郡

島 廣

廣										
島										
福山備後	尾道備後	庄原備後	三次備後	竹原安藝	吳安藝					
福山郡 山手村 田島村 横島村	尾道郡 浦崎村 山南村 松永村 沼隈郡内	庄原郡 山内東村 山内西村	三次郡 高野山村 惠蘇郡内	竹原郡 三津口村 東志和村 寺西村 上里瀬村	吳郡 加茂郡内 中切村 廣切村	安藝郡 安藝郡内 和庄村 警固屋村	安藝郡 安藝郡内 和庄村 警固屋村	安藝郡 安藝郡内 和庄村 警固屋村	安藝郡 安藝郡内 和庄村 警固屋村	安藝郡 安藝郡内 和庄村 警固屋村
千手村 郷分村 千年村	安那郡 百島村 東村 瀬戸村	山内西村 山内北村	三谿郡 口北村 口南村	賀永村 早田原村 西志和村 乃美尾村	川尻村 中黑瀬村	莊山田村 渡子島村	莊山田村 渡子島村	莊山田村 渡子島村	莊山田村 渡子島村	莊山田村 渡子島村
田尻村 神島村	山波村 西村 津ノ郷村	山内北村	口南村	東野村 東高屋村 原村 造賀村	下黑瀬村 内海村	大屋村 本庄村	大屋村 本庄村	大屋村 本庄村	大屋村 本庄村	大屋村 本庄村
走島村 草戸村	高須村 今津村 赤坂村	比和村	口南村	下野村 西高屋村 吉土實村 郡田村	内海村 郷原村	宮原村 蒲刈島村	宮原村 蒲刈島村	宮原村 蒲刈島村	宮原村 蒲刈島村	宮原村 蒲刈島村
熊野村 佐波村	神村 柳津村 金江村	比和村	口南村	吉川村 熊野跡村 次野村 四日市村	野路村 仁方村	嶋山村 倉橋島村	嶋山村 倉橋島村	嶋山村 倉橋島村	嶋山村 倉橋島村	嶋山村 倉橋島村
水吞村 柄町	藤江村 本郷村	比和村	口南村	志和堀村 御菊寺村 川上村 三津村	阿賀村	吉浦村 瀬戸島村	吉浦村 瀬戸島村	吉浦村 瀬戸島村	吉浦村 瀬戸島村	吉浦村 瀬戸島村

長														
福岡			佐賀					長門						
福	岡	久留米	飯塚	甘木	福岡	伊萬里	唐津	武雄	佐賀	嚴原	福江	崎武生	平戸	島原
筑後	筑後	筑後	筑前	筑前	筑前	肥前	肥前	肥前	肥前	對馬	肥前	水壺	肥前	肥前
山門郡内	山門郡内	久留米市	穂波郡	上座郡	福岡市	西松浦郡	東松浦郡	杵島郡	佐賀市	上縣郡	南松浦郡	壺岐郡	北松浦郡	南高來郡
三池郡	下妻郡	大善寺村	嘉麻郡	下座郡	早良郡			藤津郡	佐賀郡	下縣郡		石田郡		
		鳥飼村	駱手郡	夜須郡	粕屋郡				神崎郡					
		荒木村	竹野郡		怡土郡				小城郡					
		三藩村	御原郡		那珂郡				三根郡					
		犬塚村	生葉郡		宗像郡				養父郡					

院														
鳥取					松江									
大	長	溝	米	倉	鳥	西	益	大	濱	今	木	松	船	船
村	肥前	口	子	吉	取	郷	田	森	田	市	次	江	木	木
肥前	長崎市	伯耆	伯耆	伯耆	因幡	隱岐	石見	石見	石見	出雲	出雲	出雲	出雲	長門
北高來郡	西彼杵郡	日野郡	汗入郡	河村郡	鳥取市	周吉郡	美濃郡	那賀郡	那賀郡	安濃郡	神門郡	大原郡	松江市	厚狹郡
東彼杵郡			會見郡	久米郡	高草郡	磯地郡	鹿足郡	呂智郡			出雲郡	仁多郡	島根郡	豐浦郡内
				八橋郡	法美郡	知夫郡					楯縫郡	飯石郡	意宇郡	豐東村
					岩井郡	海士郡							秋鹿郡	
					八上郡								能義郡	
					八東郡									

控

大分			
豆	玉	中	杵
田豐後	津豐後	津豐前	築豐後
熊本市內 阿蘇郡內 山形郡內 上益城郡內	日田郡 豐前 東國東郡內 立見郡內 速見郡內 上玉郡內 西玉郡內 西國東郡內	高家村 南院內村 麻生村 天津村 宇佐郡內 下毛郡內	西國東郡內 朝日郡內 朝日郡內 朝日郡內 朝日郡內 東國東郡內 富來村 武藏村 南安村
錦野村	北馬城村 上伊美村 竹田津村 熊毛村 來浦村 姬島村	明治村 龍王村 津房村 佐田村 和院村	田原村 御越村 山浦村 上村 豐岡村 西武藏村 大內村 朝來村 小原村 西安村 旭日村 豐岡村 柵梁町 日出町 北柵村 八坂村 藤原村 東山香村

崎

大分				柳河筑後		
竹	佐	白	大	行	小	柳河筑後
田豐後	伯豐後	杵豐後	分豐後	車豐前	倉豐前	筑後
直入郡 大野郡內 菅尾村 牧口村 上井田村 土師村	直入郡 小野市村	大野郡內 川登村	北海部郡內 佐賀關町 北津留村 下浦村 大野郡內 大野郡內	田川郡	企救郡	大津村 三叉村 蒲池村
中井田村 大野村	重岡村	田野村	別府村 東大在村 神馬木村 神馬木村 東大在村	築城郡	京都郡	大川村 江上村 大川村
井田村 長谷川村 養老村 上緒村 長谷川村	野津市村	津組村	石垣村 湯平村 市村 小佐井村 丹生村	上毛郡	仲津郡	城島村 川口村 大野島村 青木村 田口村 久室村 久間田村 木佐木村 濱武村
長谷川村 柴原村	南野津村	日代村	海邊村 白杵町 四保戸村			木佐木村
今市村	戶上村	下浦村 下南津留村				

院									
鹿兒島加治木			知覽		鹿兒島		天草肥後		
水引薩摩	鹿屋	加治木	薩摩	大隅	薩摩	鹿兒島	大隅	天草	肥後
日向 南諸縣郡	大隅 南大隅郡 大隅郡	薩摩 北伊佐郡	薩摩 東大隅郡	大隅 始良郡	薩摩 始良郡	鹿兒島 日置郡	大隅 北大隅郡	天草 天草郡	肥後 上津浦村
日向 南諸縣郡	大隅 南大隅郡	薩摩 北伊佐郡	薩摩 東大隅郡	大隅 始良郡	薩摩 始良郡	鹿兒島 日置郡	大隅 北大隅郡	天草 天草郡	肥後 上津浦村
日向 南諸縣郡	大隅 南大隅郡	薩摩 北伊佐郡	薩摩 東大隅郡	大隅 始良郡	薩摩 始良郡	鹿兒島 日置郡	大隅 北大隅郡	天草 天草郡	肥後 上津浦村
日向 南諸縣郡	大隅 南大隅郡	薩摩 北伊佐郡	薩摩 東大隅郡	大隅 始良郡	薩摩 始良郡	鹿兒島 日置郡	大隅 北大隅郡	天草 天草郡	肥後 上津浦村

熊

本

御船肥後				三角肥後		
宮地肥後	八代肥後	山鹿肥後	高瀬肥後	人吉肥後	球磨郡	白水村
阿蘇郡内	八代郡	山鹿郡	高瀬郡	人吉郡	球磨郡	白水村
阿蘇郡内	八代郡	山鹿郡	高瀬郡	人吉郡	球磨郡	白水村
阿蘇郡内	八代郡	山鹿郡	高瀬郡	人吉郡	球磨郡	白水村

第十七類 第一章 裁判

控

城

福											
島											
米	新	山	田	若	平	白	中	郡			
澤羽前	莊羽後最上郡	形羽前	島岩代	松岩代	磐城	磐城	磐城	磐城	磐城	磐城	岩代
東置賜郡内 高島村 糠野目村	米澤市 南置賜郡	山形市 東置賜郡内 中川村	南會津郡	北會津郡内 赤津村	大越郡内 七郷村	田村郡内 磐前郡内	西白河郡	岩瀨郡	宇多郡	田村郡内 三春町 中郷村 澤石村	安積郡内 郡山町 富久山村 小原田村
沖郷村	二井宿村	南村山郡	月形村	耶麻郡	二瀬村	菊多郡	東白川郡	行方郡	御木澤村	山野井村	富田村
吉野村	屋代村	東村山郡	箕輪村	大沼郡	山根村	磐城郡	石川郡	高野村	高野村	喜久田村	大槻村
宮内村	龜岡村	北村山郡	福良村	河沼郡	都路村	榎葉郡	小野新町村	美山村	御隈村	三和村	桑野村
漆山村	和山村	西村山郡		片曾根村	飯根村	標葉郡	瀧根村	宮城村	逢隈村	河内村	多田野村
梨郷村	上郷村			飯根村	常葉村		瀧根村	文宮城村	巖江村	中妻村	片平村

千五

宮

仙											
宮											
福	氣	登	石	古	大	仙	高	延	崎	宮	大
島岩代	仙沼陸前	米陸前	巻陸前	川陸前	河原	臺陸前	千穂日向	岡日向	都城日向	飼肥日向	宮崎日向
信夫郡	本吉郡内 氣仙沼町 御嶽村	本吉郡内 麻崎村	本吉郡内 十三瀬村	本吉郡内 加美郡	磐城伊具郡	陸前柴田郡	西白杵郡	東白杵郡	北諸縣郡	南那珂郡	宮崎郡
伊達郡	唐桑村 大谷村 松岩村	横山村	桃生郡	加美郡	亙理郡	宮城郡	宮城郡	西諸縣郡	北那珂郡	東諸縣郡	大隅大島郡
安達郡	新月村 鹿折村			玉造郡	刈田郡	名取郡					
	戸倉村 大島村			栗原郡	遠田郡	黒川郡					
	本吉村 入谷村										
	歌津村 小泉村										

千四

院												
秋												
田												
野邊地	青森	湯澤	横手	大曲	花輪	大館	能代	本莊	秋田	水澤	磐井	
陸奥	陸奥	羽後	羽後	羽後	鹿角	北秋田	山本	由利	秋田市	膽澤	陸奥	陸奥
下北郡	東津輕郡	雄勝郡	阿蘇郡	平鹿郡	鹿角郡	北秋田郡	山本郡	由利郡	秋田市	膽澤郡	陸奥郡	陸奥郡
野邊地村	森田村	湯澤村	横手町	大曲町	花輪町	大館町	能代町	本莊町	秋田町	水澤町	磐井町	
上北郡												
野邊地村												
大深内村												
横濱村												
六ヶ所村												
甲地村												
天間林村												
七戸村												
浦野館村												

訴

盛岡						山形					
宮	福	遠	花	盛		鶴	酒	長			
古	岡	野	巻	岡		岡	田	井			
陸中	陸奥	陸中	陸中	陸中		羽前	羽前	羽前			
川井村	南閉伊郡	西閉伊郡	西閉伊郡	盛岡市		加茂村	西田川郡	東田川郡			
中閉伊郡	陸奥二戸郡	南九戸郡	小國村	東閉伊郡		鶴岡町	東田川郡	東田川郡			
門馬村	北閉伊郡	北九戸郡	東閉伊郡	北閉伊郡		大宮村	東田川郡	東田川郡			
						福栄寺村	東田川郡	東田川郡			
						大山町	東田川郡	東田川郡			
						西郷村	東田川郡	東田川郡			
						念珠村	東田川郡	東田川郡			
						稻生村	東田川郡	東田川郡			
						豊浦村	東田川郡	東田川郡			
						上郷村	東田川郡	東田川郡			
						大泉村	東田川郡	東田川郡			

テハ重罪公判及民事第二審ヲ除ク外地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル事務ヲ號支部ニ於テハ豫番ヲ要スルモノヲ除ク外地方
 裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事第一審ノ事務ヲ取扱ハシム
 但本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ實施ス

甲號

支 部	管 轄 區 裁 判 所
八王子	八王子
八日市場	八日市場 佐原
木更津	木更津 北條
土 浦	土浦 麻生 龍ヶ崎
下 妻	下妻 下妻
栃 木	栃木 佐野
熊 谷	熊谷 大宮
高 崎	高崎 富岡
濱 松	濱松 掛川
松 本	松本 上諏訪 大町 福島

千十

飯 田	飯田	伊奈
上 田	上田	岩村田
新 發 田	新發田	村上
長 岡	長岡	柏崎 六日町
高 田	高田	糸魚川
相 川	相川	
宮 津	宮津	峯山 福知山 舞鶴
洲 本	洲本	
姫 路	姫路	社 龍野
豐 岡	豐岡	村岡
津 山	津山	勝山
彦 根	彦根	長濱
小 濱	小濱	敦賀
七 尾	七尾	高濱 輪島
田 邊	田邊	御坊 新宮
協 町	協町	川島

第十七類 第一章 裁判

千十一

中津	小倉	久留米	殿原	福江	平戸	米子	西郷	濱田	赤間關	尾道	高山	山田	岡崎	宇和島	中村
中津	小倉	久留米	殿原	福江	平戸	米子	西郷	濱田	赤間關	尾道	高山	山田	岡崎	宇和島	中村
	行串	福島			武生水	溝口		大森	船木	福山		木本	西尾		
								益田					豐橋		
													新城		

乙號

豆田	天草	大島	石卷	白河	平	若松	米澤	酒田	鶴岡	磐井	大曲	弘前	八戸
豆田	天草	大島	石卷	白河	平	若松	米澤	酒田	鶴岡	磐井	大曲	弘前	八戸
			登米			田島	長井			水澤	横手	鯉澤	
			氣仙沼								湯澤	五所川原	

支部管轄區裁判所

沼津	沼津	下田	吉原
谷村	谷村		
園部	園部		
篠山	篠山	柏原	
高梁	高梁	新見	
玉島	玉島	笠岡	
小松	小松	大聖寺	
高岡	高岡	杉木新	
西條	西條	今治	
丸龜	丸龜	觀音寺	
四日市	四日市	龜山	
上野	上野		
三次	三次	庄原	
岩國	岩國	柳井津	
萩	萩		
島原	島原		

唐津	唐津	伊萬里
八代	八代	人吉
延岡	延岡	高千穂
古川	古川	
宮古	宮古	
能代	能代	大館 花輪

○區裁判所出張所管轄區域 二十三年八月二十一日 司法省令第四號

區裁判所出張所管轄區域別冊ノ通改定ス但新置出張所開廳迄其管内登記事務ハ従前ノ管轄廳ニ於テ之ヲ取扱ハシム
(別冊)

區裁判所出張所管轄區域表(略之)

○小笠原島裁判事務權限及控訴裁判管轄ヲ定ム 十四年十月七日 布告第五十六號

小笠原島裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所即チ違警罪裁判所始審裁判所即チ輕罪ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民刑事控訴及重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日

ヨリ施行候條此旨布告候事
但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

○伊豆七島裁判事務及管轄 十四年十月十七日 布告第五十七號

第十七類 第一章 裁判

伊豆七島裁判事務當分該島吏へ民事ハ百圓以下及勸解并ニ刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任シ
民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行
候條此旨布告候事

但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

○治安裁判所出張所ヲ置キ登記事務裁判事務ヲ取扱ハシム 二十一年九月十五日勅令第

六十

四號
朕治安裁判所出張所設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十四號

治安裁判所出張所ヲ置キ登記事務並期日ヲ定メ裁判事務ヲ取扱ハシム其位置及ヒ管轄區
域ハ司法大臣之ヲ定ム

○治安裁判所出張所裁判假規程 二十二年五月二十日勅令第六十七號

朕治安裁判所出張所裁判假規程ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十七號

治安裁判所出張所裁判假規程

第一條 治安裁判所出張所ニ於テ取扱フ民事事件ハ左ノ如シ

- 一 金錢其他換用物若クハ有價證券ノ一定シタル員額又ハ特定ノ物品ニ對スル請求
- 二 建物ノ全部若クハ一部ノ明渡又ハ修繕ノ請求

前二項ノ事件ハ原被告其管轄區域内ニ現在スルカ若クハ原被告共ニ出廷シテ審問裁判
ヲ請フトキニ限ル

三 勸解

第二條 前條ニ記載セル事件タリトモ急速ノ取調ヲ要シ出張裁判開始ノ期ヲ待チ難キモ
ノ又ハ第二ノ事件ニシテ契約ニ付キ争アルモノハ從前ノ通り治安裁判所本廳ニ於テ取
扱ハシム

第三條 出張裁判ノ管轄區域開廷ノ場所及ヒ期日ハ司法大臣ノ告示ヲ以テ之ヲ定ム
出張スヘキ裁判官ハ毎年若クハ每期管轄始審裁判所長之ヲ定ム

第四條 出張裁判官ハ繁難ナリト認ムル事件ヲ治安裁判所本廳ニ移スノ命令ヲ爲スコト
ヲ得

第五條 出張裁判ヲ開クヘキ場所ニ該ル治安裁判所出張所ハ豫シメ訴狀ノ送達其他期日
ニ至リ直チニ審問裁判ヲ爲スニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ
書類ハ原告人ヲシテ送達セシム可シ

第六條 裁判及ヒ命令ノ執行ニシテ開期内ニ終結シ難キモノ及ヒ執行ニ關シ出張裁判閉

期後ニ起ル故障ハ治安裁判所本廳ニ於テ取扱ハシム

○出張裁判ノ儀ニ付心得方 二十二年六月七日 司法省民事局ヨリ裁判所へ通牒民第一三七一號
前橋始審裁判所ヨリ出張裁判ノ義ニ付甲號ノ通牒出シ號ノ通牒令相成候條爲心得此段及通牒候也

別紙

甲號

出張裁判之儀ニ付同

一出張裁判ハ開始前ニ起訴アリタル件ヲ審理判決シ開期中起訴セシ件ハ後期ニ差回シ可然哉將々其期ニ於テ審理判決シ得ル限リハ取扱フヘキモノナルヤ (外二項ノ同アリ民事訴訟法及印紙法ニ依リ消滅ス)
右至急何分ノ指示相成リ度此段相伺候也

明治二十二年五月二十七日

前橋始審裁判所長千谷敏徳

司法大臣伯爵山田顯義殿

乙號

前橋始審裁判所長千谷敏徳

本年五月二十七日庶第二五一號伺出張裁判ノ件ハ左ノ通心得可シ

第一項 開始前ニ起訴シタル件ハ勿論開期中ニ起訴セシ件ト雖モ其期ニ於テ審理判決シ得ルモノハ之ヲ取扱フヘキモノトス (第二項第三項ノ指令ハ同上ニ付除ク)

○裁判官檢察官會同巡視規程 二十年一月二十二日 司法省訓令第四號裁判所

裁判官檢察官會同巡視規程左ノ通相定ム

第一章 裁判官及檢察官ノ會同

第一條 各裁判所 大審院控訴院始審院ノ長ハ明治二十一年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ四月一日ヲ期シ司法省ニ會同ス可シ

第二條 會同裁判官ハ法律規則ノ實際適用上改正増補ヲ要ス可シト認ムルモノ及ヒ第十一條ニ掲ケタル事項ニシテ報告書ニ盡シ難キモノニ付意見ヲ陳述ス可シ

第三條 司法大臣ハ法律規則草案ノ會議ヲ要ス可シト認ムルモノニ付會同裁判官ノ會議ヲ開カシムルヲアルヘシ

第四條 司法大臣ハ法律規則其他ノ事項ニ付書面若クハ口頭ヲ以テ會同裁判官ニ諮問シ其意見ヲ陳述セシムルヲアルヘシ

第五條 検事長 大審院控訴院ヲ包含ス及ヒ各始審裁判所上席檢事ハ明治二十年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ四月一日ヲ期シ司法省ニ會同スヘシ

第六條 會同檢察官ハ其主管事務ニ關スル法律規則ノ改正増補ヲ要ス可シト認ムルモノ及ヒ第十五條ニ掲ケタル事項ニシテ報告書ニ盡シ難キモノニ付意見ヲ陳述ス可シ

第七條 裁判官會同ニ付キ第三條第四條ニ定メタル規則ハ檢察官會同ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第二章 裁判官及ヒ檢察官ノ巡視

第八條 各控訴院長ハ明治二十二年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ四月一日各廳ヲ發シ其管内ノ各始審裁判所ヲ巡視スルコトヲ得

東京大坂ノ兩控訴院長ハ司法大臣ノ認可ヲ經テ管内ヲ二區ニ分割シ其院ノ評定官一名ヲシテ一區ノ巡視ヲ分擔セシムルコトヲ得

第九條 各始審裁判所長ハ明治二十年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ九月十一日各廳ヲ發シ其管内ノ各支廳治安裁判所ヲ巡視スルコトヲ得

第十條 (明治廿二年司法省訓令第四號ヲ以テ削除)

第十一條 (同上)

第十二條 控訴院長始審裁判所長ハ巡視ヲ終リタル後二十日內ニ視察ノ事項ヲ記載シタル報告書ヲ作リ直ニ之ヲ司法大臣

第十七類 第一章 裁判

臣ニ送呈スヘシ

第十三條 各控訴院檢察長ハ明治二十一年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ九月十一日各廳ヲ發シ其管内ノ各始審裁判所ヲ巡視スルコトヲ得

第八條第二項ハ東京大坂兩控訴院檢察長ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 各始審裁判所上席檢事ハ明治二十二年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ九月十一日各廳ヲ發シ其管内ノ各支廳治安裁判所ヲ巡視スルコトヲ得

第十五條 檢察官巡視ニ付テハ左ノ條件ヲ視察スルヲ以テ緊要トス

一 檢察事務

二 未決囚監獄ノ狀況

三 司法警察事務

四 法律命令執行ノ利弊

五 代官人ニ關スル事務

六 司法大臣ヨリ特ニ命セラレタル事項

第十六條 裁判官巡視ニ付第十二條ニ定メタル規則ハ檢察官巡視ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第十七條 第八條第九條第十三條及ヒ第十四條ニ記載シタル各官ハ司法大臣ノ認可ヲ經テ發廳ノ定日ヲ變更スルコトヲ得

○各始審裁判所支廳上席判事檢事管内治安裁判所巡視及其報告書差出方 二十年三月五日 司法省訓令第十一

號控訴院始審裁判所同

支廳上席判事上席檢事

各始審裁判所支廳上席判事ハ本廳長ノ代理ヲ爲シ上席檢事ハ本廳上席檢事ノ職務ヲ行フヲ以テ爾後上席判事ハ本廳長上席檢事ハ本廳上席檢事管内巡視ノ毎翌年四月一日其廳ヲ發シ各支廳管内治安裁判所ヲ巡視スルコトヲ得但其規程ハ裁判官

檢察官會同巡視規程第二章始審裁判所長及上席檢事ニ付定メタル條則ニ準シ報告書ハ本廳ヲ經由シテ司法大臣ニ送呈スル儀下心得可シ

○沖繩縣及小笠原島裁判官檢察官ノ職務 二十一年五月十四日 勅令第三十五號

朕沖繩縣及小笠原島ニ於ケル裁判官檢察官職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三十五號

沖繩縣及小笠原島ニ於テハ當分ノ内同廳官吏ヲシテ裁判官檢察官ノ職務ヲ行ハシム

○清國並朝鮮國駐在領事裁判規則 廿一年十月廿三日 勅令第七十一號

朕清國並朝鮮國駐在領事裁判規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十一號

清國並朝鮮國駐在領事裁判規則

第一條 清國并朝鮮國駐在ノ日本帝國領事ハ其管轄内ニ在ル日本人民ニ對スル民事訴訟

及ヒ公訴私訴ニシテ治安裁判所違警罪裁判所始審裁判所輕罪裁判所ノ權限ニ屬スルモ

ノヲ審判スルノ權ヲ有ス但治安裁判所違警罪裁判所ノ權限ニ屬スル事件ニ付領事ノ爲

シタル裁判ハ終審ノ裁判ナリトス

第二條 豫審判事ノ職務ハ領事之ヲ行ヒ檢察官ノ職務ハ副領事警察官若クハ領事館書記

第十七類 第一章 裁判

生之ヲ行フ

第三條 裁判所書記ノ職務ハ領事館書記生若クハ其他ノ館員之ヲ行フ

第四條 輕罪ニ付テハ豫審ヲ爲サ、ルモトス

第五條 重罪ニ關スル豫審ノ手續及ヒ豫審終結ノ言渡ニ付故障ヲ爲スコトヲ許サス但豫

審終結ノ言渡ニ對シテハ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第六條 治罪法ニ定ムル忌避回避ノ規則ハ之ヲ適用セス

第七條 民事訴訟及ヒ公訴私訴ノ裁判ニ對スル控訴ハ長崎控訴院重罪ニ係ル公判ハ長崎

重罪裁判所ノ管轄トス

第八條 民事訴訟及ヒ私訴ノ裁判ニ對スル控訴上告ハ本人若クハ代言人ノ出廷ヲ要セス

書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得禁錮ノ言渡ヲ除クノ外公訴ノ裁判ニ對スル控訴モ亦同シ

第九條 此規則ニ於テ領事ト稱スルハ總領事領事又ハ其代理及ヒ委任狀ヲ有シタル副領

事又ハ其代理ヲ云フ

○裁判事務心得 八年六月八日 布告第百三號

今般裁判事務心得左之通相定候條此旨布告候事

第一條 各裁判所ハ民事刑事共法律ニ從ヒ遲滯ナク裁判スヘシ疑難アルヲ以テ裁判ヲ中

止シテ上等ナル裁判所ニ伺出ルヲ得ス但シ刑事死罪終身懲役ハ此例ニ非ス

第二條 凡ソ裁判ニ服セサル旨申立ル者アル時ハ其裁判所ニテ辨解ヲ爲スヘカラス定期

ニ依リ期限内ニ控訴若クハ上告スヘキ事ヲ言渡スヘシ

第三條 民事ノ裁判ニ成文ノ法律ナキモノハ習慣ニ依リ習慣ナキモノハ條理ヲ推考シテ

裁判スヘシ

第四條 裁判官ノ裁判シタル言渡ヲ以テ將來ニ例行スル一般ノ定規トスルヲ得ス

第五條 頒布セル布告布達ヲ除クノ外諸官省隨時事ニ就テノ指令ハ將來裁判所ノ準據ス

ヘキ一般ノ定規トスルヲ得ス

○裁判事務心得中慣習ノ儀ニ付指令ノ旨ヲ達ス 十二年二月二十五日 司法省達丁第九號大審院諸裁判所

本年丁第壹號達靜岡裁判所エ指令ノ義別紙ノ通改達候條此旨可心得事

(別紙)

靜岡裁判所エ指令 明治十二年 二月廿五日

本年一月十五日付指令左ノ通可心得事

伺之趣慣習トハ民法上人民ノ慣行認許スル者及ヒ從來官民ノ間ニ慣行スル例ニシテ條理ニ背戾セサル者ヲ謂フ義ト心得

○民事訴訟人民一般傍聽ヲ許ス 八年二月二十二日 布告第三拾號

民事訴訟審判ノ儀人民一般傍聽差許候條此旨布告候事

但男女ノ間ニ起リシ風儀ニ關スル訴訟ハ此限ニアラス

○裁判官訟庭上吸煙ヲ禁ス 八年八月十四日 司法省達第貳拾號各裁判所裁判所無之各縣

裁判官ノ訟庭上取調之節煙草ヲ用ヒ候儀不相成候條此旨相達候事

○白洲上尊卑ノ分界ヲ廢ス 五年十月十日
司法省達第二十五號
 白洲上取扱振ニ於テ尊卑ノ分界相立來候處自今人民一般ノ公義ニ基キ從前ノ分界ヲ廢シ官員華士族平民ニ至ルマテ同様タルヘキ事

○各裁判所傍聽規則ヲ定ム 八年四月四日
司法省布達甲第二號

本年第三拾號御布告ニ付テハ左ノ通各裁判所傍聽規則相定候條此旨布達候事

一傍聽センコトヲ願フモノハ裁判所庶務課(名刺在)所ヲ出シ其許可ヲ得テ後訟庭ニ出ツヘキ事

但當日訟庭ノ都合ニヨリ其數ヲ減省シ又ハ一同差許サ、ルモ之レアルヘシ

一傍聽人訟庭ニ就クノ心得ハ七年甲第拾九號當省達第八條並ニ但書ノ通りタルヘキ事

○裁判傍聽席 十五年三月二十九日
司法省達丁第貳拾號 大審院裁判所

裁判傍聽ノ儀ハ官民ヲ擇ハス渾テ傍聽席ヘ相廻シ可申此旨相達候事

但シ外國人ニシテ公然ノ照會ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

○判事、檢事、裁判所書記及執達吏制服 二十三年十月二十二日
勅令第二百六十號

股判事、檢事、裁判所書記及執達吏制服ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二百六十號

判事、檢事、裁判所書記及執達吏制服左ノ圖表ノ通定ム

但明治二十三年十二月三十一日迄ハ「フロックコート」又ハ羽織袴ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

判事制服表 (圖スハ)

種目	裁判所別			種目	裁判所別		
	地	飾	製		地	飾	製
大審院判事	黑	及桐花七箇深紫	式	黑	及桐花七箇深紫	式	
	地	及唐草	圖	地	及唐草	圖	
控訴院判事	同	及桐花五箇深紫	式	同	及桐花五箇深紫	式	
	上	及唐草	圖	上	及唐草	圖	
地方裁判所判事	同	及桐花三箇深紫	式	同	及桐花三箇深紫	式	
	上	及唐草	圖	上	及唐草	圖	
大審院檢事	黑	及桐花七箇深緋	式	黑	及桐花七箇深緋	式	
	地	及唐草	圖	地	及唐草	圖	
控訴院檢事	同	及桐花五箇深緋	式	同	及桐花五箇深緋	式	
	上	及唐草	圖	上	及唐草	圖	
地方裁判所檢事	同	及桐花三箇深緋	式	同	及桐花三箇深緋	式	
	上	及唐草	圖	上	及唐草	圖	

檢事制服表 (上同)

種目	裁判所別			種目	裁判所別		
	地	飾	製		地	飾	製
大審院判事	黑	及桐花七箇深紫	式	黑	及桐花七箇深紫	式	
	地	及唐草	圖	地	及唐草	圖	
控訴院判事	同	及桐花五箇深紫	式	同	及桐花五箇深紫	式	
	上	及唐草	圖	上	及唐草	圖	
地方裁判所判事	同	及桐花三箇深紫	式	同	及桐花三箇深紫	式	
	上	及唐草	圖	上	及唐草	圖	

帽	製	飾	雲	紋	同	上	同	上
	式	雜形第二圖	雜形第四圖	雜形第六圖				

裁判所書記制服表(上同)

帽	製	地	質	黑	地
	式	雜形第八圖			
上	製	襟	飾	唐草	深綠
	式	雜形第七圖			

執達吏制服表(上同)

上	衣	地	質	紺	黑又ハ毛織
	式	雜形第九圖			
袴	製	地	質	紺	黑又ハ毛織
	式	雜形第十圖			
帽	製	地	質	黑	羅紗
	式	雜形第十一圖			
	章	真鍮日章(第十二圖)			

卸	線	銀子持線
		黒包卸

○判事懲戒法 二十三年八月二十日 (日本六法全書懲戒法附録二載ス)

○判事檢察官等俸給令 二十三年八月二日 (勅令第五百十八號)

○裁判所書記長書記ノ官等俸給 二十三年八月二日 (勅令第五百十九號)

○裁判官檢察官裁判所書記ノ官名及裁判官休職ニ係ル件 二十三年十月十日 (勅令第二百四十五號)

○判事試補ニ書記事務ヲ取扱シムル件 二十二年三月十五日 司法省訓令文第一五八號 始審裁判所長治安裁判所上

始審裁判所長又ハ治安裁判所上席判事ハ其廳詰判事試補ニ書記事務ヲ取扱ハシムルコト事務練習上必要ナリト認ムルハ之ヲシテ一時書記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得 右訓令ス

沿革要領

明治四年十二月廿六日布告ヲ以テ司法省中ニ東京裁判所ヲ置キ東京府下聽訟斷獄ノ事務ヲ扱フ○五年二月第三十三號布告ヲ以テ築地運上所ヲ東京開市裁判所ト改稱シ自今司法省官員出張事務ヲ扱ハシム○同年八月五日神奈川埼玉入間三縣へ裁判所ヲ置ク○同年十二月二日足柄木更津新治椽木茨城印旛群馬宇都宮八縣ニ裁判所ヲ置ク○同年九月十三日兵庫縣へ裁判所ヲ置ク○同年十月七日京都府へ裁判所ヲ置ク○同年廿日大坂府へ裁判所ヲ置ク○同年廿七日靜岡濱松額田滋賀三重愛知六縣へ裁判所ヲ置ク○六年六月司法省第九十八號達ヲ以テ宇都宮裁判所ヲ椽木裁判所ニ合併シ印旛木更津兩裁判所ヲ合シテ千葉縣ニ移シ入間群馬兩裁判所ヲ合シテ熊谷縣ニ移ス○同年九月司法省第四百四十四號第十七類 第一章 裁判

號布達ヲ以テ入間郡馬兩裁判所ハ熊谷裁判所管内區裁判所ト改稱ス○七年一月八日開拓使管下渡島國函館へ裁判所ヲ置ク○同月長崎縣へ裁判所ヲ置ク○同年四月五日佐賀縣へ裁判所ヲ置ク○同年六月司法省第十一號達ヲ以テ入間裁判所ヲ川越區裁判所ト改稱ス○同年十二月廿七日新潟縣兩縣へ裁判所ヲ置ク○八年四月第五十九號布告ヲ以テ大審院ヲ置ク○同年五月廿三日新治裁判所ヲ廢ス○同月第九十二號布告ヲ以テ上等裁判所ヲ東京大坂福島長崎へ置キ其分轄ヲ定ム○同年八月第百廿七號布告ヲ以テ福島上等裁判所ヲ宮城ニ移ス○同年十二月第百九十三號布告ヲ以テ鹿兒島山口高知三縣へ裁判所ヲ置ク○九年三月第廿六號布告ヲ以テ宮城縣へ裁判所ヲ置ク○同月第廿八號布告ヲ以テ鶴ヶ岡縣へ裁判所ヲ置ク○同年五月第六十二號布告ヲ以テ足柄佐賀ノ兩裁判所ヲ廢シ愛知三藩兩裁判所ヲ置ク○九年九月第百十四號布告ヲ以テ府縣裁判所ヲ廢シ地方裁判所ヲ置キ分轄ヲ定ム○同月第百十五號布告ヲ以テ各上等裁判所ノ分轄ヲ定ム○同月司法省第六十六號達ヲ以テ地方裁判所設置ニ付各管下ニ支廳及區裁判所ヲ置キ當分府縣裁判所章程及區裁判所假規則ニ照シ事務取扱ハシム○同年十月第百三十一號布告ヲ以テ樺木裁判所ヲ茨城ニ移シ水戸裁判所ト稱ス○同年十一月第百三十八號布告ヲ以テ岩國裁判所ヲ廣島ニ移シ廣島裁判所ト稱シ浦和裁判所ヲ熊谷ニ移シ熊谷裁判所ト稱ス○同月第百四十五號布告ヲ以テ一ノ關裁判所ヲ仙臺ニ移シ仙臺裁判所ト稱ス○同年十二月第百五十號布告ヲ以テ米澤裁判所ヲ福島ニ移シ福島裁判所ト稱ス○十年三月第三十三號布告ヲ以テ伊豆七島裁判事務ヲ東京裁判所ニ屬ス○同月第卅五號布告ヲ以テ青森裁判所ヲ弘前ニ移シ弘前裁判所ト稱ス○同年八月第六十一號布告ヲ以テ岐阜縣管下美濃飛騨兩國裁判事務ヲ名古屋裁判所ニ屬ス○同年十月第七十三號布告ヲ以テ自今大坂上等裁判所分轄内へ琉球藩ヲ加フ○十一年九月第廿三號布告ヲ以テ開拓使管下札幌裁判所ヲ置キ宮城上等裁判所ノ轄トス○十四年十月第五十三號布告ヲ以テ裁判所位置及管轄區畫ヲ改正ス○十六年第二號布告ヲ以テ前表ヲ改正ス○二十三年二月法律第六號ヲ以テ裁判所構成法ヲ制定ス

○**執達吏規則** (日本六法全書憲法附錄裁) (判所構成法ノ部ニ載ス)

○**執達吏手數料規則** 二十三年七月二十四日 (上同) 法律第五十二號

○**執達吏登用規則** 二十三年八月一日 (上同) 司法省令第二號

○**執達吏ニ交付ノ鑑札** 二十三年九月十八日 (上同) 司法省訓令第三號

○**行政裁判法** 二十三年六月二十八日 (日本六法全書憲) (法附錄ニ載ス)

○**行政裁判所評定官ノ員數並書記ノ員數及職務ノ件** 二十三年六月二十八日 (上同) 勅令第百一十一號

○**行政裁判所處務規程** 二十三年八月二十九日 (上同) 勅令第百九十二號

○**行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件** 二十三年十月九日 (上同) 法律第百六號

○**行政訴訟豫納金手續** 二十三年十一月十九日 (上同) 行政裁判所告示第二號

○**民事訴訟法** 二十三年三月二十七日 (日本六法全) (書ニ載ス)

○**民事訴訟法施行條例** 二十三年七月十六日 (上同) 法律第五十號

○**非訟事件手續法** 二十三年十月三日 (上同) 法律第九十五號

○**控訴上告手續** 十年二月十九日 布告第十九號

明治八年^五月第九拾壹號布告大審院諸裁判所職制章程同年同第九拾三號布告控訴上告手續別冊ノ通り改正候條此旨布告候事 (大審院諸裁判所職制章程ハ略之)

(但巡回裁判規則判事職制通則ハ刪除候事)

控訴上告手續 (二十三年七月十六日法律第五十號民事訴訟法施行條例ヲ以テ本條中大審院ヲ上告裁判所ト改メ該條ハ當分ノ内其効力ヲ有スル旨ヲ公布セリ)

第十六條 上告者ハ其上告狀ニ添テ金拾圓ヲ上告裁判所ニ預クヘシ若シ其金高ヲ預ケサルハ上告ヲ爲スコトヲ得ス

- 第一 若シ上告ヲ取上ケサルキハ其預リ金ヲ没入ス
- 第二 若シ上告ヲ取上ケ原裁判ヲ破毀シタル時ハ預リ金ヲ還付ス
- 第三 若シ上告ヲ取上ケ被告人ト對審シタルノ後之ヲ斥ケテ原裁判ヲ破毀セサル時ハ預リ金ヲ没入シ又訴訟入費規則ニ照シテ被告人ノ費用ヲ償ハシム被告人トハ上告者ノ相手方ヲ云

○民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルニ付規定ノ件二十四年一月六日勅令第三號

朕民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三號

- 第一條 各省大臣ハ其所管事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス
- 第二條 北海道廳長官及府縣知事ハ其司掌又ハ監督スル國ノ事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス
- 第三條 特別ニ地方機關ヲ有スル各省大臣ハ省令ヲ以テ民事訴訟ニ付國ヲ代表スルノ權利ヲ之ニ委任スルコトヲ得
- 第四條 官制其他特別ノ勅令ヲ以テ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定メタルトキハ本令ニ依ルノ限ニ在ラス

○民事訴訟費用法二十三年八月十五日法律第六十四號

朕民事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治廿四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

法律第六十四號

民事訴訟費用法

- 第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定ス
- 第二條 訴狀其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金二錢五厘トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ
- 第三條 圖面ハ一葉ニ付金十錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ其測量費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル
- 第四條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金五十錢トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ
- 第五條 民事訴訟用印紙法ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費額ハ其代價ニ依ル
- 第六條 執達吏ノ手数料及ヒ立替金ハ執達吏手数料規則ノ規定ニ從フ
- 第七條 郵便料、電信料及ヒ運送料ハ其實費ニ依ル
- 第八條 官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テ公告シタル公告料ハ各其定價ニ依ル
- 第九條 民事訴訟法第二百二十七條ノ規定ニ從ヒ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ其報酬ハ裁

第十七類 第一章 訴訟費用

判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第九條 當事者ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當當ヲ二十五錢トス

第十條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ給セス

第十一條 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢乃至五圓ノ範圍内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

鑑定ヲ爲スニ付キ別ニ支出シタル費用ハ其實費ニ依ル

第十二條 當事者ノ滞在費ハ滿八里以外ノ地ヨリ來リ滞在スルトキハ一日金二十五錢トシ

證人、鑑定人及ヒ通事ノ滞在費ハ一日金五十錢トス

第十三條 當事者、證人、鑑定人及通事ノ旅費ハ海陸滿一里毎ニ付キ金十錢トス

通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

外國ニ在ル當事者ノ旅費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十四條 判事及ヒ裁判所書記檢證ノ爲メ實地臨檢ヲ爲スニ付テノ旅費及ヒ滞在費ハ證人ニ準ス

ニ準ス

第十五條 本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル

第十六條 強制執行及ヒ非訟事件ニ關ル費用ハ執達吏手数料規則ニ定メタルモノヲ除ク外

前數條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス

強制執行又ハ非訟事件ニ關シテ保管人若クハ管理人ヲ任命シタルトキハ其費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

○民事訴訟用印紙法

二十三年八月十五日
法律第六十五號

朕民事訴訟用印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

法律第六十五號

民事訴訟用印紙法

第一條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

訴訟物ノ價額金五圓マテ 二十錢

同 十圓マテ 三十錢

同 二十圓マテ 六十錢

同 五十圓マテ 一圓五十錢

第十七類 第一章 訴訟費用

- 同 七十五圓マテ 二圓二十錢
- 同 百圓マテ 三圓
- 同 二百五十圓マテ 六圓五十錢
- 同 五百圓マテ 十圓
- 同 七百五十圓マテ 十三圓
- 同 千圓マテ 十五圓
- 同 二千五百圓マテ 二十圓
- 同 五千圓マテ 二十五圓
- 同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ニ從フ

第三條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シ

財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 本訴ト反訴ト其目的カ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第六條 左ニ掲クル書類ニハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 第一 抗告
- 第二 故障
- 第三 證據調ノ申立
- 第四 假差押及ヒ假處分ノ申請
- 第五 判決ノ送達アララントヲ求ムル申立
- 第六 執行カアル正本ヲ求ムル申立但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ其一通毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

第七條 和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百八十一條第三項及ヒ第三百九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 再審ヲ求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第九條 原狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立及ヒ申請ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類ハ其效ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判

所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有効ナラシムルヲ得

第十二條 印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達ニ依ル

第十三條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコ

トヲ許サス

第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處

シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十五條 前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第十六條 第六條第十條乃至第十二條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

○商事非訟事件印紙法 二十三年八月十五日 (日本六法全書二載ス)

○刑事訴訟法 二十三年十月六日 (日本六法全書二載ス)

○重罪控訴豫納金規則 二十三年二月八日 法律第七號

朕重罪控訴豫納金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第七號

重罪控訴豫納金規則

第一條 重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者控訴ヲ爲サントスルトキハ裁判費用ノ保證トシテ金貳拾圓ヲ豫納スヘシ

第二條 重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者貧困ニシテ保證金ヲ豫納スル能ハサルトキハ控訴ノ申立ト同時ニ保證金ノ免除ヲ請求スルコトヲ得

第三條 保證金ノ免除ヲ請求シタル者ハ其請求ヲ爲シタル日ヨリ十四日內ニ控訴ノ趣意書ト共ニ裁判費用支辨ノ資力ナキコトヲ證スヘキ住居地市町村長ノ證明書ヲ差出スヘシ但其市町村役場三里以外ニ在ルトキハ治罪法第十九條ニ規定シタル猶豫ヲ與フ

第四條 前二條ニ記載シタル書類ハ訴訟ニ關スル一切ノ書類ト共ニ第一審裁判所ノ檢事ヨリ控訴院ノ書記課ニ之ヲ送致スヘシ

第五條 控訴院ハ檢事ノ意見ヲ聽キ保證金免除請求ノ當否ヲ決定スヘシ但控訴ノ事由ナシト認ムルカ又ハ事由アルモ實益ナシト認ムルトキハ免除ヲ與ヘサルモノトス

第六條 保證金ノ免除ナキトキハ控訴ノ申立ハ其効ナキモノトス

第七條 被告人ニ於テ證人鑑定人ノ呼出ヲ請求スルトキ第一條ノ保證金ニテ不足ト認ムル場合ニ於テハ別段其費用ヲ豫納セシムヘシ

○輕罪ニ係ル控訴豫納金規則 十八年一月六日 布告第二號

明治十四年^{十二月}第七拾四號布告ヲ廢シ自今輕罪ニ係ル控訴ハ左ノ規則ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ得但治罪法中此規則ニ抵觸スル條件ハ當分ノ內施行セス

第一條 (二十三年六月二十八日法律第四十七號ヲ以テ削除)

第二條 (同上)

第三條 被告人公訴ニ關シ控訴ヲ爲サントスルトキハ裁判費用ノ保證トシテ金拾圓ヲ豫納スヘシ (二十三年六月二十八日法律第四十七號ヲ以テ(公訴ノ裁判言渡ニ對シ)トアルヲ(公訴ニ關シ)ト改ム)

第四條 被告人ニ於テ證人鑑定人ノ呼出ヲ請求スルトキ前條保證金ニテ不足ト認ムル場合ニ於テハ別段其費用ヲ豫納セシムヘシ

第五條 (二十三年六月二十八日法律第四十七號ヲ以テ削除)

右奉 勅旨布告候事

○重罪輕罪ノ公訴ノ判決ニ對シ控訴又ハ上告ノ場合ニ於テ被告人及囚人ニ係ル費用ノ件 二十三年十月三十一日 內務省令第五號

重罪輕罪ノ公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合又ハ上告ニ由リ他ノ裁判所ニ移スノ言渡アリタル場合ニ於テ被告人拘禁中ノ費用並ニ裁判確定ノ後囚人ニ係ル費用ハ總テ最前裁判言渡アリタル地方ノ監獄費ヲ以テ支辨シ其費額ハ一人一日金二十錢トス

但裁判確定後ノ囚人ハ海軍又ハ海船ニ依リ最モ押送ニ便ナル地方ニ在テハ原地方廳ノ請求ニ依リ送還スルコトヲ得此場合ニ於テハ護送官吏ノ旅費及囚人ニ屬スル費用ハ請求地方ノ負擔トス

○訴訟法中辯護士事務ノ件 二十三年十月十八日 司法省訓令第四號

訴訟法中辯護士ノ執ル可キ事務ハ追テ辯護士ヲ盟ガルヘキニ付當分ノ内代理人之ヲ取扱フ儀ト心得ヘシ但上席候事ハ此旨管内代理人へ通達スヘシ

第二章 家資分散、身代限

○家資分散法 二十三年八月二十日 法律第六十九號

朕家資分散法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

法律第六十九號

家資分散法

第一條 民事訴訟法ノ強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ對シテハ管轄裁判所ハ職權ニ因リ又ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ家資分散者タルノ宣告ヲ爲スコトヲ得 右ノ決定ハ口頭辯論ヲ要セスシテ之ヲ爲スコトヲ得 此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 第一條ノ宣告ハ裁判所及市町村ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告ス可シ

第四條 家資分散者ハ其宣告ヲ受ケタル日ヨリ選舉權及被選舉權ヲ失フ

家資分散者ノ復權ニ付テハ商法第五十五條以下ヲ準用ス

第五條 商法及本法施行以後ニ於テ從前ノ法律中身代限處分ヲ受ケタル者ニ對シ公權ノ喪失ヲ定メタル條項ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シ効力ヲ有ス

第十七類 第二章 家資分散身代限

○商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者ニ關スル件(日本六法全書商法ノ部ニ載ス)

○華士族平民身代限規則五年六月二十三日
布告第百八拾七號

今般華士族平民共身代限規則被相定候條左之通相達候事
但當壬申八月朔日ヨリ施行可致事

華士族平民身代限規則
平民身代限抵償トシテ差押フ可ラサル品類

一時服著替共男女
共各二通宛

一夜具男女
共各一通宛

一本ノ職業ヲ爲スニ必要ナル諸物品但學藝ヲ人ニ教ヘ又ハ農工商等職業ニ必要ナル書類器械品物等其金額五十兩ニ至ル迄最モ本人ノ擇ム所ニ任ス可シ其直段ハ貸主借主ヨリ鑒定ノ者道真屋一人宛差出シ外入札人ト共ニ入札致サセ町役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定ムヘキ事

一食料

家族ノ人口ヲ量リ一ケ月間用井ル飯米ヲ殘シ置クヘキ事

但男丁ハ一日ニ付五合麥ハ一升雜穀ハ一升五合婦女幼少ハ四合麥ハ八合雜穀ハ一升二

合宛ノ事
一鍋釜及炊具各 一通

華士族身代限抵償トシテ差押フヘカラサル品類(五年第三百廿七號布告
ヲ以テ次項ヲ取消ス)

一大小類 男子一人ニ付各一腰宛

一冠服 男子一人ニ付各一通宛

一時服着替共 男女共各 二通宛

一夜具 男女共各 一通宛

一本ノ職業ヲ爲スニ必要ナル諸物品

但學藝ヲ人ニ教ヘ又ハ農工商等ノ職業ニ必要ナル書類及諸器械品物等其金額五十兩ニ至ル迄最モ本人ノ擇ム所ニ任スヘシ其直段ハ貸主借主ヨリ鑒定ノ者道真屋一人宛差出シ外入札人ト共ニ入札致サセ町役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定ム可キ事

一鍋釜及炊具類 各一通

右身代限リノ節ハ六十日間裁判所門前高札場並ニ本人家宅ヘ揭示ヲ出シ其次第傳承日限中追願ノ者ハ取札ノ上可處置事(六年第七十號布告ヲ以テ揭示日
數三十日トアルヲ六十日トナル)

但新聞紙ヲ刊行スル地ニ於テハ亦之ニ記載セシムヘシ

一前條ニ記スル所ノ引殘スヘキ必要物件ノ内未タ代價ヲ拂ハサル分ハ賣主ヨリ日限内訴出レハ現品ヲ取戻スコトヲ得ヘシ

但現在著用ノ衣服夜具ハ此限ニアラス

第十七類 第二章 家資分散身代限

一身代限ノ物件ハ入札拂ニ出ス可シ尤金銀器等ノ定價判然タル物品ハ眞價ヨリ低ク賣拂フヘカラス且ツ賣拂金ノ總額ハ其者ノ負債及ヒ右一件ノ諸費用ヲ償フニ過クヘカラス但入札拂ノ日ヨリ三日前ニ其品物及ヒ場所時刻ヲ裁判所門前並ニ其者ノ居宅及ヒ各地士民群集ノ所ヘ揭示シ及ヒ新聞紙ヲ刊行スル地ニ於テハ亦之ニ記載セシムヘシ且ツ貸主借主ヨリ差出セシ鑒定ノ者モ他人ト共ニ入札致サセ村役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定メ之ヲ現金ニテ取立裁判所ヘ差出スヘシ

○身代限揭示案更正 七年七月三日 布告第七拾壹號
明治六年五月第八拾壹號布告身代限揭示案左之通改正候條此旨布告候事

何 之 誰
何 村

右之者儀何何ノ誰ヨリ何々其事目ヲ掲ク出訴ニ及ヒ吟味ノ上身代限申付ルニ付若シ何ノ誰ヘ係リ金穀其他諸取引ノ訴有之者ハ當何日ヨリ來ル何月何日迄日數六十日內ニ當裁判所ヘ訴出ツヘシ右日限過去訴出ルニ於テハ此度身代分散金ノ分配ニハ不差加者也

○父兄ト同居ノ子弟或ハ別居シテ財產ヲ異ニスル者身代限處分方 五年九月十八日布告第 貳百七拾五號
父兄ト同居ノ子弟或ハ別居シテ財產ヲ異ニスルモノ又ハ父既ニ家督ヲ其子ニ讓リ隱居別宅シテ財產ヲ異ニスル者自今一己ニ金銀借受候分其證券中本家ノ戶主保證ノ調印無之上

ハ貸主ニ於テ本家ノ財產ヲ目的トシ貸シ與フル筋無之候ニ付若シ右等ノ者共返金相滞訴訟ニ及ヒ候節同居ノ者ハ其身所持ノ品物ノミ分産異居ノ者ハ其財產ノミヲ以テ之ニ當テ身代限リニ裁判申渡候條爲心得此段相達候事

○身代限ノ處分ヲ受ケタル負債主ニ對スル定約期限未滿ノ貸金穀等處分方ヲ定ム 六年七月十七日 布告第貳百五拾貳號
負債者身代限ニ遇フ節其者ヘ對シ貸金穀其他義務ヲ得可キ者定約期限未滿內ノ分處置振左ノ通被定候條此旨相達候事

第一條 貸金穀又ハ義務ヲ得可キ者定約期限未滿內ニハ訴出ルコトヲ許サ、ル規則ナレモ其負債者又ハ義務ヲ行フヘキ者右期限未滿ニ身代限ニ遇フ時ハ訴出ルコトヲ得ヘシ
第二條 定約期限未滿內ニ訴出ル者ハ滿期後訴出ル者ト同一ノ權利ヲ有シ身代限財產糶賣金ノ分配ヲ受ルコトヲ得ヘシ

第三條 請人證人等連印ニテ本人返濟相滞ルニ於テハ引受返濟可致ノ明文之レアル證書ヲ取置タル者ハ本人身代限財產糶賣金ノ分配ヲ受ケ尙ホ不足アラハ滿期ノ時ニ至リ請人證人ニ掛リ之ヲ訴ルコトヲ得ヘシ

第四條 身代限ニ遇フ者期限未滿內ノ者ニハ滿期ノ時ニ至リ返濟セント欲スルトキハ別段請人ヲ立請人ヨリ動不動產ヲ引當又ハ質物ト爲シ違變ナキヲ證明シテ原告人ノ承諾ヲ求ルヲ必要トス

第五條 負債者満期ヲ保スル爲メ改メテ請人ヲ立請人ヨリ動不動産ヲ引當又ハ質物ト爲シ違變ナキヲ證明シ原告人之レヲ承諾スル時ハ其原告人ハ此回ノ身代限財産糶賣金ノ分配ヲ求ムルコトヲ得ヘカラス

第六條 定約期限未滿内ノ債主ハ身代限ニ遇フ負債主ニ對シ期限未滿内ニ訴フルモ満期後ニ至リ訴フルモ其者ノ情願ニ任スト雖モ身代限ニ遇フ者ノ動不動産ヲ引當又ハ質物ニ取置タル債主ハ右動不動産ヲ身代限ノ糶賣ヲ爲スニ付己レノ受取ルヘキ金高ヲ求ムルコトヲ得ヘキ而已ニテ糶賣ヲ爲スコトヲ拒ムヲ得可ラス

第七條 動不動産ヲ引當又ハ質物ニ取置タル者ハ其財産糶賣金ノ内ニテ元金高又ハ利息アレハ利息ト共ニ其定約ノ證書ニ據リ處分ノ時迄ノ金高ヲ算計シ受取ル可キノ求ヲ爲シ裁判所ニ於テハ糶賣金分配ノ規則ニ從ヒ引當又ハ質物ヲ取置タル者ニ分配スヘキ金高ヲ引渡ス可シ

第八條 引當又ハ質物ヲ取置カサル金穀ノ債主定約期限未滿内ニ訴出ル時ハ元金高又ハ利息アレハ利息ト共ニ定約ノ證書ニ據リ處分ノ時迄ノ金高ヲ算計シ受取ヘキノ求ヲ爲シ裁判所ニ於テハ糶賣金分配ノ規則ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ

○身代限財産中質入書入ノ地所アリ債主訴出サル節處分方 八年四月十日 布告第五拾三號
地所ノ質入書入ハ尋常ノ私約ト違ヒ戸長役場ノ帳簿ニ記載シテ奥書割印モ之レアル公正ノ證書ニ付若シ身代限り財産中質入又ハ書入ノ地所アリテ其債主揭示中ニ訴出サル節ハ

其地所糶賣代價ノ中ニテ債主受取ルヘキ元金高ニ糶賣金配當ノ日マテノ利息ヲ加ヘ第一番ニ引キ去リ裁判所ニ於テ之ヲ糊封シ掛リ官員兩名調印ノ上戸長役場ニ預ケ置キ後日債主願出次第相渡スヘク候條此旨布告候事

○華族及華族ノ子弟身代限處分濟宮内省華族局へ通牒方 十八年十一月十二日 司法省達丁第二十五號 始審裁判所 治安裁
但質入書入ノ金高及ヒ利息等不分明ノ節ハ本人呼出シ取調可申事

民事裁判上ニ於テ華族及華族ノ子弟身代限處分ニ及ヒタル者有之候ハ、處分完結ノ上其旨直ニ宮内省華族局へ通牒可致此旨相達候事

○裁判所ニ於テ身代限又ハ抵當物公賣處分ヲ爲ス時及其處分ヲ取消ス時登記所ニ通知セシ 二十年三月十四日 司法省訓令第十二號 裁判所
裁判所ニ於テ身代限又ハ抵當物公賣ノ處分ヲ爲ス時ハ其地所建物船舶所在地ノ登記所ニ其旨ヲ通知スヘシ其處分ヲ取消ス時亦同シ

○裁判所ニ於テ身代限處分又ハ抵當物公賣處分ノ未落札セシトヤ登記所ニ通知方 二十年三月十四日 司法省訓令第十二號 裁判所
裁判所ニ於テ身代限處分又ハ抵當物公賣ノ處分ヲ爲シ及ヒ其處分ヲ取消ス時ハ其地所建物船舶所在地ノ登記所ニ其旨ヲ通知ス可キ儀ニ付本年三月十四日附ヲ以テ訓令ニ及タル處右處分ノ未裁判所ニ於テ落札ヲ達シタル時モ亦其旨及落札人ノ氏名ヲ該登記所ニ通知ス可シ

第三章 代 言 人

○代 言 人 規 則

十三年五月十三日
司法部布達第一號

明治九年當省甲第壹號代 言 人 規 則 左 之 通 改 正 候 條 此 旨 布 達 候 事

但該規則ニ牴觸スル從前ノ布達ハ總テ廢止タル可シ

代 言 人 規 則

第 一 款 總 則

第 一 條 代 言 人 ハ 法 令 ニ 於 テ 代 言 ヲ 許 サ レ タ ル 詞 訟 ニ 付 テ 原 告 又 ハ 被 告 ノ 委 任 ヲ 受 ケ 其 代 言 ヲ 爲 ス 者 ト ス

第 二 條 代 言 ノ 業 ヲ 爲 サ ン ト 欲 ス ル 者 ハ 第 四 款 ニ 掲 グ ル 所 ノ 手 續 ニ 依 リ 定 式 ノ 試 驗 ヲ 經 テ 司 法 卿 ノ 免 許 ヲ 受 ク 可 シ

第 三 條 免 許 ヲ 受 ケ シ 代 言 人 ハ 大 審 院 及 ヒ 諸 裁 判 所 ニ 於 テ 代 言 ヲ 爲 ス ヲ 得

第 四 條 代 言 人 ノ 免 許 ヲ 得 ル 能 ハ サ ル 者 左 ノ 如 シ

- 一 未 丁 年 者
 - 二 身 代 限 リ ノ 處 分 ヲ 受 ケ 未 タ 辦 償 ノ 義 務 ヲ 終 ヘ サ ル 者
 - 三 盜 罪 詐 僞 罪 ニ 付 刑 ヲ 受 ケ タ ル 者
 - 四 懲 役 禁 獄 一 年 以 上 ノ 刑 ニ 處 セ ラ レ タ ル 者 (十四年同省甲第貳號
布達ヲ以テ本項改正)
- 第 十 七 類 第 三 章 代 言 人

五 官吏准官吏及ヒ公私ノ雇人

第五條 免許ヲ受ケシ者ハ必ス第二款ニ掲クル所ノ代理人ノ組合ニ入りテ其規則ヲ守ル可シ若シ一時他管ニ出テ代言ヲ爲スモハ其地組合ノ規則ヲ遵守ス可シ

第六條 代理人新ニ免許ヲ受ケシ時及ヒ他ノ地ニ轉任セント欲スル時ハ其業ヲ爲ス所ノ裁判所及ヒ檢事檢事ナキ地ハ檢事ノ職務ヲ攝行スル者以下之ニ倣フ並ニ議會長ニ其旨ヲ届ケ廢業ノ時ハ免許狀ヲ檢事ニ返納ス可シ

第七條 代言免許ハ滿一年月ヲ以テ算フヲ以テ限トシ免許料ハ金十圓トス其業ヲ繼續セント欲スル者ハ毎年免許料ヲ納ム可シ既ニ納メタル免許料ハ廢業停業除名ノ時ト雖モ之ヲ還付セ

第八條 新規出願ノ者ハ免許狀ヲ受ル時免許料ヲ直チニ檢事ニ納ム可シ

引續出願ノ者ハ必ス免許期限ノ盡ル前願書ニ免許料ヲ添ヘ檢事ニ差出ス可シ但右手續ヲ爲シタルトキハ期限後ニ係リ未タ免狀ノ下附有ラサルモ其儘代言ヲ爲スヲ得可シ

第九條 免許料ヲ納メサルヲ以テ免許ヲ得ス又ハ期限前ニ於テ引續願ヲ爲サスシテ免許ノ効ヲ失ヒシ者再ヒ代言ヲ爲サント欲スル時ハ新規出願ノ手續ニ循フ可シ

第十條 免許狀ヲ紛失シ又ハ氏名ヲ改メシ者ハ更ニ免許狀下付ノ願ヲ檢事ニ出ス可シ但願書ノ副本ニ檢事ノ檢印ヲ受ケ置キ引替免許狀下付迄ハ之ヲ以テ免許代理人タルノ證ト爲ス可シ

第十一條 代言ヲ爲スニハ必ス詞訟本人ノ委任狀ヲ受ク可シ

第十二條 代言人ノ懲罰ハ第三款ニ依テ處分ス可シ

第十三條 代言人ノ所業ニ因リ生シタル詞訟本人並ニ相手方關係人ノ損害ハ其代言人ニ於テ之ヲ償フ可シ

第二款 議會

第十四條 代言人ハ各地方裁判所本支廳所轄每一ノ組合ヲ立テ議會ヲ設ケ左ノ目的ヲ以テ規則ヲ定メ契約ヲ固クス可シ但組合ハ各裁判區ノ廣狹遠近ニ依リ檢事ノ見計ヲ以テ之ヲ分合スルヲアル可シ

一 互ニ風儀ヲ矯正スル事

二 名譽ヲ保存スル事

三 法律ヲ研究スル事

四 誠實ヲ以テ本人ノ依頼ニ應スル事

五 強テ本人ノ權利ヲ捏造セサル事

六 妄リニ言詞ヲ變改セサル事

七 故ナク時日ヲ遷延セサル事

八 相當謝金ノ額ヲ定ムル事

但該規則ハ必ス檢事ノ照閱ヲ經過シ其改正増補モ亦之ニ同シ

第十五條 組合毎ニ會長一名副會長一名又ハ二名ヲ毎年第一次會ニ於テ投票ノ多數ヲ以テ定ム可シ若シ投票ノ數相均シキ時ハ先キニ免許ヲ得タル者ヲ以テシ其時日相同シキ時ハ年長ノ者ヲ以テ之ニ充ツ可シ

第十六條 會長ハ議會ノ管理ヲ爲シ副會長ハ會長ヲ補助シ會長差支アル時ハ之カ代理ヲ爲ス可シ其任期ハ各滿一年トス但每期投票多數ヲ得ル者ト雖モ其職務ヲ繼續スルハ二期ヲ以テ限リトス

第十七條 第二十二條ニ記載シタル條件ヲ犯ス者アル時ハ各代言人ハ之ヲ會長ニ報告シ會長ハ之ヲ檢事ニ告發ス可シ

第十八條 議會ヲ開クハ毎年二次ヲ以テ定例ト爲シ其日數一次十五日ヲ過クルヲ得ス若シ已ムヲ得サル場合ニ於テ期日ヲ延サントスルカ又ハ臨時會ヲ開カントスル時ハ必ス檢事ノ認可ヲ受ク可シ但其會費ハ各代言人ニ於テ之ヲ擔當スル者ト爲ス

第十九條 會長ハ組合總員ノ名簿ヲ作り其本貫族籍住所年齡及ヒ代言免許ノ年月日ヲ記シ轉住廢業懲罰ノ事アル毎ニ其旨ヲ記ス可シ

第二十條 議會中詞訟事件ニ付參會スルヲ得サル場合ニ於テハ其旨ヲ會長ニ届出ツ可シ

第二十一條 會長及ヒ副會長ト雖モ代言ノ職業ニ付テハ一般ノ代言人ト異ナルナシ

第三款 懲罰

第二十二條 代言人左ノ條件ヲ犯ス時ハ輕重ヲ量リ第二十三條及ヒ第二十四條ニ依テ懲罰ス可シ

一 訟廷ニ於テ現行ノ法律ヲ誹議スル者

二 訟廷ニ於テ官吏ニ對シ不敬ノ所業ヲ爲ス者

三 訟廷ニ於テ相手方ヲ陵辱罵詈シタル者

四 詞訟ヲ教唆シタル者

五 證據ト爲ル可キ者ヲ捏造シタル者

六 他人ノ詞訟ヲ買取り自己ノ利ヲ圖ル者

七 強テ謝金ヲ前收シ又ハ過當ノ謝金ヲ貪リタル者

八 故ラニ時日ヲ遷延シ詞訟本人並ニ相手方關係人ノ妨害ヲ爲シタル者

九 議會組合ノ外私ニ社ヲ結ヒ號ヲ設ケ營業ヲ爲シタル者

十 議會ニ於テ定メタル取締規則ヲ犯シタル者

第二十三條 懲戒ノ目次左ノ如シ

一 譴責 二 停業

三 除名

第二十四條 所犯法律ニ該ル者ハ法律ニ依テ處斷シ仍ホ第二十三條ノ罰目ヲ併科スルヲアル可シ

第二十五條 譴責ハ止マ阿責シテ業ヲ停メス停業ハ一月以上一年以下其業ヲ停メ除名ハ代
言人名簿ノ名ヲ除キ三年ヲ經ルノ後ニ非サレハ復タ代言人タルヲ得ヌ若シ其所犯ノ情狀
重キ者ハ終身之ヲ許サス

第二十二條ノ懲罰ヲ受ケタル者アルキハ其旨ヲ裁判所ノ控所ニ揭示ス可シ

第四款 出願

第二十六條 代言免許ヲ願フ者ハ第二十九條ノ書式ニ倣ヒ願書ヲ作り現住戸長(又ハ區長)
ノ奥印ヲ受ケ履歷書ヲ添ヘ其所轄ノ檢事ニ差出シ定式ノ試験ヲ受ク可シ

第二十七條 出願定月
二月 八月 各上半ケ月ヲ以テ限リト爲ス

第二十八條 試験ノ課目左ノ如シ

- 一 民事ニ關スル法律
- 二 刑事ニ關スル法律
- 三 訴訟ノ手續
- 四 裁判ニ關スル諸規則

第二十九條 願書及ヒ履歷書々式略

○大學法學部ニ於テ法律學卒業ノ者代言人免許方十三年十一月廿九日
司法省達丙第拾六號地方裁判所檢事
檢事
アヲサ
ル各縣

明治十二年五月司法省丙第七號達左之通改正候條此旨可相心得事

文部省所轄東京大學法學部ニ於テ法律學卒業ノ者代言人營業出願セシ時ハ明治十三年五月司法省甲第壹號布達改正代
言人規則第二十七條出願第二十八條試験ニ關セス免許狀授與候條右出願ノ節ハ卒業免狀ヲ檢査シ願書ニ其寫ヲ添ヘ進達可
致此旨相達候事

但本文試験ニ關スルモノ、外代言人規則ニ準據スルハ一般代言人ト異ナルナシ

○代言人取扱手續ヲ改正ス十三年五月十三日

司法省達丙第八號諸裁判所檢事府縣

司法省明治九年二月第二十五號達代言人取扱手續左ノ通改正候條此旨相達候事

代言人取扱手續

- 第一條 代言ノ免許ヲ願フ者アル時ハ檢事檢事ナキ地ハ檢事ノ職務ヲ攝行スル者其願書及ヒ履歷書ヲ查閱シ若シ寄留ニテ履歷ノ顛末分明
ナラサル時ハ本管ニ照會シテ取調ヘタル上之ヲ試験シ一切ノ書類ヲ纏メ司法卿ニ進達スヘシ
- 第二條 試験問題ハ出願定月前司法卿ヨリ各地方ノ檢事ニ送付ス
- 第三條 檢事ハ司法卿ヨリ受クル所ノ問題ヲ以テ出願定月ノ下半ケ月間ニ試験ヲ行フヘシ
但試験ニ法律書籍ヲ携帶スルモ妨ナシ其問題ニ之ヲ許サ、ル旨ヲ記セシ時ハ携帶ヲ禁スヘシ
- 第四條 免許狀ハ司法卿ヨリ檢事ニ送付シ檢事之ヲ其本人ニ授與スヘシ
- 第五條 大審院裁判所并檢事ニ於テハ、代言人名簿ヲ製シ年月日ヲ詳ニシテ左ノ件々ヲ登錄スヘシ
一 氏名身分任所年齢
二 新規及ヒ引續免許
三 任所移轉姓名改換及ヒ廢業免許狀紛失等

四懲罰

第六條 代言人ハ總テ其地ノ檢事ニテ監視シ代言人規則ニ照シテ之ヲ取扱フヘシ若シ犯則ノ者アル時ハ其處分ヲ裁判官
第十七類 第三章 代言人

ニ求ムヘシ訟庭ニ於テノ犯則ハ裁判官直チニ之ヲ處分シ後チ檢事ニ通知スヘシ
 第七條 議會ノ規則ハ檢事之ヲ認許シ其副本ヲ司法卿ニ進達スヘシ
(十九年六月司法省令丙第七號ヲ以テ(副本)ノ下(及)ヒ會長副會長組合ノ氏名簿)ノ十四字ヲ削除ス)
 第八條 代言人他ノ裁判所管内ニ轉任シ又ハ廢業スルトキハ檢事ヨリ司法卿へ上申スヘシ尤モ廢業ノトキハ其免許狀返納スヘシ

第九條 免許狀紛失或ハ改名ニ係リ書換等ニテ更ニ下付ヲ願出ル者アル時ハ檢事ヨリ司法卿へ上申シ其免許狀下付ヲ得テ之ヲ本人ニ授與スヘシ但右出願ノ時其願書ノ寫へ檢印ヲナシテ本人へ與へ置クヘシ
 第十條 檢事ハ免許料ヲ收領シタル上ニテ免許狀ヲ本人ニ授與スヘシ
 第十一條 免許料ハ一月毎ニ司法省へ納ムヘシ
(十三年丙第十四號省達ヲ以テ全條改正ス)
 但シ檢事所在ノ裁判所ハ該會計課へ交付スル義ト心得ヘシ
 第十二條 代言人ノ處刑懲罰ハ其都度檢事ヨリ之ヲ司法卿へ上申スヘシ除名ノ時ハ其免許狀ヲ褫奪シテ返納スヘシ
 第十三條 檢事ハ停業ノ罰ヲ受ケタル者ノ免許狀ニ某年月日ヨリ某年月日マテ停業シタル旨ヲ取書シ檢事ヲシテ之レヲ本人ニ下付スヘシ
(括弧内朱書)

免許狀

〔何 某〕
 〔代 言 人 免 許 申 請 書 〕
 此 證 ヲ 授 与 之

〔番 號〕
 〔免 許 期 限〕
 〔從 何 年 何 月〕
 〔至 何 年 何 月〕

雞 形

司法省
 明治年月日
 省印

〔停 業 期 限〕
 〔從 何 年 何 月 何 日〕
 〔至 何 年 何 月 何 日〕
 印

○大審院諸裁判所所屬代言人規則ヲ定ム

十四年十二月二日 司法省布達第八號

大審院諸裁判所所屬代言人規則別紙之通相定候條此旨布達候事 (別紙)

所屬代言人規則

- 第一條 治罪法中所屬代言人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所所在ノ地ニ住居スル免許代言人ヲ云
- 第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代言人辯護人ハ正當ノ事由ヲ證明スルニアラサレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス
- 第三條 代言又ハ辯護受任中代言免許滿期ニ至リ引續營業セス又ハ廢業スト雖モ該事件終結ニ至ルマテ其代言辯護ヲ擔當ス可シ
- 第四條 代言又ハ辯護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ闕クコトヲ得ス
- 第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代言人辯護人ヲ選任シタル場合ニ於テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當ス可シ

○司法省變則法學生徒卒業業者代營業出願方

二十年十二月十三日 司法省訓令第二十六號 檢事

司法省變則法學生徒卒業業者代營業ヲ出願セントキハ代言人規則第二十七條第二十八條ニ關セス免許狀ヲ授與スヘキニ
 付出願ニ際シ卒業證書ヲ檢査シ其寫ヲ願書ニ添ヘテ進達スヘシ

○代言人試験出願者申報方 二十一年十二月十二日 司法省訓令第十八號 始審裁判所本支廳上席檢事

代言出願人試験自今毎年九月ヲ以テ執行スルニ付代言人規則第二十七條兩次出願定月ノ出願人ハ八月ノ下半月中其總員ヲ申報シ出願書類ハ兩次ノ分ヲ取纏置キ試験執行後答案ト共ニ進達スヘシ

但來二十二年ハ人員申報書類進達共二十一年八月期ノ分ヲモ併スル儀ト心得ヘシ

○代言出願人試験執行ノ期月ヲ定ム 二十年一月十四日 司法省告示第一號

代言出願人試験ノ儀ハ自今出願ノ都度之ヲ爲サス毎年四月ヲ以テ執行ス

○法學博士ノ學位ヲ得タル者代言營業出願取扱方 二十二年三月二十八日 司法省訓令第五號 檢事

明治二十年勅令第十三號學位令ニ依リ法學博士ノ學位ヲ得タル者代言營業ヲ出願セシトキハ代言人規則第二十七條第二十八條ニ關セス免許狀ヲ授與スヘキニ付出願ニ際シ學位記ヲ檢査シ其寫ヲ願書ニ添テ進達スヘシ

○訴訟法中辯護士事務ノ件 二十三年十月十八日 司法省訓令第四號

訴訟法中辯護士ノ執ル可キ事務ハ追テ辯護士ヲ置カルヘキニ付當分ノ内代言人之ヲ取扱フ儀ト心得ヘシ但上席檢事ハ此旨管内代言人ヘ通達スヘシ

●沿革要領

明治九年二月司法省甲第一號布達ヲ以テ代言人規則ヲ定ム○十三年五月司法省甲第一號布達ヲ以テ前令ヲ改正ス○同月同省第二號ヲ以テ勸解又ハ詞訟ニ付代人差出方布達ス○十七年一月同省第一號布達ヲ以テ前令ヲ改正ス

第十八類

第一章 刑事 罰例

○刑法 十三年七月十七日(日本六法全) 布告第三十六號(書ニ載ス)

○決闘罪 二十二年十二月二十八日(上)同 法律第三十四號

○明治十七年第一號布告廢止ノ件 二十二年六月十日(上)同 法律第十七號

○竊盜罪 二十三年十月八日(上)同 法律第九十九號

○讒謗律 八年六月二十八日(上)同 布告第一百十號

○刑法附則 十四年十二月十九日(上)同 布告第十七號

○刑法附則中改正 二十三年十月八日(上)同 法律第二百二號

○公署公吏公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ關スル件 二十三年十月八日(上)同 法律第一百號

○憲兵卒ノ職務ニ關スル犯罪處斷例 十五年十二月二十八日 布告第七十三號

憲兵卒其職務ニ關シ罪ヲ犯シタル時ハ官吏犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

憲兵卒ノ職務ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ官吏ニ對スル犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

右奉 勅旨布告候事

○陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ニ處スル時換刑方 十六年十一月十日 布告第三十七號

陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ニ處スル時ハ直ニ輕禁錮拘留ニ換フルコトヲ得

右奉 勅旨布告候事

○偽證又ハ贗造文書沒收方等 十二年七月二十九日 司法省達丙第拾號大審院諸裁判所檢察檢事アラサル府縣

凡ソ偽證或ハ公私文書ノ贗造ニ係ルヲ發覺シ刑事裁判ヲ經シ上ハ其文書ハ素ヨリ其裁判所ニ没入シ置クヘシト雖モ或ハ其文書ノ證憑ナキヲ以テ他ニ調訟ヲ起スヘキ途方ヲ失ヒ宛枉者ナキヲ保シ難シ故ニ其文書ヲ没入スルニ當リ其文書ノ寫ヲ請求スル者ニハ必ス之ヲ與フヘシ

但裁判所ニ於テ該書類ニ消印ヲ押捺スル如キノ慣習ハ廢止トス

各裁判所ニ於テハ前條文書ノ寫ヲ以テ訴出ルモノアラハ尋常ノ證據ト見ルハ勿論ト雖モ若他ノ裁判ニ在リテハ一應其没入セシ所ノ裁判所ヘ照會シテ其没入セシハ果シテ信ナルヤヲ認メシ上裁判ヲ與フヘシ

右相達候事

○各地方便宜ニ從ヒ違警罪目ヲ定メ發行シタルキ主務省ニ届出方 十四年八月三十一日 第七拾七號達警視廳府縣

(東京府ヲ除ク)

刑法第四百三十條ニ依リ各地方ノ便宜ニ從ヒ違警罪目ヲ定メ發行シタルトキハ之ヲ主務ノ省ヘ届出ヘシ此旨相達候事

○死刑者犯由牌揭示式ヲ改正ス 十五年二月六日 司法省達丙第三號裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

處刑ノ者犯由揭示ノ儀ニ付明治七年^五當省第九號ヲ以テ相達置候旨モ有之候處今般新刑法實施ニ付テハ明治十四年^{十二}第六拾七號公布刑法附則第八條ニ據リ自今左ノ通改正候條此旨相達候事

一死刑ノ執行アリタルトキハ重罪裁判所書記ニ於テ左ノ雜形ニ據リ公告案ヲ製シ三日間該廳門前ニ揭示シ且別ニ宣告書ノ謄本ヲ製シ犯罪ノ地并犯人住居ノ地方(東京ハ)府縣ヘ速ニ送達スヘシ

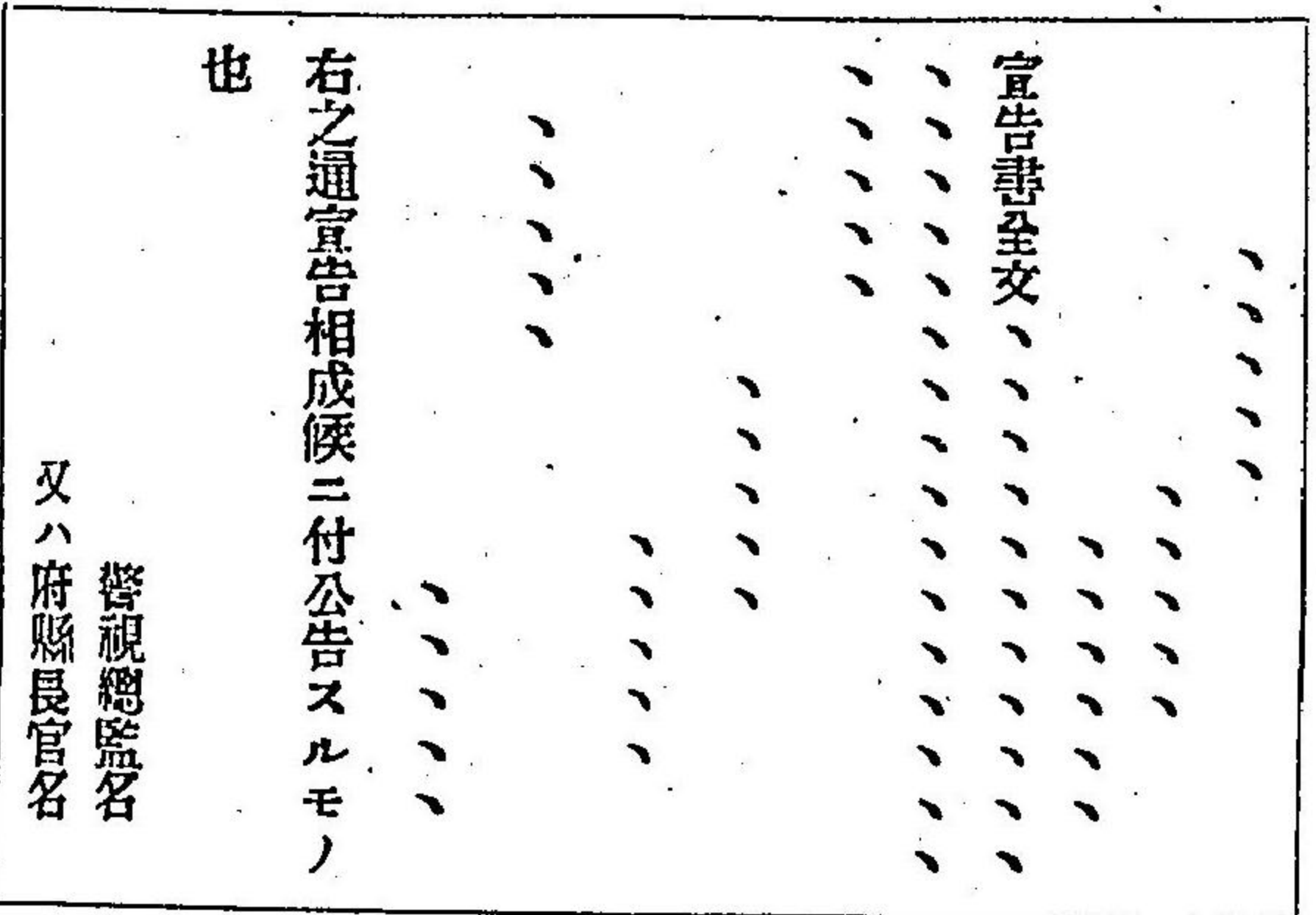
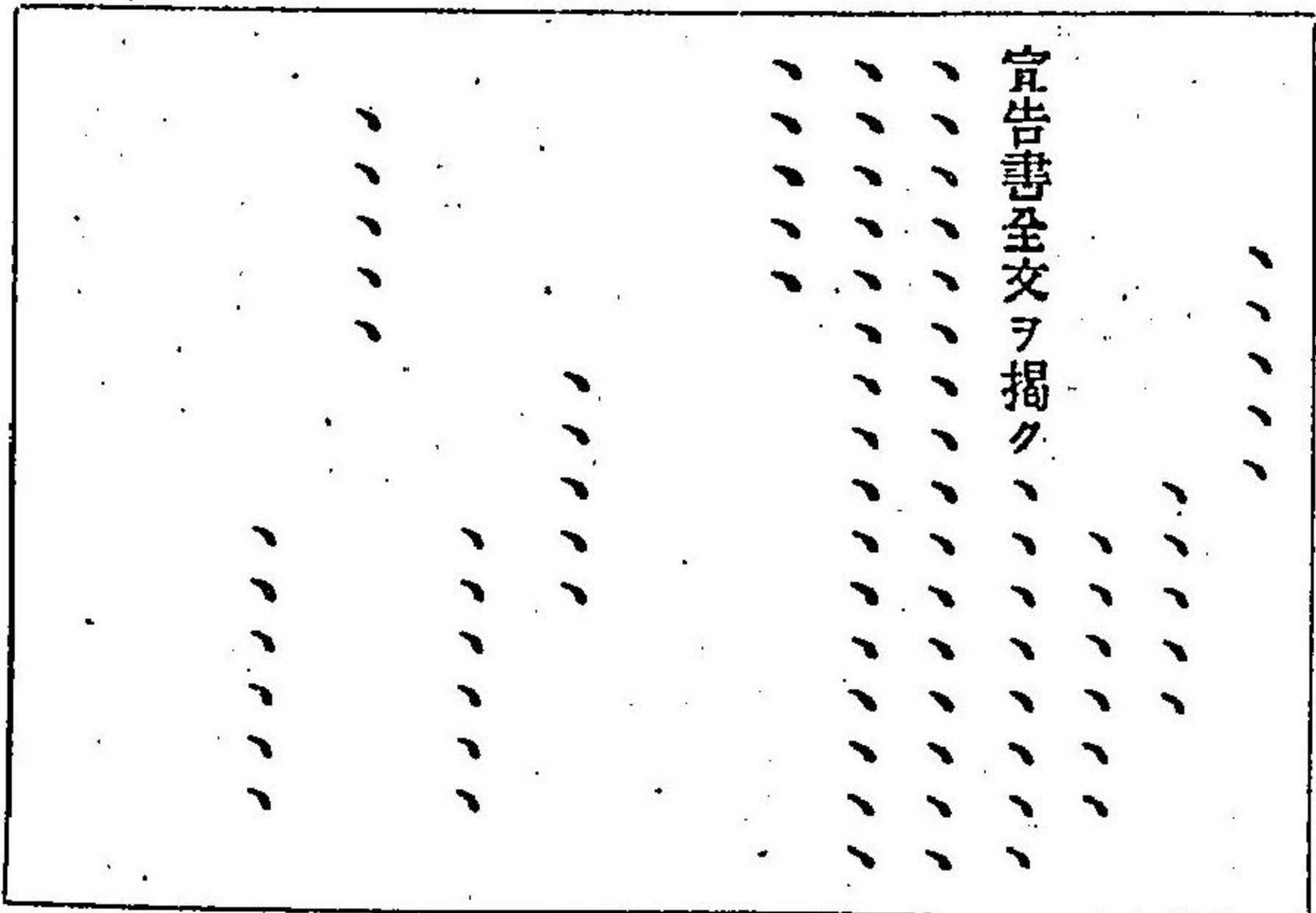
一警視廳府縣ニ於テハ重罪裁判所書記ヨリ死刑宣告書ノ謄本送達アレハ左ノ雜形ニ據リ犯罪ノ地并犯人住居ノ地何レモ三日間通衢ニ榜示公告スヘシ

死刑宣告榜示公告雜形

重罪裁判所門前榜示

犯罪ノ地又ハ犯人住居ノ地榜示

用紙堅質ノ品ヲ撰用ス



右之通宣告相成候ニ付公告スルモノ也

○刑法附則中監視表旅券書式ヲ定ム 十五年三月二十二日 內務省達乙第拾九號警視廳府縣東京府ヲ除ク

刑法附則中監視表旅券共別紙書式之通相達候條各廳ニ於テ調製シ下附スヘシ此旨相達候事

別紙

第十八類 第一章 刑事

十寸十
原色ハ花
縦寸分四
同以五
横寸分五
下分寸

監 視 票

何府何縣何町何番地任又ハ寄留何某
子弟或女同族

刑名刑期

何年何月何日宣告
何年何月何日満期

族 籍

監視何年何月

何年何月何日起
何年何月何日満

何 某
何年何月生
明治何年何月何日何々月

監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ
一 毎月二度所轄ノ警察署ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルコト能ハサルキハ其事由ヲ届出ヘシ
二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス
三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスルキハ警察署ニ申請シ許可ヲ受ク可シ
四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ已ムコトヲ得サル事故アルキハ其事由ヲ警察署ニ具申シ許可ヲ受ク可シ
右刑法附則第二十六條ニ因リ此ノ票ヲ下付スル者也

署
明治何年何月何日
印

東京ニテハ
何警察署

警察使何某
印

府縣ニテハ
何府縣何警察署

警 部何某
印

認 印 表

(十六年司法省令乙第
十號ヲ以テ本表改正)

月二十	月一十	月十	月九	月八	月七	月六	月五	月四	月三	月二	月一	初年	二年	三年	四年	五年
											何日申頭 印	前十五日以 後十六日以	前十五日以 後十六日以	前十五日以 後十六日以	前十五日以 後十六日以	前十五日以 後十六日以
											不疾病 參付					
											中旅行					

旅券

何府何區何町何番地任又ハ寄留何某
子弟及女同居

刑名刑期

何年何月何日宣告
何年何月何日満期

族籍

監視

何年何月何日
何年何月何日

何某

罪質犯數

何年何月何日
何年何月何日

明治何年何月何日

一此者何府縣何區郡何町村何某方へ旅行スル
コトヲ許可ス

一何年何月何日

一先方ノ地トキハ其旨ヲ記ス

ニ滞在スル日數何日
間トス

一何年何月何日

一何年何月何日飯宅スルモノトス

先方ノ地トキハ其旨ヲ記スニ到レハ此旅券ヲ直ニ其
地ノ警察署ニ出シテ官吏ノ認印ヲ受クヘキ事

旅行中天災又ハ疾病等ニヨリ已ムコトヲ得スシテ
淹滞シタルキハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ

官吏ノ證書ヲ請ヒ歸著シタルキ若シクハ先方ノ
地ニ到レハ此旅券ニ副ヘ速ニ之ヲ其警察署ニ示

スヘキ事

歸著シタルキハ此旅券ヲ直ニ還納スヘキ事

右刑法附則第三十條ニ依リ下付スル者也

東京ニテハ

署

何警察署

警察使何某

印

明治何年何月何日

府縣ニテハ

何府縣何警察署

警部何某

印

認印表

某警察署

何年何月何日ヨリ

何年何月何日迄何

府縣何區何町何番

地何某方ニ滞在ス

印

印

印

旅券

十六年司法省達し第拾四號ヲ以テ姓名ノ上ヘ刑名刑期監視年月罪質犯數等云云ヲ追加ス

何府縣何郡何村何番地任又ハ寄附何某子弟男女同居

刑名刑期

何年何月何日宣告
何年何月何日満期

族籍

監視何年何月何日

何年何月何日
何年何月何日

何 某

罪質犯數

何年何月生
明治何年何月何年何ヶ月

一此者監視ル假出獄ヲ許サニ付セラレ何地ニ於テ

之ヲ執行スヘキニ付該地エ到ル者也

一何年何月何日日本地ヲ發途ス

一何年何月何日先方ノ地ニ到ルモノトス

先方ノ地ニ到レハ直ニ其地ノ警察署ニ此旅券ヲ

差出ス可キ事

但シ本文旅券ニ假出獄證票ヲ添ヘ官吏ノ監査

ヲ受クヘシ

旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時

ハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ證書ヲ

請ヒ到著ノ日此旅券ニ副ヘ警察署ニ差出ス可キ

事

右刑法附則第二十五條ニ依リ下付スル者也

東京ニテハ

何警察署

明治何年何月何日

警察使何某印

署

府縣ニテハ

何府縣何警察署

警部何某印

特別監視票

何府縣何郡何村何番地任又ハ寄附何某子弟男女同居

刑名刑期

何年何月何日宣告
何年何月何日満期

族籍

附加監視何年何月何日許可

何年何月何日
何年何月何日

何 某

假出獄何年何月何日許可

何年何月生
明治何年何月何年何ヶ月

特別監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一毎週間一度所轄ノ警察署ニ到リ其謹慎ナル

ヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ

但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察

署ニ到ルコト能ハサルハ其事由ヲ届出ツヘシ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會

スルコトヲ許サス

三事故アリテ住居ヲ轉移セントスルハ警察

署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ但他ノ府縣ニ轉

移スルコトヲ許サス

四往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス

(重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルハ左ノ一項ヲ附加ス)

自ラ財産ヲ治メ若シクハ職業ヲ營マント

スルハ刑法附則第四十一條ニ從ヒ警察

署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

右刑法附則第六條ニ因リ此票ヲ下付スル者也

明治何年何月何日

東京ニテハ

何警察署

警察使何某印

署

府縣ニテハ

何府縣何警察署

警部何某印

月二十	月一十	月十	月九	月八	月七	月六	月五	月四	月三	月二	月一	初	認 印 表 (十六年司法省達丁第 拾四號ヲ以テ改正ス)
度一	度二	度三	度四	度五	度一	度二	度三	度四	度五	度一	度二	年二	
度一	度二	度三	度四	度五	度一	度二	度三	度四	度五	度一	度二	年三	
度一	度二	度三	度四	度五	度一	度二	度三	度四	度五	度一	度二	年四	
度一	度二	度三	度四	度五	度一	度二	度三	度四	度五	度一	度二	年	

○軍人制服ヲ着用乗馬シタル者ハ刑法第四百貳拾七條第三項ノ限ニ無之
十五年四月二十九日太政官達第二十九號内務省陸軍省海軍省司法省警視廳府縣(東京府ヲ除ク)
 刑法第四百二十七條第三項夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者ト有之候處軍人制服ヲ着用乗馬シタル者ハ右ノ限ニ無之候條此旨相達候事

○犯罪ノ用ニ供シ及犯罪ニ因テ得タル物件所有主ニ還付方
十五年五月十一日司法省達丙第貳拾號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)
 犯罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ本案ノ裁判ヲ言渡ス迄ニ所有主ニ發見セサル時ハ刑法第四十三條第四十四條ニ從ヒ其本案ノ裁判ト共ニ没收ノ言渡ヲ爲スヘシト雖モ右ノ物件ハ之ヲ其裁判所所在ノ地及ヒ犯罪ノ地ニ公告シ一年間ヨリ起算スニ所有主ヲ發見シタル時ハ檢察官ヨリ直ニ之ヲ還付スヘシ此旨爲心得相達候事
 但檢察官ニ於テ保存ス可カラサル物件又ハ保存スルニ付費用ヲ要スヘキ者ト思料スル時ハ公費ノ處分ヲ爲シタル上其代金ヲ保存シ置クヘシ

○犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因リ得タル物件其所有主ヘ假ニ下渡方
十五年六月廿六日司法省達丙第貳拾四號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)東京憲兵本部
 犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因リ得タル物件ハ轉讓シテ他人ノ手ニ在リ及ヒ没收スヘキモノ若クハ證據ノ爲メ官ニ保存シ置クヲ必要トスルモノヲ除クノ外ハ裁判官檢察官司法警察官ニ於テ實際ノ便宜ニ因リ裁判言渡アルマテ其所有主ヘ假ニ之ヲ下渡シ置クヲ得ヘシ此旨爲心得相達候事

○陸軍上等卒ニシテ刑法特ニ官吏ノ爲メ定メタル罪ヲ犯シタル時處斷方
十五年八月二十一日司法省達丁第四拾壹號大審院裁判所
 今般太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相達候事

太政官達 十五年八月十五日

陸軍上等卒ニシテ刑法特ニ官吏ノ爲メニ定メタル罪ヲ犯シタル時ハ都テ官吏ニ準シ候儀ト心得此旨相違候事

○罰金ヲ禁錮ニ換フルノ手續 十七年十月十日 司法省達丁第五拾三號大審院裁判所

罰金ヲ禁錮ニ換フル儀ニ付神奈川重罪裁判所判事荒木博臣ヨリ別紙甲號ノ通出候ニ付乙號ノ通及指令候條爲心得此旨相違候事

(別紙) 甲號 罰金ヲ禁錮ニ換フル儀ニ付同

重罪裁判所ニテ罰金ノ言渡ヲ受ケタル者期限内ニ納完セサル時ハ刑法第廿七條ニ照シ輕禁錮ニ換フヘキ處重罪裁判所開廳後ハ始審裁判所ニ於テ禁錮ニ換フル事ヲ檢察官ノ求ニ因リ其始審裁判所ノ所長判事ニテ之ヲ命シ候條致度右ハ差掛リ候事件有之候間至急御指令相成度此段相伺候也

明治十五年九月十八日

司法卿大木喬任殿

神奈川重罪裁判所

判事荒木博臣印

乙號 伺ノ通

明治十五年九月廿六日

○監視ニ附セラレタル者他ノ地方旅行ノ取計方 十七年三月二十六日 内務省達丁第十九號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

監視ニ付セラレタル者他ノ地方ニ旅行スル片ハ必ス監視票ヲ携帶セシメ其帶雷數日ニ涉ル者ハ帶雷地ノ警察署ニ到リ謹慎ヲ表シ官吏ノ認印ヲ受ケシム可シ此旨相違候事

但官吏ノ認印ハ監視票ノ裏面旅行中欄内ニ捺印スヘシ

○監視假免出獄上申方 十七年七月九日 務司法兩省達丁第三拾二號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

刑法附則ニ從ヒ監視假免ハ警察官假出獄ハ典獄ヨリ其實ヲ具シ直ニ上申致來候處自今其所屬長官ヲ經由スル儀ト心得ヘシ此旨相違候事

●沿革要領

明治元年正月廿三日布告ヲ以テ暗殺ヲ嚴禁シ犯ス者ハ嚴科ニ處ス○同年四月布告ヲ以テ阿片烟草賣買吸食ヲ嚴禁ス○同年十月三十日布告ヲ以テ確刑禁刑等ヲ改正ス○二年五月廿八日布告ヲ以テ贋造金銀貨ヲ行使スル者ハ嚴科ニ處セシム○三年七月二日偽造寶貨律ヲ定ム○同年八月九日販賣鴉片烟律ヲ定ム○同年十一月十八日雅流法ヲ設ケ今後流罪ヲ犯ス者處分方ヲ定ム○同年十二月二十日新律綱領六卷ヲ頒布ス○六年六月第二百六號布告ヲ以テ改定律例ヲ頒布ス○十三年七月第三十六號布告ヲ以テ刑法ヲ改定ス

○法律規則中罰例ニ係ルモノ處斷例 十四年十二月二十八日 布告第七十二號

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未滿ヲ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ答可申付トアルハ總テ

貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十八類 第一章 罰例

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス
但始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

右奉 勅旨布告候事

○省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則(第一類第一章法例ノ部ニ載ス) 十三年三月三十一日 布告第拾壹號

○諸罰則ヲ犯シ罰金科料ニ處セラル、者處分法布告第拾壹號 十三年三月三十一日

諸罰則ヲ犯シ罰金科料ニ處セラル、者處分法左ノ通相定候條此旨布告候事
一罰金科料ハ宣告ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ壹圓ヲ一日ニ折算シ禁獄ニ換フ其壹圓以下ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス
但算シテ禁獄二年以上ニ及ホスヲ得ス

一禁獄限内罰金科料ヲ納完シ又ハ親屬等代テ納完スル時ハ經過シタル日數ヲ扣除シテ禁獄ヲ免ス
一罰金科料ノ實決ノ刑ヲ併科シタル時完納セサル者ハ刑期滿限ノ後例ニ照シテ禁獄ス

○諸罰則ヲ見届ケ訴出ル者科料罰金ノ半高給與方十三年三月二十日 司法省達丙第壹號 大審院諸裁判所檢事檢事ヲ置カサル府縣

諸罰則中違犯者ヲ見届ケ訴出ル者ハ其實トシテ科料又ハ罰金ノ半高ヲ給付スト之レアルハ其違犯者無力ニシテ科料又ハ罰金ノ全部ヲ完納スル能ハサルハ實地徴收セシ金高ノ半額ヲ給付スル儀ト心得ヘク此旨相達候事
但シ本文ニ抵觸セル從前ノ伺指令ハ總テ取消候事

第二章 治罪 司法警察 逃亡犯罪人

○普通治罪法陸海軍治罪法交渉ノ件處分法ヲ制定ス十八年五月廿九日布告

第拾貳號

普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交渉ノ件處分法左ノ通制定ス但從前ノ成規中本則ニ抵觸スルモノハ當分施行セス(二十三年十月六日法律第九十六號ヲ以テ刑事訴訟法發布ニ付普通治罪法廢止)

第一條 常人ニシテ陸軍刑法若クハ海軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ普通裁判所ニ於テ之ヲ審判ス但刑ノ執行ハ普通ノ規則ニ從フ

第二條 軍人常人共ニ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ軍人ハ軍法會議ノ判決ニ付シ常人ハ普通裁判所ノ公判ニ付ス軍衛ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ常人ハ審問ノ上證憑書類ト共ニ之ヲ管轄ノ普通裁判所檢事ニ送致シ普通裁判所ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ軍人ハ審問ノ上證憑書類ト共ニ之ヲ被告人ノ所屬長若クハ陸海軍檢察官ニ送致スヘシ

第三條 敵前軍中臨戰合圍ノ地若クハ海軍諸川ニ供スル船舶ニ在テ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ常人ト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得但戒嚴令第十一條第十二條ニ掲グルモノハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スヘシ

第四條 軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ付テハ軍法會議又ハ普通裁判所ノ言渡ニ對シ普通治罪法ニ定メタル手續ニ從ヒ大審院ニ上告スルコトヲ得但軍法會議ノ言渡ニ對シ上告スルハ被告人ニ限ルヘシ

第五條 多衆ノ軍人常人闖毆殺傷其他疑讞ニ係ル罪ヲ犯シタルトキハ軍官法司會同審問スルコトヲ得

第六條 軍法會議ト普通裁判所トヲ問ハス既ニ確定シタル裁判ノ効力ハ互ニ之ヲ侵スコトヲ得ス

右奉 勅旨布告候事

○違警罪即決例 十八年九月二十四日 布告第三十一號

明治十四年九月第四十四號布告及ヒ同年十二月第八拾號布告ヲ廢止シ違警罪即決例別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

違警罪即決例

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ

又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ

第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシ

テ差出サシムヘシ若シ差出サ、ル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日
内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受ク
ヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フ

第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置
ヲ解クヘシ

第十三條 留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入
スヘシ

○商船内犯罪取扱規則ヲ制定ス 十四年十二月十五日 布告第六拾五號
商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事
(別紙)

商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ
受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スコトヲ得

第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ其事件
ニ付假ニ訊問檢證ノ處分ヲ爲シ且證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作

ルヘシ但調書ヲ作ルコト能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其申立ヲ爲スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條 船長ハ證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ着
港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐劄ノ
領事ニ之ヲ引渡スヘシ

○樺戶集治監ノ囚人輕罪以下ノ罪ヲ犯シタル者裁判手續 十五年三月三日 布告第六號
樺戶集治監ノ囚人 假出獄免幽 閉ノ者トモ 罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手
續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

○空知集治監ノ囚人輕罪以下ノ罪ヲ犯シタル者裁判及治罪手續 十五年八月十日 布告第一號
空知集治監ノ囚人 假出獄免幽 閉ノ者トモ 罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手
續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事

○釧路集治監ノ囚人犯罪ノ者處分方 十八年十二月十七日 布告第四十二號
第十八類 第二章 治罪

釧路集治監ノ四人假出獄免幽罪ノ者トモ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ根室重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事

○帶勳者ノ犯罪ニ付勳章ヲ褫奪シタルキ犯人本籍ヘ通知方十九年四月三十日 司法省令丙第六號大審院裁判所 刑事裁判言渡ヲ犯人本籍ヘ通知方ノ儀明治十四年當省丁第三十三號ヲ以テ相達置タル處自今帶勳者ノ犯罪ニ付勳章ヲ褫奪シタル時ハ其旨併セテ通知ス可シ

○帶勳有位者罪ヲ犯シ公權剝奪又ハ停止ノ言渡アリタルキ届出方十五年三月六日 司法省達丙第九號大審院 裁判所府縣(東京府ヲ除ク)

帶勳者罪ヲ犯シ公權ヲ剝奪又ハ停止スルノ言渡アリタルキハ其罪狀并刑名宣告文ノ寫ヲ以テ當省ヘ可届出此旨相達候事

但剝奪公權ノ者ハ勳記勳章并年金票共收奪ノ上當省ヘ差出スヘク候事

○勅奏任官華族帶勳有位者禁錮以上ノ刑ヲ犯シタル時處分方十五年三月二十七日 司法省達丙第拾壹號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

今般太政官ヨリ別紙ノ通御達相成候條此旨相達候事

司法省

(別紙)

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル時ハ當該檢察官ヨリ司法卿ニ具狀シ司法卿其事由ヲ奏聞シテ處分スヘシ但現行犯罪ニ係ル者ハ處分シテ後ニ奏聞スルヲ得此旨相達候事

事

明治十五年三月二十二日

太政大臣三條實美

○恩給扶助料ヲ有スル元軍人並軍人及寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪停止ノ處分ヲ受ケタル者

アルキ大藏省ヘ通知方十六年四月二十七日 司法省達丁第拾五號大審院裁判所

明治八年第百四拾八號公達海軍退隱令並明治九年第九拾九號公達陸軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル元軍人及其扶助料ヲ有スル寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪若クハ停止ノ處分ヲ受ケ並ニ該恩給ヲ有スル軍人ニシテ治罪法第二百七十三條ニ據リ公權停止ノ處分ヲ受ケタル者アルキハ其都度直ニ大藏省ヘ通知可致此旨相達候事

但新法實施已後是迄本文ノ處分ヲ受ケタル者有之候ハ、其旨直ニ大藏省ヘ通知可致事

○勅奏官華族并有位帶勳者犯罪取扱ニ付更ニ心得方ヲ達ス十六年五月十四日 司法省達丙第貳號大審院裁判所 警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

勅奏官華族并有位帶勳者犯罪取扱方ノ儀ニ付キ別紙ノ通リ太政官ヘ相伺候處朱書ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

勅奏官華族等犯罪取扱方ノ儀伺

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪取扱方ノ儀ニ付テハ明治十五年三月二十二日附ヲ以テ御達有之候處其罰金ニ處スヘキモノト雖モ或ハ本人ヲ出廷セシムル場合モ有之且又拘留ノ刑ニ處シ及ヒ罰金科料ヲ納完セサル節ハ則換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ニ處スヘキ儀モ有之候條右本人出廷セシムル場合及ヒ換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スヘキ時ハ矢張其時々奏聞可致儀ト相心得可然哉此段相伺候也

明治十六年三月三十一日

司法卿大木喬任

朱書

伺ノ通

但十五年三月二十二日附其省へ達中帶勳有位者トアルハ勳六等以上從六位以上ヲ指シタル儀ト可相心得事

明治十六年五月八日

○華族罪ヲ犯シ拘留シタル時宮内省へ通牒方十六年十一月八日司法省達丁第三拾二號大審院裁判所

華族ノ輩位記ノ有無且戸主屬罪ヲ犯シ拘留シタル時ハ自今其院裁判所ヨリ直ニ宮内省へ通牒シ猶刑ノ言渡ヲ爲シタル時居子第ニ拘ハラヌハ其宣告書ノ謄本ヲ添へ是亦同様速ニ可致通牒此旨相達候事

○刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルノ手續十四年九月二十日布告第四拾七號

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨布告候事

第一條 被告人ヲ責付スルニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ出廷セシムヘキノ證書ヲ其裁判所書記局ニ差出サシムヘシ

第二條 責付中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前ニ其通知ヲ爲スヘシ

第三條 被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ責付ヲ取消スヘシ

○保釋責付中ノ被告人取締方心得十六年十一月五日司法省達丙第八號警視廳府縣

保釋責付中ノ被告人取締方心得ノ儀ニ付左ノ通各裁判所へ相達候條此旨爲心得相達候事

丁第三十一號

裁判所

保釋責付ヲ得タル被告人ハ左ノ取締條件ニ服從セシム可キ儀ニ付キ保釋責付ヲ爲スノ際其旨ヲ被告人ニ豫知セシム可シ但其言渡書ノ紙尾ニ記載印刷スルモ妨ケナシ

第一條 治罪法第二十一條ニ從ヒ假任所ヲ定メ居置ク可キトハ言ヲ待タス其裁判所ノ管轄地外ニ旅行スルヲ得ス若シ已ムヲ得サル事由アル片ハ其旨ヲ檢事ニ申立テ許可ヲ受ク可シ

第二條 裁判所ノ管轄地内ト雖モ任所外ニ於テ一泊以上滞在スル片ハ滞在ノ場所ヲ其家族又ハ同居人ニ通知シ置ク可シ若シ同居人アラサルトキハ其任所ノ地ノ戸長ニ居置ク可シ

第三條 代言人辯護人又ハ代人トシテ法廷ニ出頭シ其他議會集會等公然ノ場所ニ參會スルヲ得ス

第四條 治罪法第百二十一條ニ適當スル者及ヒ前數條ノ規則ニ背キタル者ハ治罪法第二百十六條第二項ニ從ヒ保釋ヲ取消ス可シ其責付ヲ受ケタル者モ亦同シ

○郵便犯則者ニ對スル未納稅不足稅等徵收方十七年八月十三日司法省達丙第三號大審院裁判所警視廳府縣東京府ヲ除ク

郵便犯則者ニ對スル未納稅不足稅等徵收方ノ儀ニ付太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相達候事

司法省

驛遞局ヨリ郵便犯則者ヲ告訴スルト併セテ未納稅不足稅等ノ徵收ヲ請求スルトキハ其請求ニ應シ之ヲ受理スヘキ儀ト可心得此旨相達候事

明治十七年七月二十三日

大政大臣三條實美

○醫師タル者醫業ニ關スル犯罪有之節内務省へ通知方十五年八月二十一日司法省達丁第四拾貳號大審院裁判所

本年八月第三拾九號公布ニ依リ今般内務卿ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付テハ自今醫師タル者醫業ニ關スル犯罪有之處斷致シ候節ハ其都度該宣告文謄本相添内務省へ通知候様可致此旨相達候事

第十八類 第二章 治罪

千七十九

○醫師醫業ニ關シテ罪ヲ犯シ處斷セシキ内務省へ通知方再達 十六年十二月二十八日 司法省達丁第三拾九號大審院 所裁判

本年第三拾五號布告ヲ以テ明治十五年第三拾九號布告被廢候ニ付同年當省丁第四拾貳號達ハ自然消滅ノ處今般内務卿ヨリ更ニ照會ノ趣モ有之候條同省へ通牒方從前ノ通り可取計此旨相達候事

○西洋形船船長運轉手機關手免狀ヲ有スル者罪ヲ犯シ輕罪以上ノ刑ニ處シタル節農商務省へ通牒方 十六年七月五日 司法省達丁第貳拾壹號大審院裁判所

明治十四年 十二月 第七拾五號公布西洋形船船長運轉手機關手免狀規則ニ據リ免狀ヲ有スル者罪ヲ犯シ輕罪以上ノ刑ニ處シタル節ハ刑名並ニ宣告ノ月日ヲ詳記シ其都度直ニ農商務省へ通牒スヘシ此旨相達候事

○陸軍常備下士卒服役中違警罪ヲ犯シ處分セシキ本人所管へ通報方 十六年八月七日 司法省達丙第六號府縣 (東京府) 陸軍常備下士卒服役中ノ者違警罪ヲ犯シ其處分ヲ爲シタル節ハ其人名罰科ヲ詳記シ其都度本人所管 (隊附ナレハ該隊長) へ速ニ通報可致此旨相達候事

○海軍軍人軍屬犯罪者送致方 二十二年十一月七日 司法省訓令刑甲第四三二號裁判所警視廳北海道廳府縣(東京府) 海軍軍人軍屬ノ犯罪者ヲ逮捕シタル時ハ從來橫須賀鎮守府軍法會議へ送致シ來リタル處明治二十二年七月東京吳佐世保ノ各地ニ軍法會議開設後モ仍ホ橫須賀へ向送致シ來リ候モノ有之趣自今海軍軍法會議ノ管轄ニ屬スル犯罪者ヲ逮捕シ或ハ其自首ヲ受ケタル時ハ其最近ノ軍法會議若クハ被告人ノ所屬長ニ送致スヘキ儀ト心得ヘシ 但シ海軍諸官ヨリ逮捕ヲ囑托シタル者ハ其囑托シタル諸官ニ送致スル義ト心得ヘシ

右訓令ス

○獸醫及獸類傳染病豫防規則ニ違犯ノ者處分ノ節農商務省へ通牒方 二十年十二月二十三日 司法省訓令第十號裁判所 十八年八月第二十八號布告及十九年九月第十一號農商務省令ニ依リ今般農商務省ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付テハ自今獸醫免許規則第十四條並獸類傳染病豫防規則第十九條ノ犯罪其他刑法ニ正條アル獸醫ノ犯罪處斷致候節ハ其都度裁判宣告文牒本相添へ農商務省へ通知スヘシ

○犯罪又ハ犯則ニ依リ沒收ノ物件地方廳へ引繼處分方 十八年十一月二十六日 太政官達第六十三號府縣 裁判所ニ於テ犯罪又ハ犯則ニ依リ沒收シタル物件ハ自今都テ地方廳ニ引繼地方廳ニ於テ便宜之ヲ賣却スヘシ此旨相達候事

○犯罪又ハ犯則ニヨリ沒收シタル物件取扱手續 十九年四月十九日 大藏省訓令第三號北海道廳府縣 明治十八年十一月太政官第六十三號達犯罪又ハ犯則ニヨリ沒收シタル物件ハ左ノ手續ニ據リ取り扱フヘシ

第一項 裁判所ヨリ沒收物件引渡ノ通知ヲ得タルトキハ其物件受取ノ手續ヲ爲シ物件ノ性質ニ從ヒ得失ヲ量リ其廳ニ取寄セ又ハ其所在地ノ戶長ニ保管セシムヘシ

第二項 沒收ノ物件ハ裁判所ヨリ受取タル後三箇月以内ニ於テ公賣ニ付スヘシ但公賣ノ場所ハ物件所在ノ地ニ限ラス總テ適當ノ地ヲ選定スルモノトス

第三項 沒收物件中官廳ノ烙印アルモノハ公賣ニ付スル前其烙印ヲ削除スヘシ

第四項 公賣ノ方法ハ入札拂若クハ競賣ニ據ルヘシ

第五項 沒收ノ物件公賣ニ付スルモ買受人ナキカ若クハ代價相當ノ價格ニ達セサルトキハ公賣ヲ停止シ爾後三箇月以内ニ於テ更ニ公賣ニ付スヘシ

第六項 沒收物件中毀損腐敗ニ係リ若クハ物品輕微ニシテ公賣ニ付スルモ價值ナシト認ムルモノ或ハ運搬費置場敷料ヲ要シ公賣スルモ其得失相償ハサルモノ或ハ第五項期限内ニ於テ公賣ニ付スルモ買受人ナク若クハ代價不相當ニシテ公賣ヲ停止シタルモノハ適宜處分スヘシ

第十八類 第二章 治罪

千八十一

第七項 没收物件中其物品取扱上特ニ成規アルモノハ各主管廳ノ指揮ニ據リ之ヲ處分スヘシ

○司法警察規則附錄 十九年九月二十九日 太政官達第百二十八號(使)府縣

本年一月第十四號ヲ以テ相達候司法警察規則附錄別紙之通相定候條此旨相達候事

(別紙)

司法警察規則附錄

外國公使及ヒ公使館屬員ノ事

第一條 外國公使ハ我國憲ヲ以テ羈縻スヘカラサル通義ナレハ是ヲ擴充スル時ハ其家屬並

ニ公使館屬員 書記官隨員公使ノ僕隸書記官ノ家族及ヒ書記官ノ僕隸等總テ公使館ノ名籍ニアル者ヲ云フ 及ヒ其家屋車馬迄モ同様ナリト思量スヘシ

第二條 內國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ備ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間ハ公使館ノ屬隸ト

見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ糾問セサルヲ得サル時ハ外務

省ヲ歷テ公使館ヘ報知シ其唯諾ヲ待チテ後引出スヘシ尤其者ヲ處分スルハ公使ノ關係ス

ルコニアラス

第三條 內國人各公使館及書記官ニ備ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省ヘ

届出外務省ハ其届書ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置ヘシ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ

置ヘシ若シ途中ニテ或ル人ヲ引留其名籍ノ在ル處ヲ聞糺ス時公使館ニ備ハレ中ト稱スル

時其簿記ト校照シ愈相違ナキハ一旦公使館迄同道シ照會ヲ遂ケタル後其處分ヲ施スヘシ

若其姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述ル時ハ公使館ヘ同道シ

右ノ如ク處置スヘシ

但シ重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

第四條 外國公使館内ハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入ルヘカラス若シ重

科ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逃シテ門内ヘ匿入セシ等毫髮ノ間モ猶豫スヘカラス

時ハ其把門者ニ告ケ其館主ノ許可ヲ受ケテ後館内又ハ邸内ヲ探索スヘシ

第五條 右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外屬員ハ勿論馬車家畜ノ未ニ至ル迄一切手ヲ觸

ルヘカラス若シ職務上止ムヲ得ヌ手ヲ降スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合セ而シテ其

處分ヲ爲スヘシ

外國公使屬員罪ヲ犯シ並犯罪ノ內國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條 外國公使館ノ屬員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火強姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使

館外ニテ現ニ行ヲ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ猶豫ナ

シカタク時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館ヘ報知ノ上同館ヘ引渡シ又外務省ヘ報知シ

是ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申スヘシ決シテ手鎖捕縛等ノ事アル可ラス或ハ屬員ノ內國

人ハ引留置即刻公使館ヘ報知シ改メテ彼レヨリ引渡ヲ受クルノ手順ヲ施シ又コレヲ外務

省ニ申ヘシ

第七條 犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ白狀ヨリ明了ニ其罪科ノ知レタル內國人現ニ公使館

内ニ備ハレテ公使館ニ住居スル時ハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ヘ報知シ同館ヘ照會ヲ乞館主ニ引渡シヲ要求シ其人ヲ受取リテ後之ヲ捕縛ス可シ若シ館主之ヲ拒ムハ其旨ヲ猶外務省ヘ報知シテ其處分ヲ定ム可シ

○司法警察ニ關スル細則ヲ設ントスルトキ檢事ニ協議セシム
十九年四月三十日
司法省訓令第一號
警視廳(東) 道府ヲ除ク
爾後各地方ノ便宜ニ基キ司法警察ニ關スル細則ヲ設ケントスルトキハ其地始審裁判所檢事ト協議ノ上告達スヘシ
右訓令ス

○憲兵將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡查ト同ク司法警察ノ事務ヲ行

ハシム
十五年五月十三日
布告第貳拾三號

憲兵ヲ設置シタル地方ニ於テハ其將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡查ト同シク司法警察ノ事務ヲ行ハシム

右奉 勅旨布告候事

○司法警察上巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシム
十四年十月十日
司法省布達甲第五號

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル儀モ可有之候條此旨布達候事

○司法警察上巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムルヲ許ス
十四年十月十日
司法省達丙第拾三號
警視廳(東) 道府ヲ除ク
新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ不得止場合ニ於テハ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシム不苦候條此旨相達候事

但代理ヲ命スヘキ巡查ノ姓名ハ豫シメ其地方警署并違警罪裁判所ヘ通牒致シ置候儀ト心得ヘシ

○巡查ニテ警部代理ノ資格ヲ以テ取扱タル事件ニ付テハ警部同様ノ取扱ヲ爲サシム
十六年二月二十四日
司法省達丁第九號
大審院裁判所

明治十四年十一月當省甲第五號布達ニ據リ巡查ニ於テ警部代理ノ資格ヲ以テ取扱事件ニ付テハ裁判上渾テ警部同様ノ取扱ヲ爲スヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ取消候事

○陸軍省所管ノ軍人軍屬脫走之者捕縛遞送方
五年六月二十九日
布告第百九拾五號

陸軍省所管ノ軍人軍屬脫走之者各府縣ニ於テ見當リ候ハ、致捕縛府縣送リヲ以テ其地方所管ノ鎮臺本營或ハ分營ヘ護送可致候此旨相達候事

○逃亡犯罪人引渡條例
二十年八月三日
勅令第四十二號

朕逃亡犯罪人引渡條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十二號

逃亡犯罪人引渡條例

第一條 本條例ニ於テ締約國ト稱スルハ既ニ帝國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シ若クハ今後締結スル外國ヲ謂フ

引渡犯罪ト稱スルハ外國ト締結シタル犯罪人引渡條約ニ掲クル犯罪ヲ謂フ

逃亡犯罪人ト稱スルハ締約國ノ管轄内ニ於テ犯シタル引渡犯罪ニ付告訴發シ受ケ若クハ有罪ノ宣告ヲ受ケタル帝國臣民外人ニシテ帝國ノ管轄内ニ逃避シタル者又ハ逃

避シタルノ嫌疑若クハ逃避セントスルノ嫌疑アル者ヲ謂フ但左ノ場合ニ於テハ帝國臣民ヲ包含ス

一 帝國ト請求國トノ犯罪人引渡條約ニ交互其臣民ノ引渡ヲ爲スヘキ條款アルトキ
二 犯罪人引渡條約ニ交互ノ任意ヲ以テ其臣民ノ引渡請求ニ應スルコトアルヘキ旨ノ

條款アリ且請求國ニ於テ同様ノ場合ニハ自國ノ臣民ヲ引渡スヘキ旨ヲ申出テタルトキ

第二條 締約國ヨリ逃亡犯罪人ノ引渡請求アリ之カ引渡ノ目的ヲ以テ其手續ヲ爲ストキハ本條例ニ定ムル所ノ條款ニ據ルヘキモノトス

第三條 左ノ場合ニ於テハ逃亡犯罪人ヲ引渡スコトヲ得ス

一 引渡ノ請求ニ係ル者ノ所犯政事上ノ犯罪ナルトキ

二 引渡ノ請求ハ實際政事上ノ犯罪ニ付審問シ若クハ處刑セントスルノ目的ニ出テタル旨ヲ本人ニ於テ證明シタルトキ

第四條 逃亡犯罪人其引渡請求ニ係ル犯罪外ノ事件ニ付帝國内ニ於テ告訴告發ヲ受ケ又ハ處刑中ナルトキハ無罪又ハ刑期滿限若クハ其他ノ事由ニ因リ釋放セラレタル後ニアラサレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

第五條 帝國ト外國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シタルトキハ逃亡犯罪人ノ犯事其締約以前ニ係ルト雖モ該締約國ノ請求ニ應シ其引渡ヲ爲スコトアルヘシ

第六條 引渡犯罪ニ付帝國裁判所ニ於テ締約國裁判所ト均シク裁判權ヲ有スト雖モ若シ

司法大臣ノ意見ニ於テ其審判ヲ便ナラシメンカ爲メ逃亡犯罪人ノ引渡ヲ可トスルトキハ之ヲ引渡スコトアルヘシ

第七條 本條例ニ據リ發シタル總テノ逮捕狀ハ帝國内何レノ地ニ於テモ効力アルモノトス

第八條 一逃亡犯罪人ヲ二國以上ノ締約國ヨリ各其國ニ於テ犯シタル罪ノ爲メ引渡請求ヲ爲シタルトキハ最初請求ヲ爲シタル國ニ之ヲ引渡スヘシ但其請求ヲ爲シタル締約國間ニ特別ノ約束若クハ協議アル場合ハ此限ニ在ラス

第九條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一名若クハ二名以上ノ上席檢事ニ命シ逃亡犯罪人ヲ假ニ逮捕スル爲メ附録第一號書式ニ依リ假逮捕狀ヲ發セシムルコトヲ得

外務大臣ハ締約國ヨリ相當ノ順序ヲ經由シ書面又ハ電信ヲ以テ逃亡犯罪人ヲ逮捕スル爲メ既ニ逮捕狀ヲ發シタルコトノ通知ト其引渡ハ正式ニ依リ請求スヘキ旨ノ保證トニ接シタル後ニ限リ本條ノ請求ヲ爲スヘシ

第十條 假逮捕狀ニ據リ逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル場合ニ於テ二月ヲ過キサル相當ノ期限内ニ其引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ釋放スヘシ但此場合ニ於テ逮捕シタル者ヲ釋放スルモ再ヒ之ヲ逮捕シ及引渡スコトヲ妨ケサルモノトス

假逮捕狀ニ據リ逮捕シタル者ノ引渡請求アリタルトキハ更ニ附録第二號書式ノ逮捕狀ヲ發シ假逮捕狀ト交換スヘシ

第十一條 第九條ニ定メタル例外ノ場合ヲ除クノ外ハ引渡請求ヲ爲シタル國トノ條約ニ

定メタル相當ノ順序ヲ經由シ左ノ書類ヲ添ヘ引渡ノ請求アリタル後ニアラサレハ何人ヲモ引渡ノ目的ヲ以テ逮捕スルコトヲ得ス

一 告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其所犯ニ付訴アリタル國ノ相當官吏ニ於テ發シタリト認メ得ヘキ逮捕狀ノ公寫及該逮捕狀ヲ發スルノ根據ト爲リタル口供書若クハ陳述書ノ公寫

二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ證印アル宣告書ノ寫

第十二條 外務大臣引渡請求書ニ接シ犯罪人引渡條約ノ條款ニ適合シタリト思量スルトキハ該請求書ニ其關係書類ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ送付スヘシ

司法大臣本條ノ請求ニ接シ妥當ノ事由アル請求ト思量スルトキハ逃亡犯罪人ノ所在又ハ其到著スヘント認ムル地ノ上席檢事ニ命シ逮捕狀ヲ發セシムヘシ

第十三條 上席檢事前條ニ掲ケタル司法大臣ノ命令ニ接シタルトキハ附録第二號書式ニ依リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十四條 請求ニ係ル逃亡犯罪人ヲ逮捕シ若クハ假逮捕シタルトキハ其逮捕狀ヲ發シタル上席檢事又ハ之ヲ逮捕シタル地ノ上席檢事ニ引渡スヘシ

上席檢事ハ逃亡犯罪人逮捕ノ顛末ヲ直ニ司法大臣ニ具申スヘシ
司法大臣上席檢事ノ具申ニ接シタルトキ引渡請求書アレハ其寫及附屬書類ヲ速ニ該檢

事ニ送付スヘシ但被告人ヲ釋放スヘキノ命令ヲ發スルトキハ此手續ヲ爲スニ及ハス

第十五條 告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及引渡請求書ニ附屬セル書類ノ確實公正ナルコトヲ認定スヘシ但上席檢事該書類ノミニテハ證據不充分ナリト認ムルトキハ仍ホ被告人ノ犯罪ニ對スル證據ヲ取ルコトヲ得有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及其引渡ヲ請求シタル締約國ノ相當裁判所ニ於テ宣告ヲ爲シタルノ確實ナルコトヲ認定スヘシ

第十六條 上席檢事被告人ノ訊問ヲ結了シタルトキハ訊問書ニ其處分方ニ關スル意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ具申スヘシ但上席檢事ハ之ト共ニ引渡請求書寫及附屬書類ヲ返却スヘシ

司法大臣該檢事ノ具申ニ接シタルトキハ附録第三號書式ニ依リ引渡狀ヲ發スルカ又ハ逮捕シタル者ヲ釋放スヘシ

第十七條 逃亡犯罪人ハ逮捕狀ニ據リ逮捕セラレタル後二月以上留置セラレハコトナカルヘシ

第十八條 司法大臣ハ左ノ場合ニ限リ引渡狀ヲ發スルコトヲ得

一 引渡犯罪ニ付告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ若シ其告訴告發ヲ受ケタル罪ヲ帝國内ニ於テ犯シタルモノトセハ帝國ノ法律ニ據リ被告人ヲ審判ニ付スルニ充

分ナル犯罪ノ證據アリト認メタルトキ
二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ相當裁判所ニ於テ其宣告ヲ爲シタルコトヲ認メタルトキ

第十九條 闕席裁判ニ由リ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其引渡ヲ請求シタル締約國トノ間ニ特別ノ約款アルニ非サレハ本條例ニ於テハ之ヲ告訴發ヲ受ケタル者ト爲シ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ト認メス

第二十條 逮捕シタル者ヲ釋放シ又ハ其引渡ノ爲メ引渡狀ヲ發シタルトキハ司法大臣ハ引渡請求書及附屬書類ニ其執行シタル手續及其理由ノ略記ヲ添ヘ之ヲ外務大臣ニ返付スヘシ

第二十一條 引渡狀ヲ發シタル後何人ヲモ一月以上留置スルコトヲ得ス但此期限内ニ之ヲ帝國外ニ引取ラサルトキハ請求國相當官吏ニ於テ正當ノ事由ヲ示スニアラサレハ釋放スヘシ

第二十二條 逃亡犯罪人ヲ引渡ストキハ其逮捕ノ際差押ヘタル本人ノ携帶品ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其引渡ノ節本人ト共ニ悉ク之ヲ交付スヘシ

第二十三條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一外國ヨリ他ノ外國ニ引渡シタル者ノ帝國内海陸ノ通行ヲ認可スルコトヲ得
本條ノ請求ハ引渡ヲ受クヘキ國ノ政府ヨリ引渡狀ノ公寫ヲ添ヘ相當ノ順序ヲ經由シタル照會書ヲ外務大臣ニ於テ受領シタルトキニ限ル但帝國ト請求國トノ間ニ特別ノ約款

ナキトキハ該照會書ノ外仍ホ請求國ノ政府ニ於テ之ト同一ノ場合即チ第三國ヨリ帝國ニ逃亡犯罪人ヲ引渡シタル場合ニ該請求國內海陸ノ通行ヲ均シク認可スヘキノ保證ヲ爲シタルトキニ限ル
附錄

第一號書式

假逮捕狀		逮捕セラルヘキ者ノ氏名 年齢本責任所	
司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此假逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、、、ニ於テ、、、ノ犯罪ニ付 ^{告訴} 有罪ノ宣告ヲ受タル、、、國ノ逃亡犯罪人、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也			
檢事局 明治 年 月 日 印	上席檢事署名捺印	裁判所書記署名捺印	
逮捕ヲ受タル者ノ署名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ	執行ノ年月日時	執行ノ場所	執行ノ手續
家宅ヲ搜索シタルトキハ其實ヲ記スヘシ	右ノ通執行候也	明治 年 月 日	巡查又ハ憲兵署名捺印

式書號二第

割印

(此狀ヲ送達シ一葉ヲ受取人ニ渡スヘシ)

英譯文ヲ此狀ノ裏面ニ記スヘシ

千九十二

假逮捕狀

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本質住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此假逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、、、ニ於テ、、、ノ犯罪ニ付^{告訴}有罪ノ宣告ヲ受タル、、、國ノ逃亡犯罪人、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

檢事局
明治 年 月 日

上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

逮捕ヲ受タル者ノ署名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ	執行ノ年月日時	執行ノ場所	執行ノ手續	家宅ヲ搜索シタルトキハ其事實ヲ記スヘシ

右ノ通執行候也
明治 年 月 日
巡查又ハ憲兵署名捺印

逮捕狀

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本質住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、、、ニ於テ、、、ノ犯罪ニ付^{告訴}有罪ノ宣告ヲ受タル、、、國ノ逃亡犯罪人、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

檢事局
明治 年 月 日

上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

逮捕ヲ受タル者ノ署名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ	執行ノ年月日時	執行ノ場所	執行ノ手續	家宅ヲ搜索シタルトキハ其事實ヲ記スヘシ

右ノ通執行候也
明治 年 月 日
巡查又ハ憲兵署名捺印

割印

(此狀ヲ送達シ一葉ヲ受取人ニ渡スヘシ)

英譯文ヲ此狀ノ裏面ニ記スヘシ

千九十三

第十八類 第二章 逃亡犯罪人

逮捕状

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本質住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ
據リ此逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、
テ、
國ノ逃亡犯罪人、
ル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

檢事局
明治 年 月 日
ノ 印

上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

逮捕ヲ受タル者ノ署
名若シ之ヲ得ル能ハ
サルトキハ其理由ヲ
記スヘシ

執行ノ 年月日時	執行ノ 場所	執行ノ 手續	家宅ヲ搜索シタルト キハ其事實ヲ記スヘ シ
右ノ通執行候也 明治 年 月 日			

巡查又ハ憲兵署名捺印

引渡狀

引渡サルヘキ者ノ氏名
年齢本質住所

逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此引渡狀ヲ發シ明

執行ノ
年月日時

執行ノ 年月日時

第三號書式

治、年、月、日附ノ逮捕狀ニ據リ、
國ニ於テ、
亡犯罪人トシテ明治、年、月、日逮捕
シタル右、
取人、
内ニ送致シ相當官吏ニ交付スルコトヲ命スル
モノ也

明治 年 月 日 司法大臣、
ノ 印

執行シタル 場所	受取人ノ 署名	右ノ通執行候也 明治 年 月 日
		引渡サルヘキ 者ヲ留置シタル ル監獄ノ典獄 ノ署名捺印

割印

(此狀ヲ送達シ一
葉ヲ受取人ニ渡
スヘシ)

英譯文ヲ此狀ノ
裏面ニ記スヘシ

引渡狀

引渡サルヘキ者ノ氏名
年齢本質住所

逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此引渡狀ヲ發シ明

執行ノ
年月日時

執行ノ 年月日時

第十八類 第二章 逃亡犯罪人

治、年、月、日附ノ逮捕狀ニ據リ、
 國ニ於テ、ノ犯罪ニ付告訴有罪ノ宣告ヲ受タル逃
 亡犯罪人トシテ明治、年、月、日逮捕
 シタル右、ヲ受取コトヲ相當ニ命セラレタ
 ル、ニ之ヲ引渡スヘキコトヲ命ス因テ該受
 取人、ニ於テ右、ヲ監禁シ、國ノ管轄
 内ニ送致シ相當官吏ニ交付スルコトヲ命スル
 モノ也

明治 年 月 日 司法大臣、
 印

執行シタル	場所	受取人ノ	署名
右ノ通執行候也			
明治 年 月 日	引渡サルヘキ者ヲ留置シタル監獄ノ典獄ノ署名捺印		

第十九類

第一章 監獄 看守監獄傭人

○監獄則 二十二年七月十二日 勅令第九十三號

朕監獄則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十三號

監獄則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

- 一 集治監 徒刑流刑及舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
- 二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス
- 三 地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及婦女ニシテ徒刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
- 四 拘置監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス
- 五 留置場 刑事被告人ヲ一時留置スル所トス但警察署内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ禁錮ニ換フル者及拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得
- 六 懲治場 不論罪ニ係ル幼者及瘡痍者ヲ懲治スル所トス

第十九類 第一章 監獄

第二條 監獄ハ内務大臣ノ監督ニ屬ス

第三條 集治監北海道ニ在ルモノヲ除ク及假留監ハ内務大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ警視總監北海道廳

長官府縣知事東京府ヲ除ク之ヲ管理ス

第四條 内務大臣ハ隨時監獄巡閱官ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監北海道廳長官府縣知事東京府ヲ除クハ每年少クトモ一回所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル拘留監ヲ巡視スヘシ

檢察官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル監獄ヲ巡視スヘシ

第五條 府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ巡見スルコトヲ得

第六條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ令狀又ハ宣告書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收證

ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ

入監セシムルコトヲ得ス

第七條 在監ノ婦女其子ヲ乳養セント請フトキハ其齡滿三歳ニ至ル迄之ヲ許ス

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ典獄悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ

第九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シ監獄園内ニ於テ避災ノ手段ナシト考定スルトキハ典

獄ハ其狀況ニ依リ在監ノ囚人懲治人及刑事被告人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシムヘシ若

シ押送スルノ違ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放ニ遭ヒタル者ハ其時ヨリ二十四時以内ニ監署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十條 滿期ノ者ヲ釋放スルハ其滿期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

第十一條 囚人ハ各罪質ニ從テ嚴ニ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一 滿十二歳以上十六歳未滿ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

三 滿二十歳以上ノ者

四 滿十六歳以上二十歳未滿再犯ノ者

五 滿二十歳以上再犯ノ者

第十二條 懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

一 滿八歳以上十六歳未滿ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

三 滿二十歳以上ノ者

第十三條 刑事被告人ハ各罪質ニ從テ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異

ス

一 滿十二歳以上十六歳未滿ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

三 滿二十歳以上ノ者

第十四條 地方監獄拘留監懲治場ノ一區畫内ニ在ルモノハ墻壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第十五條 凡ソ監獄ハ男監女監ノ別ヲ嚴隔スヘシ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ男ト女トヲ分チ時宜ニ依

リ戒具ヲ用フルコトヲ得但懲治人ニハ戒具ヲ用ヒス

第十七條 定役ニ服スヘキ囚人ノ作業ハ毎囚ノ體力ニ應シテ之ヲ課シ一日ノ科程ヲ定メテ

服役セシムヘシ但科程ノ標準ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

一月一日 元始祭

孝明天皇祭 紀元節

春季皇靈祭 神武天皇祭

秋季皇靈祭 神嘗祭

天長節 新嘗祭

十二月三十一日

父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日免役ス

第十九條 無定役囚ニシテ監獄圍内ニ於テ自ラ作業ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許シ作業ノ

種類ハ典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準スルコトヲ得

第二十條 懲治人ニハ毎日五時以内農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

第二十一條 役場ハ男女ノ別ヲ嚴隔シ仍ホ定役囚無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ設ケ

其中ニ就キ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別スヘシ

第二十二條 定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分

シテ重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ之ヲ十分シテ其六ヲ與ヘ其餘分

ハ監獄ノ費用ニ供ス定役ニ服スル囚人ニシテ科程外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦之ニ準ス

第二十三條 前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ典獄之ヲ領置スヘシ

第二十四條 囚人懲治人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿

一箇年ヲ經テ之ヲ受クヘキ者ナキトキハ監獄慈惠ノ用ニ充ツ刑死者死亡者ノ領置貨物ニ

シテ受クヘキ者ナキトキモ亦同シ

第二十五條 囚人及懲治人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充ン

ト請フトキハ典獄其事情ヲ取糺シテ之ヲ許可スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘシ

第二十六條 囚人及懲治人ノ衣服臥具ハ之ヲ貸與ス但拘留囚ハ自衣ヲ著スルコトヲ得

第二十七條 刑事被告人ノ衣服ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請

フ者アルトキハ之ヲ許ス赤貧ニシテ衣類ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第二十八條 囚人及懲治人一人一日ノ食糧

一 下白米十分ノ四 七合乃至八合 最モ強キ作業ニ服スル者

麥 十分ノ六 第十九類 第一章 監獄

- 一同 五合乃至六合 作業ニ服スル者
- 一同 四合 作業ニ服セサル者
- 一同 三合 十歳未満ノ幼者
- 一 菜 金壹錢以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗黍薯ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得又麥粟稗黍等ニ乏シキ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ下白米ノミヲ給スルコトヲ得

刑事被告人モ亦前項ニ準ス但自費ヲ以テ食物ヲ購求セント請フトキハ之ヲ許ス

第二十九條 定役ニ服スル男囚ノ髪ハ常ニ之ヲ短薙シ髭鬚ハ常ニ剃除セシム

定役ニ服スル女囚ノ梳髪ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルコトヲ許サス

第三十條 囚人及懲治人ニハ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第三十一條 囚人十六歳未満ノ者及懲治人ニハ毎日四時以内讀書習字算術ヲ教フヘシ

第三十二條 囚人懲治人及刑事被告人現行ノ法律命令書ヲ看ント請フトキハ之ヲ許ス

囚人及懲治人書籍ヲ看ント請フトキハ修身宗教教育及營業ニ必要ナルモノニ限り之ヲ許ス

刑事被告人書籍ヲ看ント請フトキハ總テ之ヲ許ス但領置外ノ書籍ハ當該裁判官ノ承認ヲ經ヘキモノトス

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前二項ノ例ニアラス

第三十三條 囚人其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ一箇月ニ一次懲治人ハ一箇月ニ二次トシ共ニ

一通ニ過クルコトヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ典獄ニ於テ之ヲ必要ト認メタルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 囚人及懲治人ノ發スル信書又ハ外人ヨリ送リ來ル信書ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ

若シ書中不正不良ニ涉リ又ハ其改悛ヲ妨クルモノト認ムルトキハ之ヲ發贈付與スルコトヲ許サス但刑事被告人ニ係ル信書ハ總テ當該裁判官ノ檢閱ヲ經ヘキモノトス

第三十五條 囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄ノ立會ヲ以テ之ヲ許スヘシ但典獄ニ於テ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルトキハ之ヲ許サ、ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者ハ裁判言渡アル迄辯護人ヲ除クノ外其現在地ノ裁判所長ノ允許ヲ受クヘク密室監禁者ハ當該裁判官ノ允許ヲ受クヘシ

第三十六條 囚人懲治人及刑事被告人疾病ニ罹ルトキハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 囚人懲治人及刑事被告人死亡シタルトキハ典獄看守長醫師ノ立會ヲ以テ之ヲ檢視シ監署ニ於テ速ニ其本籍ニ通知スヘシ其遺骸ハ親屬若クハ故舊ノ之ヲ請フ者ニ下付ス但死亡後二十四時以内ニ在テ其下付ヲ請フ者無キトキハ監署ニ於テ之ヲ假葬シ其姓名ヲ記シタル木榜ヲ立ツヘシ

刑死者ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ五分時ヲ過サレハ其遺骸ヲ絞架ヨリ解下シ之ヲ埋葬シ若クハ下付スルコトヲ許サス

第三十八條 刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但書類書籍ハ當該裁判官ノ檢閲ヲ受クヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ他物ニ於テモ亦同シ

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前項ノ例ニアラス

第三十九條 囚人及懲治人ニハ現行ノ法律命令書並ニ書籍用紙印紙郵便切手貨幣及内務大臣ニ於テ許可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許サス但書籍ハ第三十二條ニ記載シタル制限ニ從フ

第四十條 囚人獄則ヲ謹守シ作業ニ勉勵シ且改悛ノ行爲アル者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

賞譽セシ者ハ之ヲ表スル爲メ賞表ヲ與ヘ獄衣ニ縫著セシムヘシ
賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ憑據ト爲スコトヲ得

第四十一條 賞表ヲ有スル囚人ハ其監房ヲ區別シテ尋常囚人ト別異シ賞表ノ多寡ニ應シテ優遇ヲ爲スヘシ

第四十二條 囚人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ役場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時間坐作ノ役ヲ課

ス

二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

三 闇室 闇室ニ入レ一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

屏禁ハ二月以内減食ハ一週日以内闇室ハ五晝夜以内トス

第四十三條 囚人十六歳未滿ノ者及懲治人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨慎 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減ス

獨慎ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第四十四條 減食若クハ闇室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ其處罰中ハ醫師ヲシテ毎日之ヲ視察セシメ醫師ニ於テ身體ニ妨アルヲ證スルトキハ處罰ヲ中止スヘシ

第四十五條 無期徒刑ノ囚人重罪ヲ犯シ若クハ逃走シ又ハ獄舍獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ一年以上五年以下其他ノ輕罪ヲ犯シタルトキハ一年以上一年以下兩脚又ハ一脚ニ鈇ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鈇ニ貫キ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ所ニ下鍵ス其監房ニ在ルモ晝間ハ仍ホ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス
鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス九ハ索尾ニ屬シ地
上ヲ轉ハスモノトス若シ外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

第四十六條 施鈇中ノ者病ニ罹リ醫師ノ診斷ニ依リ鈇ノ解除ヲ必要トスルトキハ一時之ヲ
解除スルコトヲ得但解除中經過セシ日數ハ施鈇期限ニ算入セス

第四十七條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受ケタルトキハ其情狀ニ因リ賞表一箇又ハ數箇ヲ褫奪
スルコトアルヘシ

第四十八條 獄則ヲ犯シ罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ處罰中ト雖モ之ヲ免ス
ルコトヲ得

第四十九條 免幽閉ヲ受ケタル流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以内之ヲ拘置
スルコトヲ得

第五十條 囚人懲治人及刑事被告人司獄官吏ノ處置ニ對シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第四
條ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第五十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ內務大臣之ヲ定ム
第五十二條 此規則ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ適用セサルモノトス

○監獄則施行細則 二十二年七月十六日
內務省令第八號
監獄則施行細則左ノ通相定ム

監獄則施行細則

第一章 規程

第一條 此細則ニ於テ在監人ト稱スルハ囚人懲治人及刑事被告人ヲ云フ

第二條 新ニ入監スル者アルトキハ先ツ之ニ番號ヲ付シ一小房內ニ於テ通身ヲ検査シ了リテ名籍ニ其要項ヲ詳録シ仍ホ
房內揭示ノ事項ヲ説示スヘシ

第三條 各監房內ニハ在監人ノ遵守スヘキ事項ヲ揭示シ傍訓ヲ施シ解シ易カラシムヘシ其事項左ノ如シ

- 一 在監人ハ互ニ和順ヲ主トシ常ニ教令ヲ遵守スヘシ
- 一 教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正フスヘシ 刑事被告人ヲ拘禁スル
監房ニハ此項ヲ除ク
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及席壁厠間等ヲ掃除スヘシ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ハ唾ハキ及貯水ヲ濫用スヘカラス
- 一 房外ニ出タル時ハ他人ト手ヲ交ヘ又ハ濫リニ交談スヘカラス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話發聲又ハ濫リニ起歩スヘカラス但晝間ト雖故歌喧噪又ハ高聲ニ誦讀シ及隣房ヘ通聲交
談スヘカラス

一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ爭ヒ若クハ賭博類似ノ遊戯ヲナシ或ハ他人ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ル
カ如キ所爲アルヘカラス

一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ談話シ及服役セサル時間タリトモ部外ノ役場ニ至ルヘカラス
一 許可ヲ得スシテ物件ヲ受授貸借スヘカラス

一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通聲スヘシ

一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保シ看病人タル者ハ切實ニ之ヲ看護スヘシ
第四條 領置ノ貨物ハ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄之ニ證明スヘシ

第十九類 第一章 監獄

預置ノ貨物ハ本人釋放又ハ假出獄免幽閉假出場ノ時之ヲ下付スヘシ

第五條 預置物品中保存ニ堪ヘ難キモノハ本人ヘ告知ノ上之ヲ賣却シテ其代金ヲ預置スルコトヲ得

第六條 入監中外人ヨリ送入タル貨物ニシテ預置スルモノモ亦第四條第五條ノ例ニ依ル

第七條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄之ヲ點檢シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

第八條 入監後出房セシメタル者ニ對シテハ還房ノ際通身ノ檢査ヲ爲スヘシ

第九條 通身ノ檢査ハ一人宛之ヲ爲シ他人ヲシテ見セシムヘカラス但役場教誨堂運動場及浴室等ヨリ一時多人數ヲ還房セシムル場合ハ此限ニ非ラス

第十條 男子ノ檢身ハ看守長臨監シ看守之ヲ行ヒ女子ニ係ルトキハ看守長臨監シ女監取締之ヲ行フヘシ

第十一條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監獄ノ内外ヲ巡視スヘシ但看守長ノ巡視ハ一晝夜三回以上タルヘシ

第十二條 典獄ハ看守及女監取締ノ警守受持場ヲ定メ晝夜絶ヘス之ヲ巡警セシムヘシ

第十三條 典獄ハ看守長及看守女監取締ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシムヘシ但押送途中ニ在テハ押送官吏之ヲ録シテ典獄ニ差出スヘシ

第十四條 看守長ハ毎日二回以上各監房ニ就キ在監人ノ員數ヲ點檢シ毎日一回以上監房ヲ檢査スヘシ

第十五條 囚人及懲治人ノ放免期日ハ入監後典獄直ニ之ヲ調査シテ名籍簿ニ記入シ仍ホ本人ニ告知スヘシ

第十六條 囚人及懲治人ニシテ釋放スヘキ者アルトキハ典獄名籍簿ニ照シテ其氏名等ヲ間糺シ釋放スル旨ヲ言渡スヘシ

刑事被告人ニシテ放免保釋及責付スヘキ者アルトキモ亦同シ

第十七條 預置ノ貨物ヲ下付スルトキハ典獄其名數ヲ領置簿ニ照シテ其旨ヲ記シ受取人ヲシテ證印セシムヘシ

第十八條 刑事被告人ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲スルコトヲ得サラシメ裁判所又ハ他監ニ引致ノトキモ同行セシムルコトヲ得ス

第十九條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ宣告書其他必要ノ文書及領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ

第二十條 在監人押送ノ際送致スル貨物ハ典獄ニ於テ目錄ヲ作り其貨物並ニ目錄ハ押送官吏ヲシテ保管セシムヘシ但金錢ハ破綻ノ愛ナキ様嚴緘シ之ニ封印ヲ捺スヘシ

第二十一條 特赦アリタルトキハ典獄ハ速ニ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務大臣ニ申報スヘシ

第二十二條 特赦免幽閉假出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ許可ノ監署ニ達シタル時ヨリ二十四時以内ニ之ヲ爲スヘシ

假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者ニハ典獄其證票ヲ與ヘテ最近ノ警察署ヘ護送スヘシ

第二十三條 特赦免幽閉假出獄ヲ申渡シ又ハ賞表ヲ授與スルハ別ニ定ムル方式ニ依ル但賞表ハ免役日若クハ日曜日ニ於テ之ヲ與フヘシ

第二十四條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ居住セシメ典獄之ヲ監督スヘシ但土地家屋ナキ者ニハ之ヲ貸與スヘシ

已メヲ得サル事故アリテ一時限外ニ出シテ請フトキハ典獄其事由ヲ取糺シテ許可スルコトアルヘシ

第二十五條 免幽閉中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上免幽閉ヲ爲シタル所ノ監獄ニ於テ直ニ其刑ヲ執行スヘシ

第二十六條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キテ同居シ又ハ結婚セント請フトキハ典獄其生計ノ方法ヲ取糺シテ許可スヘシ

第二十七條 假出獄中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上現ニ之ヲ管束スル所ノ典獄ニ於テ假出獄ノ停止ヲ言渡シ證票ヲ取上ケ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務司法兩大臣ニ申報スヘシ

甲地ニ於テ假出獄ヲ許サレタル者ヲ乙地ニ於テ停止シタルトキハ乙地典獄ヨリ其取上タル證票ヲ甲地典獄ニ送致シテ其旨ヲ通知スヘシ

前項ニ依リ乙地ニ於テ假出獄ヲ停止シタルトキハ集治監ニ入ルヘキ者ヲ除クノ外其地監獄ニ拘禁シ前刑後刑トモ乙地ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十八條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ他ノ者ト別異シ一房ニ一名ヲ拘禁シテ特ニ戒護ヲ嚴ニスヘシ
第二十九條 死刑ノ執行ハ午前十時ヲ過ルヲ得ズ其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ
第三十條 死刑ヲ執行スヘキ者同時ニ二人以上アルトキハ之ニ前後ヲ付シ一人宛執行シ其間他ノ受刑者ヲシテ刑場ニ入ラシムヘカラス

第三十一條 死刑ハ受刑者自衣著用ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

第三十二條 監房ハ看守長ノ立會アルニアラサレハ開扉スルコトヲ得ズ但在監人ノ在ラサルトキハ此限ニ在ラス

第三十三條 四人ノ監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得ズ但病室及拘留囚ノ監房ハ此限ニ在ラス

第三十四條 密室ハ拘留監ニ設クヘシ

開室ハ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セサラシムルヲ要ス

密室及開室ハ一室一人ヲ限リトス

第三十五條 接見室ハ監舎ノ首部ニ設クヘシ

第三十六條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ墻壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第三十七條 各監房ノ鑰匙ハ彼此適用スヘキ爲メ其製式ヲ同クスヘシ

第三十八條 監房ノ鑰匙ハ常ニ一定ノ場所ニ置キ看守長之ヲ監守スヘシ

第三十九條 看守所ニハ開室ヨリ鐵線ノ類ヲ通架シ置キ發病等ヲ報スルノ用ニ供スヘシ

第四十條 監獄ニハ防火具ヲ備ヘ置クヘシ

第四十一條 燈火ハ監房外ニ置キ在監人之ニ觸ルノ虞ナカラシムヘシ

第二章 役法及時限

第四十二條 定役ニ服スヘキ入監人アルトキハ典獄醫師ヲシテ其身體ヲ診視セシメテ強弱ヲ分子就業簿ニ記入シ其就役スヘキ業名ヲ指定スヘシ

第四十三條 男囚ノ監獄内ノ作業ハ春米瓦工煉化石工石工碎石鍛冶工油絞工耕耘木挽工抄紙工木工桶工鑿工炊事掃除ノ内ヲ撰ムヘシ

女囚ノ作業ハ紡績裁縫機織洗濯ノ内ヲ撰ムヘシ

右ノ外各地方ノ便宜ニ依リ他ノ作業ニ服役セシメントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ得ヘシ

第四十四條 男囚ハ碎石開墾採礦土方石工耕耘運搬若クハ監獄ノ用ニ限リ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得其外役ニ服セシムルトキハ鍊鐵ノ鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ晴雨ヲ問ハス笠ヲ用テ其面ヲ掩ハシムヘシ

外役ノ囚徒ハ一組十人以上二十人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム但島地ニシテ逃走ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テハ此割合ヲ變更スルコトヲ得

第四十五條 定役ニ服スヘキ者刑期五分ノ三ヲ經過シタルトキハ典獄ニ於テ現ニ其監獄ニ在ル所ノ作業ノ中ニ就キ出獄後自活ノ道ヲ得ヘキト認ムルモノヲ指定スヘシ但刑期一年未滿ノ者ハ此限ニ在ラス

第四十六條 定役ニ服スヘキ者ハ風雨積雪等ノ爲メ既定ノ作業ニ就ケシメ雖キトキト雖他ノ作業ニ就ケ休役セシムヘカラス

第四十七條 科程ノ了否ハ正午ト罷役前トニ於テ毎日二回之ヲ検査スヘシ

第四十八條 毎日囚人ヲシテ作業ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及看守女監取締點檢ヲナスヘシ還房セシムルトキモ亦同シ

第四十九條 在監人ノ起床ヨリ就寢ニ至ル迄ノ動作時限ハ別表ニ之ヲ定ム但作業ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ其時限ヲ伸縮スルコトヲ得

第五十條 起床還房就役罷役就寢其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム

第三章 工錢

第五十一條 各種ノ工錢ハ其他普通ノ傭工錢ニ照シ各自ノ技能ト就役時間トニ應シ一日若干ト定ムヘシ

第十九類 第一章 監獄

千百十一